

平成 23 年 度

# 専門科目教育要項

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科  
口腔保健衛生学専攻

## ま え が き

この教育要項は、口腔保健学科口腔保健衛生学専攻専門科目の授業を受ける学生の皆さんに、平成23年度に行われる予定の専門教育科目を示し、それらの授業計画および授業内容の概要を知らせるためのものです。

学生の皆さんが、本学における口腔保健学口腔保健衛生学専攻教育の内容を把握すると共に、充実した履修が行えるよう本要項を有意義に活用されることを希望します。

平成23年 4 月

歯学部口腔保健学科教育委員会

## 基本的理念

温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成する。

## 一般教育目標

- ・生命の尊厳と基本的な科学原理・概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
- ・基本的人権を尊重し、相手の心情と行動を理解して人と接する能力を身につける。
- ・社会における口腔保健・福祉の果たす役割とその重要性を理解する。
- ・心身の様々な状態を理解し、口腔保健に関する知識および技術を修得する。
- ・科学的探究心と問題解決能力を身につけ、生涯学習への意欲を培う。
- ・保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力を身につける。
- ・口腔保健の立場から国際貢献ができる能力を修得する。

## 歯学部長あいさつ

歯学部長 田上 順次

歯学部口腔保健学科では、温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成することを教育の基本理念に掲げています。日本で最初の口腔保健専門の学科としてスタートしましたので、学生の皆さんには歯科界の各方面から大きな期待が寄せられています。こうした社会的な責任を果たすためにも、最善と思われる専門課程のカリキュラムが組まれています。

非常に多くの科目がありますが、いずれも実践できなければ人々や社会に貢献することはできません。実習の時間が多いのも一つの特徴ですが、しっかりとした理論に支えられてこそその実習です。かなりタイトなカリキュラムですが、必ず得られるものも大きいはずです。既に教養課程でも自学自習の態度、問題認識、問題解決型のアプローチについては、PBL、テュートリアル教育などを通じて身につけてきたことと思います。もちろん専門教育においてもこうした手法は当然役立ちます。また、臨床実習の充実が本学の大きな特徴です。ここでは包括的な専門知識、コミュニケーション、チームアプローチなど、実際の患者さんとの接触を通して、得がたい時間を過ごすことになります。人々の健康で幸せな生活を実現するために、本当に役に立つ専門的知識と技術を実践・体得して、社会に貢献できる専門家になってください。

教員の先生方のほか、歯学科の先生方や外部の先生方も皆さんの教育を担当してまいります。いずれも業界のリーダーとして活躍する先生方ばかりです。こんなに素晴らしい将来の目標となる人物が身近にたくさんいらっしゃるのですから、積極的に先生方にアプローチして、少しでも多くのことを学んでください。さらに皆さんは4年制の口腔保健学科の卒業生として、将来は口腔保健学をリードして行く立場にあります。社会的に期待されるということはとても幸せなことです。この期待に応えることができるように充実した専門教育課程を過ごしてください。期待しています。

# 目 次

まえがき

基本的理念

一般教育目標

歯学部長あいさつ

東京医科歯科大学歯学部履修規則…………… 1

東京医科歯科大学歯学部試験規則…………… 9

学生周知事項等

歯科衛生士国家試験ならびに社会福祉士国家試験について…………… 13

学生周知事項…………… 16

スチューデントセンター（5号館2階）について…………… 18

保健管理センター（5号館2階）について…………… 18

1号館・2号館・7号館の管理、使用について…………… 19

附属病院内での注意事項…………… 20

視聴覚研修室について…………… 21

歯学部附属病院の機構…………… 22

湯島キャンパス案内…………… 24

1号館西5～8階平面図…………… 25

7号館平面図…………… 26

1号館の配置…………… 29

歯科棟の配置…………… 30

M & Dタワーの配置…………… 31

10号館の配置…………… 31

平成23年度歯学部口腔保健学科専門科目授業計画表…………… 32

歯学部口腔保健学科科目責任者連絡先一覧…………… 34

授業時間割…………… 34

第2学年 履修ユニット

科学英語Ⅰ…………… 35

科学英語Ⅱ…………… 37

人体の構造と機能Ⅱ…………… 39

歯・口腔の構造と機能…………… 42

病理学総論…………… 46

口腔病理学…………… 48

病原微生物と生体防御…………… 50

薬理・薬剤学…………… 52

関係法規・衛生行政…………… 56

口腔健康科学…………… 58

口腔保健衛生学原論Ⅱ…………… 60

保存系歯科医学	62
発達育成系・障害者歯科医学	65
口腔疾患予防学	68
顎口腔機能育成学	71
口腔疾患予防学実習	73
口腔健康統計学・情報処理論	77
口腔健康教育	80
口腔健康教育実習	82
食生活論	86
栄養指導	88
医学一般	90
生活習慣と疾患	93
口腔と全身の健康評価・臨床検査	95
臨床口腔保健衛生基礎学	98
歯科放射線学	100
歯科生体材料学	102
臨床口腔保健衛生基礎学実習	104
口腔保健衛生基礎科学実習	107
現代社会と福祉Ⅰ	110
現代社会と福祉Ⅱ	112
低所得者に対する支援と生活保護制度	114
障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ	116
障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ	118
児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ	121
児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	123
高齢者に対する支援と制度Ⅰ	125
相談援助の基盤と専門職	127

### 第3学年 履修ユニット

再建系歯科医学	129
外科系歯科医学	133
発達育成系・障害者歯科医学	136
先端歯周病予防学	138
口腔疾患予防学実習	140
医学一般	143
コミュニケーション論Ⅱ	145
ヘルスカウンセリング論	147
臨床口腔保健衛生基礎学実習	149
顎口腔機能訓練法	152
発達育成系口腔保健衛生臨床実習	154

成人口腔保健衛生臨床実習Ⅰ	157
地域口腔保健衛生臨地実習	160
特論（卒業研究）	162
高齢者に対する支援と制度Ⅱ	164
地域福祉の理論と方法Ⅰ	166
地域福祉の理論と方法Ⅱ	168
保健医療サービス	170
社会調査の基礎	172
相談援助の理論と方法	174
社会福祉相談援助演習	176
社会福祉相談援助実習	179
社会福祉相談援助実習指導	180

#### 第4学年 履修ユニット

社会保障論Ⅱ	183
ヘルスカウンセリング特論	185
介護概論	187
歯科口腔介護	190
顎口腔機能リハビリテーション	193
発達育成系口腔保健衛生臨床実習	195
成人口腔保健衛生臨床実習Ⅱ	197
高齢者口腔保健衛生臨床実習	200
障害者口腔保健衛生臨床実習	203
地域口腔保健衛生臨地実習	205
高齢者・訪問口腔保健衛生臨地実習	207
選択臨床・臨地実習	210
特論（卒業研究）	212
社会福祉援助技術現場実習	214
社会福祉援助技術現場実習指導	215

#### 編入4学年 社会福祉系ユニット

地域福祉の理論と方法Ⅱ	217
就労支援サービス	219
福祉行財政と福祉計画	221
福祉サービスの組織と経営	223
社会福祉相談援助実習	225
社会福祉相談援助実習指導	226

第1学年 履修ユニット

口腔保健と専門職	229
歯科衛生学概論 I	230
歯科衛生学概論 II	231
臨床体験実習	232
人体の構造と機能 I	233
栄養と代謝	234
公衆衛生学	235
社会保障 I	236

(2) 口腔保健学科専門科目学科課程表

① 平成22年度以降専門科目履修開始者

授業科目	ユニット名	2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
科学 英語 I	科学 英語 I	○					
科学 英語 II	科学 英語 II		○				
人体の構造と機能 II	人体の構造と機能 II	○	○				
疾病の成立過程と生体防御	病理学総論	○					
	口腔腔病理学		○				
薬理・薬剤学	薬理・薬剤学	○					
関係法規・衛生行政	関係法規・衛生行政	○					
現代社会と福祉 I	現代社会と福祉 I	○					
現代社会と福祉 II	現代社会と福祉 II		○				
社会保障論 II	社会保障論 II				○	○	
口腔健康科学	口腔健康科学	○					
口腔保健衛生学原論 II	口腔保健衛生学原論 II	○					
臨床歯科医学	保存系歯科医学		○				
	再建系歯科医学			○			
	外科系歯科医学			○			
	発達育成系・障害者歯科医学		○	○			
口腔疾患予防学	顎口腔機能育成学	○	○				
先端歯周病予防学	先端歯周病予防学			○			
口腔疾患予防学実習	口腔疾患予防学実習	○	○	○			
口腔健康統計学・情報処理論	口腔健康統計学・情報処理論		○				
口腔健康健康教育	口腔健康健康教育	○					
口腔健康教育実習	口腔健康教育実習	○	○				
食生活教育	食生活教育	○					
医学一般	医学一般		○	○			
口腔と全身の健康評価	生活習慣と疾患	○					
保健行動科学	口腔と全身の健康評価・臨床検査		○				
	コミュニケーション論 II			○			
ヘルスカウンセリング論	ヘルスカウンセリング論			○			
ヘルスカウンセリング特論	ヘルスカウンセリング特論					○	
臨床口腔保健衛生基礎学	臨床口腔保健衛生基礎学	○					
歯科放射線学	歯科放射線学						
臨床口腔保健衛生基礎学実習	臨床口腔保健衛生基礎学実習		○	○			
介護概論	介護概論			○			
歯科口腔介護	歯科口腔介護				○	○	
顎口腔機能訓練法	顎口腔機能リハビリテーション					○	
口腔保健衛生臨床実習	顎口腔機能訓練法					○	
	発達育成系口腔保健衛生臨床実習				○		
	成人口腔保健衛生臨床実習 I				○		
	成人口腔保健衛生臨床実習 II					○	○
地域口腔保健衛生臨床実習	高齢者口腔保健衛生臨床実習					○	○
	障害者口腔保健衛生臨床実習					○	○
地域口腔保健衛生臨床実習	地域口腔保健衛生臨床実習					○	○
高齢者・訪問口腔保健衛生臨床実習	高齢者・訪問口腔保健衛生臨床実習					○	○
選択臨床・臨床実習	選択臨床・臨床実習					○	○
口腔保健衛生基礎科学実習	口腔保健衛生基礎科学実習	○	○				
特論(卒業研究)	特論(卒業研究)				○	○	○
低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得者に対する支援と生活保護制度		○				
障害者に対する支援と障害者自立支援制度 I	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 I		○				
障害者に対する支援と障害者自立支援制度 II	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 II		○				
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 I	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 I	○					
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 II	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 II		○	○			
高齢者に対する支援と制度 I	高齢者に対する支援と制度 I		○				
高齢者に対する支援と制度 II	高齢者に対する支援と制度 II			○			
地域福祉の理論と方法 I	地域福祉の理論と方法 I			○			
地域福祉の理論と方法 II	地域福祉の理論と方法 II			○	○		
保健医療サービス	保健医療サービス				○		
就労支援サービス	就労支援サービス					○	
更生保護制度	更生保護制度						○
権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度					○	
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画						○
福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営						○
社会調査の基礎	社会調査の基礎			○			
相談援助の基盤と専門職	相談援助の基盤と専門職		○				
相談援助の理論と方法	相談援助の理論と方法			○			
社会福祉相談援助演習	社会福祉相談援助演習			○	○		
社会福祉相談援助実習指導	社会福祉相談援助実習指導				○	○	
社会福祉相談援助実習	社会福祉相談援助実習				○	○	

注) 選択科目は、年度によって開講しない場合がある。

放送大学単位互換制度利用科目については、履修時期が変更になる場合がある。

② 平成19～21年度専門科目履修開始者

授業科目	ユニット名	2年				3年				4年					
		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
		必修	選択												
科学英語Ⅰ	科学英語Ⅰ	○													
科学英語Ⅱ	科学英語Ⅱ				○										
人体の構造と機能Ⅱ	人体の構造と機能Ⅱ	○													
疾病の成立過程と生体防御	歯・口腔の構造と機能	○		○											
	病理学総論	○													
	口腔病理学			○											
薬理・薬剤学	薬理・薬剤学	○													
関係法規・衛生行政	関係法規・衛生行政	○													
社会福祉原論Ⅰ	社会福祉原論Ⅰ	○													
社会福祉原論Ⅱ	社会福祉原論Ⅱ		○		○										
社会保障論Ⅱ	社会保障論Ⅱ										○		○		
口腔健康科学	口腔健康科学	○													
口腔保健衛生学原論Ⅱ	口腔保健衛生学原論Ⅱ	○													
臨床歯科医学	保存系歯科医学			○											
	再建系歯科医学					○									
	外科系歯科医学					○									
	発達育成系・障害者歯科医学			○		○									
口腔疾患予防学	口腔疾患予防学	○													
顎口腔機能育成学	顎口腔機能育成学			○											
先端歯周病予防学	先端歯周病予防学						○								
口腔疾患予防学実習	口腔疾患予防学実習	○		○		○									
口腔健康統計学・情報処理論	口腔健康統計学・情報処理論			○											
口腔健康教育	口腔健康教育	○													
口腔健康教育実習	口腔健康教育実習	○		○											
食生活教育	食生活論	○													
	栄養指導	○													
医学一般	医学一般			○		○									
口腔と全身の健康評価	生活習慣と疾患	○													
	口腔と全身の健康評価・臨床検査			○											
保健行動科学	コミュニケーション論Ⅱ					○									
	ヘルスカウンセリング論					○									
ヘルスカウンセリング特論	ヘルスカウンセリング特論											○			
臨床口腔保健衛生基礎学	臨床口腔保健衛生基礎学	○													
	歯科放射線学			○											
	歯科生体材料学	○													
臨床口腔保健衛生基礎学実習	臨床口腔保健衛生基礎学実習	○		○		○									
介護概論	介護概論										○				
歯科口腔介護	歯科口腔介護										○	○			
顎口腔機能リハビリテーション	顎口腔機能リハビリテーション										○				
顎口腔機能訓練法	顎口腔機能訓練法							○							
口腔保健衛生臨床実習	発達育成系口腔保健衛生臨床実習								○		○				
	成人口腔保健衛生臨床実習Ⅰ									○					
	成人口腔保健衛生臨床実習Ⅱ											○			
	高齢者口腔保健衛生臨床実習												○	○	
	障害者口腔保健衛生臨床実習													○	○
地域口腔保健衛生臨地実習	地域口腔保健衛生臨地実習					○					○		○		
	高齢者・訪問口腔保健衛生臨地実習										○		○		
選択臨床・臨地実習	選択臨床・臨地実習										○		○		
口腔保健衛生基礎科学実習	口腔保健衛生基礎科学実習	○		○											
特論(卒業研究)	特論(卒業研究)										○		○		
公的扶助論	公的扶助論			○											
障害者福祉論Ⅰ	障害者福祉論Ⅰ					○									
障害者福祉論Ⅱ	障害者福祉論Ⅱ							○		○					
児童福祉論Ⅰ	児童福祉論Ⅰ	○													
児童福祉論Ⅱ	児童福祉論Ⅱ		○												
老人福祉論Ⅰ	老人福祉論Ⅰ			○											
老人福祉論Ⅱ	老人福祉論Ⅱ							○							
地域福祉論Ⅰ	地域福祉論Ⅰ							○							
地域福祉論Ⅱ	地域福祉論Ⅱ								○						
社会福祉援助技術論	社会福祉援助技術論					○		○							
社会福祉援助技術演習	社会福祉援助技術演習							○		○					
社会福祉援助技術現場実習	社会福祉援助技術現場実習										○		○		
社会福祉援助技術現場実習指導	社会福祉援助技術現場実習指導										○		○		

注) 選択科目は、年度によって開講しない場合がある。

(2) 口腔保健学科

① 平成22年度以降専門科目履修開始者

進級に関する事項	授 業 科 目
右の授業科目について、第2学年次末までに単位の取得もしくは試験に合格しなければ、第3学年次の授業科目を履修することができない。	科学英語Ⅰ、人体の構造と機能Ⅱ、疾病の成立過程と生体防御、薬理・薬剤学、関係法規・衛生行政、現代社会と福祉Ⅰ、口腔健康科学、口腔保健衛生学原論Ⅱ、口腔疾患予防学、口腔健康統計学・情報処理論、口腔健康教育、口腔健康教育実習、食生活教育、口腔と全身の健康評価、口腔保健衛生基礎科学実習、児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ、障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ、高齢者に対する支援と制度Ⅰ  (第2学年次に実施される授業を対象とする) 医学一般、口腔疾患予防学実習、臨床歯科医学、臨床口腔保健衛生基礎学
右の授業科目について、第3学年次前期までに単位の取得もしくは試験に合格しなければ、第3学年後期以降の授業科目を履修することができない。	医学一般、臨床歯科医学、口腔疾患予防学実習、保健行動科学、臨床口腔保健衛生基礎学、介護概論、地域福祉の理論と方法Ⅰ
右の授業科目について、第4学年次末までに単位を取得しなければ、卒業することができない。	歯科口腔介護、口腔保健衛生臨床実習、地域口腔保健衛生臨床実習、選択臨床・臨地実習、特論

② 平成19～21年度専門科目履修開始者

進級に関する事項	授 業 科 目
<p>右の授業科目について、第2学年次末までに単位の取得もしくは試験に合格しなければ、第3学年次の授業科目を履修することができない。</p>	<p>科学英語Ⅰ、人体の構造と機能Ⅱ、疾病の成立過程と生体防御、薬理・薬剤学、関係法規・衛生行政、社会福祉原論Ⅰ、口腔健康科学、口腔保健衛生学原論Ⅱ、口腔疾患予防学、口腔健康統計学・情報処理論、口腔健康教育、口腔健康教育実習、食生活教育、口腔と全身の健康評価、口腔保健衛生基礎科学実習、児童福祉論Ⅰ、老人福祉論Ⅰ</p> <p>(第2学年次に実施される授業を対象とする)</p> <p>医学一般、口腔疾患予防学実習、臨床歯科医学、臨床口腔保健衛生基礎学</p>
<p>右の授業科目について、第3学年次前期までに単位の取得もしくは試験に合格しなければ、第3学年後期以降の授業科目を履修することができない。</p>	<p>医学一般、臨床歯科医学、口腔疾患予防学実習、保健行動科学、臨床口腔保健衛生基礎学、障害者福祉論Ⅰ、地域福祉論Ⅰ</p>
<p>右の授業科目について、第4学年次末までに単位の取得しなければ、卒業することができない。</p>	<p>介護概論、歯科口腔介護、口腔保健衛生臨床実習、地域口腔保健衛生臨地実習、選択臨床・臨地実習、特論</p>

## 第2学年 履修ユニット

科目名	科学英語 I
ユニット名	科学英語 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	品田佳世子
授業担当者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

### 学習目標

- ・口腔保健に関連する基本的英語表現を身につける。
- ・口腔保健に関して、英語で意思疎通をする基礎的能力を身につける。

### 到達目標

- ・口腔保健関連の専門用語を英語で表現する。
- ・英会話で、予約対応、医療面接を行う。
- ・英語で歯科疾患についての説明を行う。
- ・英語でブラッシング、フッ化物の応用、シーラントを説明する。
- ・歯科、口腔保健関連の英文を読解し、内容を理解する。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	歯学の基本英語	歯科・口腔保健学で必要な基本的英語表現を学ぶ	品田佳世子
3, 4	予約対応、 医療面接	英会話で、相互に予約対応および医療面接のロールプレイを行う	品田佳世子
5, 6	全身疾患の既往や生活習慣	英会話で、相互に全身疾患の既往や生活習慣について聞く	品田佳世子
7, 8	歯周疾患について	英語で歯周疾患について相互に説明する	品田佳世子
9, 10	歯ブラシとブラッシング方法	英会話で、相互に歯ブラシやブラッシング方法を説明する	品田佳世子
11, 12	フッ化物の応用、シーラント	英語で、相互にフッ化物の応用、シーラントとその効果について説明する	品田佳世子
13	外国の歯科事情	外国の歯科事情について講義を聞く	品田佳世子

14, 15	英語の科学論文	英語の歯科、口腔保健に関する科学論文を読み、内容を理解する	品田佳世子
--------	---------	-------------------------------	-------

### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・相互のロールプレイの状況を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・教科書：最新歯科衛生士教本「歯科英語」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・参考書：丸ごと覚える歯科臨床英会話フレーズ集 川口陽子 監修・著 クインテッセンス出版

### 留意事項

- ・英語の辞書等は持参すること。
- ・事前に配布された資料中のわからない単語を調べ、声を出して読んで、予習をしておくこと。

### 担当教員の Office hour

品田佳世子 教授 火・金 16:30-18:30 shinada.ohp@tmd.ac.jp

科目名	科学英語Ⅱ
ユニット名	科学英語Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・選択 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	品田佳世子
授業担当者	留学生チューター
主な授業場所	歯学部演習室

### 学習目標

英語により情報発信を行い、世界の歯科医療・健康情報の把握と広い視野を持つ

### 到達目標

- ・英語で自己紹介、自分の趣味を表現する。
- ・英語で東京医科歯科大学の紹介を行う。
- ・英語で口腔保健学科や部活動について説明する。
- ・英語で日本の食べ物、観光地を紹介する。
- ・英語で日本の四季の特徴、日本人の特徴、日本文化を紹介する。
- ・英語で学校教育制度、歯学口腔保健学科の教育制度を説明する。
- ・英語で日本の医療保険制度の紹介を行う。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	グループ授業①	グループに分かれ、担当の留学生チューター（T A）①による母国の歯科の専門領域について英語の説明を聞く。自己紹介や大学、学科紹介、日本の紹介等を英語で行う。	留学生 T A ①
4-6	グループ授業②	グループ授業、留学生チューター（T A）②による母国の歯科の専門領域について英語の説明を聞く。自己紹介や大学、学科紹介、日本の紹介等を英語で行う。	留学生 T A ②
7-9	グループ授業③	グループ授業、留学生チューター（T A）③による母国の歯科の専門領域について英語の説明を聞く。自己紹介や学科紹介、日本の紹介等を英語で行う。	留学生 T A ③

10-12	グループ授業④	グループ授業、留学生チューター（T A）④による母国の歯科の専門領域について英語の説明を聞く。自己紹介や学科紹介、日本の紹介等を英語で行う。	留学生T A ④
13-15	グループ授業⑤	グループ授業、留学生チューター（T A）⑤による母国の歯科の専門領域について英語の説明を聞く。自己紹介や学科紹介、日本の紹介等を英語で行う。	留学生T A ⑤

### 評価方法

- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科英語」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・丸ごと覚える歯科臨床英会話フレーズ集 川口陽子 監修・著 クインテッセンス出版

### 留意事項

- ・英語の辞書等は持参すること。
- ・事前に与えられた課題を用意し、発表できるように、予習をしておくこと。

### 担当教員の Office hour

品田佳世子 教授 火・金 16:30-18:30 shinada.ohp@tmd.ac.jp

科目名	人体の構造と機能Ⅱ
ユニット名	人体の構造と機能Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2学年前期・必修2単位・30時間
科目・ユニット責任者	坂本裕次郎・杉本久美子（口腔基礎科学分野）
授業担当者	坂本裕次郎、杉本久美子（口腔基礎科学分野）、井関祥子（分子発生学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室・基礎科学実習室、医学部解剖実習室

### 学習目標

人体の正常な構造、機能と分子的基礎、ならびに発生、成長、加齢に伴う変化について学ぶことにより、生命現象が営まれるメカニズムを分子レベルから個体レベルに至るまで系統的に理解する。

### 到達目標

- ・ 生命における遺伝子の分子機構ならびに働きを説明する。（1年）
- ・ 生命の基本単位である細胞の構造、構成要素と働きを説明する。（1年）
- ・ 人体の発生、成長と発達を説明する。（1年）
- ・ 上皮組織、支持組織、筋組織および神経組織の構成成分、構造および機能を説明する。（1年）
- ・ 循環器系の構造と機能、および発生機序を説明する。（1年）
- ・ 血液の成分と働き、および造血器、リンパ網内系の構造と機能を説明する。（1年）
- ・ 運動器系の構造と機能、および発生、成長、加齢に伴う変化を説明する。（1年）
- ・ 感覚器系の構造と機能、および発生、成長、加齢に伴う変化を説明する。
- ・ 末梢神経系および中枢神経系の構造と機能、およびその発生、成長、加齢に伴う変化を説明する。
- ・ 呼吸器系の構造と機能、および発生、成長に伴う変化を説明する。
- ・ 泌尿器系の構造と機能、尿の生成機序を説明する。
- ・ 内分泌系の構造、機能、およびホルモンの作用を説明する。
- ・ 生殖器の構造と機能、および発生、成長、加齢に伴う変化を説明する。
- ・ 生体の恒常性維持機構（体温調節、体液組成および体液量の調節）を説明する。

### 授業計画 2学年前期・必修2単位・30時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	神経系の基本構造	神経系の構成要素、ニューロン（神経細胞）の構造、化学シナプスの構造	坂本裕次郎

2, 3	全身の神経系	全身の神経系の種類と走行	坂本裕次郎
4	神経系の発生	神経系の発生過程とその機構	井関祥子
5-8	神経系の働き	興奮伝導・興奮伝達のしくみ、神経伝達物質の働き 末梢神経系の構造と働き、中枢神経系の構成、脊髄の働きと脊髄反射、脳（大脳皮質、大脳辺縁系、間脳、小脳、脳幹ほか）の働き	杉本久美子
9	感覚器系の構造	感覚器の構造および感覚伝導路	坂本裕次郎
10	神経系・感覚器系の組織観察	神経系および感覚器系組織の顕微鏡観察	〃
11, 12	一般体性感覚、内臓感覚および特殊感覚	一般体性感覚、内臓感覚、視覚系の受容器・伝導路と機能、聴覚・平衡感覚の受容器と機能	杉本久美子
13	呼吸器系の構造	呼吸器系の構成と組織	坂本裕次郎
14	呼吸器系の発生	呼吸器系の発生過程とその機構	井関祥子
15	呼吸器系の働き	呼吸運動、ガス交換のしくみ、呼吸調節、肺気量の分画	杉本久美子
16, 17	内分泌系の構造と発生	内分泌系の構造と発生のしくみ	井関祥子
18, 19	ホルモンの働き	ホルモンによる恒常性維持、ホルモンの分泌と作用メカニズム	杉本久美子
20	呼吸器系・内分泌系の組織観察	呼吸器系・内分泌系組織の顕微鏡観察	坂本裕次郎
21, 22	生殖器の構造と発生	生殖器の構造と発生のしくみ	〃
23, 24	泌尿器系の構造と発生	泌尿器系の構造と発生のしくみ	井関祥子
25, 26	尿の生成と体液の調節	尿生成のメカニズム、排尿、体液量および体液組成の調節	杉本久美子
27	体温調節	発汗、体温調節機構	〃
28-30	人体解剖見学	医学部実習室における人体解剖の見学	坂本裕次郎

## 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

## 参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・「基礎歯科生理学」第5版 森本俊文、山田好秋編 医歯薬出版
- ・「解剖生理学」 高野廣子著 南山堂
- ・「図解生理学」第2版 中野昭一編 医学書院
- ・「カラーで学ぶ解剖生理学」ゲーリー・A・ティボドー、ケビン・T・パットン著 コメディカルサポート研究会訳 医学書院
- ・「標準生理学」第5版 本郷利憲、廣重力監修 医学書院

## 留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。
- ・解剖実習室で行われる授業では、白衣と上履きを着用すること。

## 担当教員の office hour

坂本裕次郎 講師 随時 y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp

杉本久美子 教授 木 16:00-18:00 ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp

井関祥子 教授 随時 s.iseki.emb@tmd.ac.jp

科目名	人体の構造と機能Ⅱ
ユニット名	歯・口腔の構造と機能
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・38 時間 } 5 単位 2 学年後期・必修・37 時間
科目・ユニット責任者	坂本裕次郎
授業担当者	坂本裕次郎、杉本久美子（口腔基礎科学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室・基礎科学実習室 医学部解剖学実習室

### 学習目標

顎・顔面・口腔領域の組織、器官の構造と機能およびその分子的基盤を学ぶとともに、それらの発生と成長について学び、顎・顔面・口腔領域の健康と全身の健康との関連について理解を深める。

### 到達目標

- ・ 口腔諸器官の構造、構成分子と機能および発生と成長について説明する。
- ・ 歯と歯周組織の形態と構成成分ならびに機能について説明する。
- ・ 歯と歯周組織の発生、成長過程を説明する。
- ・ 歯の石灰化の機序とカルシウム・リン代謝について説明する。
- ・ 唾液線の構造と分泌機構および唾液の成分とその作用について説明する。
- ・ 口腔諸器官（歯・歯周組織・唾液線を含む）の機能と全身の正常機能とを関連づける。
- ・ 頭頸部の主要な骨（頭蓋骨、下顎骨等）の形態、発生と成長について説明する。
- ・ 頭頸部の主要な筋（表情筋、咀嚼筋）の形態とその機能を説明する。
- ・ 脳神経の支配様式と働きについて説明する。
- ・ 頭頸部の脈管系（血管系、リンパ系）について説明する。
- ・ 頭頸部と全身の骨・筋・神経・脈管系を互いに関連づける。
- ・ 口腔領域の体性感覚器・味覚器官の構造と働きおよび発生と成長について説明する。
- ・ 下顎反射のしくみとその役割について説明する。
- ・ 咀嚼運動の神経機構を説明する。
- ・ 嚥下・吸引・嘔吐反射のしくみを説明する。
- ・ 発声・構音のしくみを説明する。
- ・ 頭頸部・口腔領域と全身の感覚・反射・運動のしくみを対比する。

## 授業計画

### 2 学年前期・必修・38 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	口腔諸器官の総論	口腔諸器官の構造と機能の基礎知識、歯と歯周組織の構成要素、	坂本裕次郎
2, 3	歯の構成成分	歯の構成成分の物理化学的性状	杉本久美子
4	歯と歯列の総論	歯の種類と記号・方向用語、歯列と咬合の基礎知識	坂本裕次郎
5-8	永久歯の解剖学	切歯・犬歯・小臼歯・大臼歯の形態	坂本裕次郎
9, 10	乳歯の解剖学	乳切歯・乳犬歯・乳臼歯の形態	坂本裕次郎
11	顎顔面領域の発生	顎顔面領域の初期発生	坂本裕次郎
12	歯の発生 1	硬組織形成前までの歯胚の発生過程	坂本裕次郎
13	歯の発生 2	象牙質・歯髄複合体の形成機構	坂本裕次郎
14	歯の発生 3	エナメル質の形成機構	坂本裕次郎
15	顔面の発生・初期歯胚の組織像	顔面の発生と初期歯胚の顕微鏡観察	坂本裕次郎
16	硬組織形成期歯胚の組織像	象牙質・エナメル質の形成初期の顕微鏡観察	坂本裕次郎
17	歯周組織の形成機構	歯周組織の形成機構	坂本裕次郎
18	象牙質・歯髄複合体	象牙質・歯髄複合体の構造と象牙質の成長線	坂本裕次郎
19	エナメル質	エナメル質の構造と成長線	坂本裕次郎
20	歯周組織	歯周組織の構造	坂本裕次郎
21	歯列形成と歯の萌出と交換	歯列と咬合の形成と歯の萌出と交換のしくみ	坂本裕次郎
22-24	脳神経／歯と口腔の神経支配	歯と口腔の感覚をつかさどる神経	坂本裕次郎
25, 26	歯髄感覚・歯根膜感覚	歯髄感覚・歯根膜感覚のしくみ	杉本久美子
27-29	骨格系・筋系	骨格標本を使って、体幹・体肢の骨格と筋の総括と頭頸部とのつながりについて	坂本裕次郎
30, 31	脊髄神経系・自律神経系・脈管系	体幹・体肢の末梢神経系・脈管系の総括と頭頸部とのつながりについて	坂本裕次郎

32-34	歯と歯周組織の組織像	象牙質・エナメル質・歯周組織の顕微鏡観察	坂本裕次郎
35	消化器系	消化器系の全体像と発生および基本構造	坂本裕次郎
36-38	頭蓋と頭頸部の脈管系	頭蓋の外景・内景、頭頸部の動・静脈	坂本裕次郎

## 2 学年後期・必修・37 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
39-41	頭蓋と頭頸部の脈管系	頭蓋を構成する骨、頭頸部の動・静脈、リンパ管・リンパ節	坂本裕次郎
42, 43	頭頸部の筋系と頸筋膜	表情筋・咀嚼筋・浅頸筋・外側頸筋・前頸筋（舌骨上筋・舌骨下筋）・後頸筋、頸筋膜	坂本裕次郎
44	顎関節と顎運動	顎関節の構造と機能および顎運動	坂本裕次郎
45-47	中枢神経系	中枢神経系の構造と伝導路	坂本裕次郎
48, 49	口腔粘膜・舌・唾液腺	口腔粘膜・舌・唾液腺の構造	坂本裕次郎
50	記憶・学習・情動行動	記憶・学習・情動行動のしくみ	杉本久美子
51, 52	口腔粘膜感覚・味覚・嗅覚	口腔粘膜感覚・味覚・嗅覚のしくみ	杉本久美子
53, 54	唾液腺	唾液の分泌機構、唾液の性状・成分・生理作用	杉本久美子
55	咽頭～食道・喉頭	咽頭～食道・喉頭の構造と機能	坂本裕次郎
56	顎関節感覚・咀嚼運動	顎関節感覚・咀嚼運動の制御機構	坂本裕次郎
57	下顎反射	下顎反射のしくみ	杉本久美子
58	嚥下、吸引、嘔吐	嚥下、吸引、嘔吐のしくみ	杉本久美子
59	発声と構音	発声のしくみと構音	杉本久美子
60, 61	口腔領域の消化器系の組織観察	口唇・舌・扁桃・唾液腺の顕微鏡観察	坂本裕次郎
62, 63	胃腸、肝胆膵	胃、小腸、大腸、肝臓、胆のう、膵臓の構造と機能	坂本裕次郎
64-67	消化と吸収	消化管運動のしくみ、消化液の成分と作用および分泌調節、栄養素の消化と吸収および排便反射のしくみ	杉本久美子
68, 69	消化器系の組織観察	口腔領域以外の消化器系の顕微鏡観察	坂本裕次郎
70-72	肉眼解剖見学実習	頭頸部の局所解剖学の見学	坂本裕次郎

73-75	まとめ	補足と全体の総括	坂本裕次郎 杉本久美子
-------	-----	----------	----------------

### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・前期評価と後期評価を総合して年間評価とするが、原則として前期と後期それぞれに合格しなくてはならない。
- ・前期末と後期末に評価するので、前期と後期それぞれに受験資格を満たさなくてはならない。

### 参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・「基礎歯科生理学」第5版 森本俊文、山田好秋編 医歯薬出版
- ・「入門人体解剖学」改訂第4版 藤田恒夫 南江堂
- ・「人体解剖学」改訂第4.2版 藤田恒太郎 南江堂
- ・「解剖生理学」高野廣子著 南山堂
- ・「図解生理学」第2版 中野昭一編 医学書院
- ・「標準生理学」第6版 本郷利憲、豊田順一、広重力監修 医学書院
- ・新歯科衛生士教本「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「生理学」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

### 留意事項

解剖実習室で行われる授業では、白衣と上履きを着用すること。

### 担当教員の Office hour

坂本裕次郎 講師 随時 y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp

杉本久美子 教授 木 16:00-18:00 ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp

科目名	疾病の成り立ちと生体防御
ユニット名	病理学総論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2学年前後期・必修2単位・30時間
科目・ユニット責任者	坂本裕次郎・坂本啓（口腔病理学分野）
授業担当者	坂本啓（口腔病理学分野）、勝部憲一（口腔病理学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

### 学習目標

疾病の原因と病態に関する基本的知識を体系的に習得する。

### 到達目標

- ・病因に基づく疾患の分類を理解する。
- ・疾患の原因となる変化が、遺伝子、蛋白質、細胞、組織、器官、器官系レベル、個体の各レベルにあり、相互に密接に関連していることを理解する。
- ・各々の病態における組織学的変化の基礎を理解する。
- ・主要な疾患の病態や検査法を理解する。

### 授業計画 2年前後期・必修2単位・30時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	病理学序論	病理学の歴史、病因論	坂本 啓
3, 4	遺伝性疾患	染色体異常、遺伝子異常、奇形	坂本 啓
5, 6	代謝障害	代謝障害、退行性病変	坂本 啓
7, 8	増殖と修復	再生と修復、進行性病変	坂本 啓
9, 10	循環障害	循環障害	坂本 啓
11, 12	炎症、感染症	炎症と感染症	坂本 啓
13	免疫、免疫異常	免疫学の基礎、免疫異常	坂本 啓
14, 15	腫瘍	腫瘍	坂本 啓
16, 17	消化器疾患	消化管系疾患、肝・胆道系疾患	勝部憲一
18, 19	心・血管系疾患	心・血管系疾患	勝部憲一
20	腎・泌尿器疾患	腎・泌尿器疾患	勝部憲一

21	呼吸器疾患	呼吸器疾患	勝部憲一
22, 23	代謝疾患	内分泌疾患、代謝疾患	勝部憲一
24	血液疾患	血液疾患	勝部憲一
25	脳神経系疾患	脳神経系疾患	勝部憲一
26, 27	精神疾患	精神疾患	勝部憲一
28, 29	感染症	感染症	勝部憲一
30	病理総論総括	まとめ	勝部憲一

### 評価方法

- ・出席状況、授業態度と期末の客観試験で総括的評価を行う。

### 参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「病理学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2011年
- ・ルービン 病理学－臨床医学への基盤－ 西村書店 2007年

### 担当教員の Office hour

坂本 啓 助教 月・金 16:00-17:30 s-kei.mpa@tmd.ac.jp

勝部 憲一 講師 月・金 16:00-17:30 katsube.mpa@tmd.ac.jp

科目名	疾病の成り立ちと生体防御
ユニット名	口腔病理学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坂本裕次郎・坂本 啓（口腔病理学分野）
授業担当者	坂本 啓（口腔病理学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

### 学習目標

顎口腔領域の疾患の原因と病態に関する基本的知識を体系的に習得する。

### 到達目標

- ・各々の疾患の病因と、その組織学的変化を理解する。
- ・各々の疾患の病状や症状を、組織学的変化と対応して理解する。

### 授業計画 2 年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	歯の異常	歯の発育異常、歯の損傷と付着物	坂本 啓
3, 4	う蝕	う蝕	坂本 啓
5, 6	歯髄炎	歯髄炎、根尖性歯周炎	坂本 啓
7, 8	歯周病	歯周病、治癒の病理	坂本 啓
9	口腔の発育異常	口腔の発育異常	坂本 啓
10-11	口腔粘膜疾患	口腔粘膜疾患	坂本 啓
12	口腔の嚢胞	口腔の嚢胞	坂本 啓
13, 14	口腔の腫瘍	口腔の腫瘍	坂本 啓
15	顎骨・唾液腺の病変	顎骨の病変、唾液腺疾患、加齢に伴う口腔病変	坂本 啓

### 評価方法

出席状況、授業態度と期末の客観試験で総括的評価を行う。

**参考図書等**

新歯科衛生士教本「病理学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2011年

**担当教員の Office hour**

坂本 啓 助教 月・金 16:00-17:30 s-kei.mpa@tmd.ac.jp

科目名	疾病の成り立ちと生体防御
ユニット名	病原微生物と生体防御
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坂本裕次郎
授業担当者	坂本裕次郎、高柳 広（分子情報伝達学分野）、中川一路（細菌感染制御学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

### 学習目標

病原微生物の特徴と病原性および生体の防御反応のしくみについて理解する。

### 到達目標

- ・ 免疫獲得と免疫寛容の機構および免疫疾患の病因・病態について説明する。
- ・ 病原微生物や様々な外来刺激に対する生態の防御系を説明する。
- ・ 疼痛の病因・病態について説明する。
- ・ 顎・顔面・口腔領域の神経痛の病因・病態について説明する。
- ・ 病原微生物の分類と病原性について説明する。
- ・ 口腔細菌の特徴と病原性について説明する。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	免疫学総論	免疫の種類、免疫機構	高柳 広
3, 4	免疫・アレルギー	抗原抗体反応、アレルギー、補体	高柳 広
5	免疫・アレルギー疾患	疾患の種類と病態	高柳 広
6, 7	疼痛総論	疼痛の概念と分類、疼痛発生の原因と機序	坂本裕次郎
8, 9	顎・顔面領域の疼痛	脳神経と顎・顔面領域の疼痛の原因と機序	坂本裕次郎
10, 11	微生物学各論 1	グラム陽性菌、グラム陰性菌	中川一路
12, 13	微生物学各論 2	スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真菌、ウイルス	中川一路
14, 15	口腔細菌	う蝕関連細菌、歯周疾患関連細菌	中川一路

## 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。

## 参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「微生物学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「標準病理学」第3版 秦順一監修 医学書院
- ・「エッセンシャル病理学」沢井高志他編 医歯薬出版
- ・「わかりやすい病理学」改訂第3版 岩田隆子他編 南江堂
- ・「これだけは知っておきたい疾病のなりたち」 井上泰訳 医学書院
- ・「口腔病理アトラス」第2版 高木實監修 文光堂

## 担当教員の Office hour

坂本裕次郎 講師 随時 y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp  
高柳 広 教授 月・金 16:00-18:00 taka.csi@tmd.ac.jp  
中川一路 教授 月・木 16:00-18:00 ichiro-n.bac@tmd.ac.jp

科目名	薬理・薬剤学
ユニット名	薬理・薬剤学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2学年前期・必修2単位・30時間
科目・ユニット責任者	坂本裕次郎・杉本久美子（口腔基礎科学分野）
授業担当者	杉本久美子（口腔基礎科学分野）、大谷啓一・青木和広・田村幸彦（硬組織薬理学分野）、原澤秀樹（歯学部附属病院・薬剤部）、長谷川望（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

### 学習目標

医薬品の薬理作用を理解し、薬物を安全かつ効果的に利用するために必要な基本的知識を修得する。

### 到達目標

- ・ 薬の作用、有効量、中毒量、致死量について概説する。
- ・ 薬物の投与方法と生体内分布について概説する。
- ・ 薬物の連用および併用に伴う現象について概説する。
- ・ 中枢神経系作用薬物の種類と作用について概説する。
- ・ 末梢神経系作用薬物の種類と作用について概説する。
- ・ 呼吸・循環器系作用薬の種類と作用について概説する。
- ・ 消化器系作用薬の種類と作用について概説する。
- ・ ホルモン剤の種類と作用について概説する。
- ・ ビタミンの種類と作用について概説する。
- ・ 血液・造血系作用薬の種類と作用について説明する。
- ・ 抗炎症薬の種類と作用について説明する。
- ・ 免疫系作用薬の種類と作用について概説する。
- ・ 病原微生物作用薬（消毒薬・化学療法薬）の種類と作用について説明する。
- ・ 悪性腫瘍治療薬の種類と作用について概説する。
- ・ 腐食・収斂薬の種類と作用について概説する。
- ・ 歯科領域で用いられる薬物の種類と作用を説明する。
- ・ 医薬品の剤形、処方箋および保管方法について概説する。
- ・ 薬事関連法規について概説する。
- ・ 歯科用医薬品の特徴および使用の留意点について説明する。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	薬理学とは、薬理作用と薬物の作用機序、薬理作用への影響因子	薬理学の構成、作用と副作用（薬の有効量・中毒量・致死量）、薬の作用点、情報伝達系、薬物の有害作用、薬物作用に影響する因子、薬物の連用に伴う現象、薬物の併用	杉本久美子
3, 4	薬の投与方法と生体内運命、薬物療法	薬物の投与経路、吸収、分布・代謝・排泄、薬物体内動態と薬効、ライフステージと薬物療法、薬物送達システムほか	杉本久美子
5, 6	中枢神経系作用薬	中枢神経系に対する薬物作用、全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬、鎮静睡眠薬、向精神薬、抗パーキンソン薬、抗てんかん薬、中枢神経興奮薬、抗痴呆薬	大谷啓一
7, 8	末梢神経系作用薬	自律神経作用薬（アドレナリン作動薬、抗アドレナリン作動薬、コリン作動薬、抗コリン作動薬）、運動神経系作用薬、局所麻酔薬	杉本久美子
9, 10	循環器系作用薬	降圧薬、高脂血症治療薬、抗狭心症薬、強心薬、抗不整脈薬	青木和広
11	呼吸器系作用薬	鎮咳薬、去痰薬、気管支拡張薬、喘息治療薬、呼吸促進薬	田村幸彦
12	消化器系作用薬	食欲・消化作用薬、消化性潰瘍治療薬、胃腸運動改善薬、腸疾患作用薬	田村幸彦
13	抗炎症薬・解熱鎮痛薬	生体防御反応と生体警告反応、ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬、解熱鎮痛薬、消炎酵素薬、痛風治療薬	大谷啓一
14	硬組織に作用する薬物	骨代謝調節ホルモン、骨粗鬆症の治療	大谷啓一
15, 16	化学療法薬 1	感染症治療薬（抗生物質、抗真菌薬、抗結核薬、抗ウイルス薬）	青木和広
17	化学療法薬 2	悪性腫瘍治療薬	田村幸彦
18	毒物と解毒薬	毒物の吸収阻害・遅延、毒物の排泄促進、特異的拮抗薬、有機リン剤中毒、金属・重金属中毒	田村幸彦
19	免疫調節薬・免疫療法薬	免疫抑制薬、免疫増強薬、ワクチン製剤、抗アレルギー薬、特異的抗リウマチ薬、抗ヒスタミン薬	青木和広

20	内分泌系作用薬・ビタミン	内分泌系作用薬、ホルモン拮抗薬、ビタミン	杉本久美子
21	血液・造血系作用薬	貧血治療薬、止血薬、抗血栓療法薬、血液製剤	杉本久美子
22	歯科領域で使用される薬物、う蝕予防に用いる薬	歯科領域で使用される薬物の種類、う蝕予防薬の分類、フッ化物、フッ化物以外のう蝕予防薬、プラーク染色剤、洗口剤	青木和広
23	歯内療法薬	う窩消毒剤および歯髄鎮静剤、覆髄剤、裏層剤、歯髄失活剤、歯髄乾屍剤、根管拡大補助剤と根管清掃剤、根管消毒剤、根管充填剤、象牙質知覚過敏症治療薬	長谷川望
24	歯周疾患治療薬	歯周疾患の分類、歯周炎の発症、プラークコントロールに用いる薬剤、歯周治療の処置に用いる薬剤	長谷川望
25	口腔粘膜疾患治療薬	口腔粘膜疾患と治療薬、口腔内用薬（洗浄剤、口腔用膏剤、口腔用貼付性製剤など）	青木和広
26	薬事関連法規	薬事法、日本薬局方、関連法規、麻薬及び向精神薬取締法、覚醒剤取締法、大麻取締法	原澤秀樹
27	医薬品の剤形、処方箋	医薬品の定義、薬剤の剤形、処方箋、調剤と製剤	原澤秀樹
28	医薬品の保管	医薬品の保存方法、医薬品の混合（配合変化）など	原澤秀樹
29	歯科用医薬品の特徴と使用	歯科用医薬品の特徴と剤形、歯科用医薬品の使用方法と留意点	原澤秀樹
30	まとめ	まとめ	杉本久美子

## 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況および授業態度を総括的評価に加味する。

## 参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学」 全国歯科衛生士教育協議会 編 医歯薬出版
- ・「シンプル薬理学」改訂第3版 植松俊彦 他編 南江堂
- ・「現代歯科薬理学」第3版 小椋秀亮監修 医歯薬出版

・「スタンダード歯科薬理学」第2版 川口充幹事編集 学建書院

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員の office hour

杉本久美子	教授	木	16:00-18:00	ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp
大谷啓一	教授	月・火	16:00-18:00	kohya.hpha@tmd.ac.jp
青木和弘	准教授	月	16:00-18:00	kazu.hpha@tmd.ac.jp
田村幸彦	助教	金	16:00-18:00	tamu.hpha@tmd.ac.jp
原澤秀樹	薬剤部長	月・金	16:00-17:00	hiddpha@tmd.ac.jp

科目名	関係法規・衛生行政
ユニット名	関係法規・衛生行政
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	品田佳世子
授業担当者	佐々木好幸（う蝕制御学分野）、矢澤正人（東京都立多摩立川保健所）、品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

### 学習目標

憲法および保健・医療・福祉に関連する法律ならびに衛生行政のシステムを理解する。

### 到達目標

- ・憲法の人権・生活権・健康権等に関する条項を説明する。
- ・保健・医療・福祉関係従事者の身分を規定する法律を説明する。
- ・保健・医療・福祉の業務遂行に必要となる法律を説明する。
- ・地域保健法、健康増進法および健康日本 21 施策を説明する。
- ・衛生行政のシステムを概説する。

### 授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	憲法	憲法が保健・医療・福祉に果たす役割	佐々木好幸
3, 4	医療制度・医療法	保健・医療・福祉制度の概要と相互関係	佐々木好幸
5, 6	医師法・歯科医師法	医師法・歯科医師法の特徴と意義	佐々木好幸
7, 8	歯科衛生士法 1	歯科衛生士法の制定・改正の経緯と意義	佐々木好幸
9, 10	歯科衛生士法 2	歯科衛生士法および関連する省令・通達等	佐々木好幸
11, 12	関連する医療関係者の身分法	医師・歯科医師・歯科衛生士以外の医療に関わる身分法	佐々木好幸
13, 14	母子保健法	母子保健の動向と規則	品田佳世子
15, 16	学校保健安全法	学校保健の動向と規則	品田佳世子

17, 18	労働安全衛生法	産業保健の動向と規則	品田佳世子
19, 20	高齢者に関する法律	老人保健の動向と規則	品田佳世子
21, 22	地域保健法	地域保健の動向と規則	品田佳世子
23, 24	健康増進法	健康増進施策の経緯と健康増進法の意義	品田佳世子
25, 26	衛生行政 1	中央の保健行政組織とその機能	品田佳世子
27, 28	衛生行政 2	特定の地域の保健行政組織と保健事業の実例	矢澤正人
29, 30	衛生行政 3	保健行政組織のネットワークと今後のあり方	品田佳世子

### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・提出レポート、課題発表等を総括的評価に加味する。
- ・講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・「国民衛生の動向」（厚生指針 臨時増刊） 厚生統計協会毎年発行
- ・最新歯科衛生士教本「保健生態学」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「衛生行政・社会福祉」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「歯科でいかそう健康増進法」8020 推進財団編 医歯薬出版
- ・「歯科六法必携」能美光房、宮武光吉、石井拓男編 ヒョーロンパブリッシャーズ
- ・新歯科衛生士教本「衛生学・公衆衛生学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員の Office hour

佐々木好幸 准教授 月・水 17:00-19:00 sasaki.prev@tmd.ac.jp  
 品田佳世子 教授 火・金 16:30-18:30 shinada.ohp@tmd.ac.jp

科目名	口腔健康科学
ユニット名	口腔健康科学
授業形態	講義・PBL テュートリアル
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	寺岡加代・寺岡加代(講義)、小野寺光江 (PBL テュートリアル)
授業担当者	寺岡加代、安藤雄一 (国立保健医療科学院)、口腔保健学科教員
主な授業場所	口腔保健学科第4講義室(講義)、歯学部演習室等(PBL テュートリアル)

### 学習目標

ヘルスプロモーションの変遷を知るとともに、活動のプロセスを学び、口腔保健の専門家としての役割を理解する。

### 到達目標

- ・口腔健康科学の意義を説明する。
- ・ヘルスプロモーションの概要を説明する。
- ・WHO の健康戦略を説明する。
- ・保健行動の理論とモデルを説明する。
- ・ヘルスプロモーションの展開過程（計画・実施・評価）を説明する。
- ・口腔保健政策におけるヘルスプロモーションの役割を説明する。
- ・人々の健康に関する問題を自ら発見し、解決するための方法を検討する。

### 授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1- 3	口腔健康科学・ヘルスプロモーションの概要	口腔健康科学の意義、ヘルスプロモーションの定義・変遷、WHO の健康戦略	寺岡加代
4- 6	セッション 1	シナリオ 1	口腔保健学科教員
7-9	セッション 2	シナリオ 2	口腔保健学科教員
10-12	セッション 3	シナリオ 3	口腔保健学科教員
13-15	保健行動の理論・ヘルスプロモーションの役割	保健行動の理論とモデル (Precede-Proceed モデル) 口腔保健政策におけるヘルスプロモーションの役割	安藤雄一

16-18	セッション4	シナリオ4	口腔保健学科教員
19-21	セッション5	シナリオ5	口腔保健学科教員
22-24	セッション6	シナリオ6	口腔保健学科教員
25-27	セッション7	シナリオ7	口腔保健学科教員
28-30	セッション8	まとめ	口腔保健学科教員

### 評価方法

- ・講義：期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
- ・PBL：セッション毎に、チューターによる形成的評価を行う。  
PBL 口頭試問および期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。  
出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・「オーラルヘルスプロモーション」 岡田昭五郎監修 (財) 口腔保健協会
- ・「ヘルスプロモーション講座」 島内憲夫編著 JUHRC
- ・「健康教育・ヘルスプロモーション」 武藤孝司著 篠原出版

### 留意事項

- ・講義：事前に資料の配布・アップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。
- ・PBL：PBL テュートリアルブックをよく読んで、グランドルールを厳守すること。  
事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。  
必要に応じ、科目責任者(演習)、担当チューターによる面談を行うことがある。

### 担当教員の office hour

寺岡加代 教授 随時 ktera.ohce@tmd.ac.jp  
小野寺光江 講師 随時 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp

科目名	口腔保健衛生学原論Ⅱ
ユニット名	口腔保健衛生学原論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
授業担当者	遠藤圭子、白田千代子、坪井真
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

### 学習目標

国民の QOL（生活・人生の質）向上のために、口腔保健を担う専門的職業人としての倫理的配慮や活動のあり方を理解する。

### 到達目標

- ・口腔保健学の概念と概要を説明する。
- ・歯科衛生過程の意義と構成要素を概説する。
- ・専門職業人とは何か、説明する。
- ・専門職業人としての倫理、使命感（心構え）を説明する。
- ・クライアント（患者・相談者・利用者）の権利を説明する。
- ・医療安全対策を説明する。
- ・保健・医療・福祉分野の職種の協働を説明する。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	担当者
1, 2	歯科衛生活動の実際 試験ケース発表の聴講	歯科衛生実践（試験ケース発表の聴講）	遠藤圭子
3, 4	口腔保健と歯科衛生	口腔保健とは何か 歯科衛生と福祉の統合的活動	坪井真、 遠藤圭子
5, 6	歯科衛生過程	歯科衛生過程の意義、理論と歯科衛生過程のつながり、構成要素	遠藤圭子
7, 8	対象の理解 専門的職業人	人びとの健康観、クライアントの権利 専門的職業人とは何か	遠藤圭子

9, 10	職業人としての倫理、使命	歯科衛生倫理、法的責任と道義的責任、 守秘義務、個人情報管理、安全の確保	遠藤圭子
11, 12	保健・医療・福祉職の協働	各分野の職種、協働とは	白田千代子
13, 14	日本の保健・医療・福祉の現 状	口腔保健の問題点、マンパワー	白田千代子
15	まとめ	口腔保健学科の目指す方向	遠藤圭子

### 評価方法

- ・課題レポート、期末の試験で総括的評価を行う。
- ・態度、出席状況を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科衛生士概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「自己決定の行動科学」 日本保健医療行動科学会編集 メヂカルフレンド社
- ・歯科衛生ケアプロセス 下野正基 監著 医歯薬出版
- ・平成 17 年歯科疾患実態調査報告書 口腔保健協会
- ・その他、印刷物を配布する。

### 留意事項

事前配布資料や e-learning 上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員の Office hour

遠藤圭子 准教授 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp

白田千代子 講師 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp

坪井 真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	保存系歯科医学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	吉増秀實・品田佳世子
授業担当者	渡辺久（歯周病学分野）、島田康史（う蝕制御学分野）、竹田淳志（歯髓生物学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

### 学習目標

・保存系歯科医学の内容を理解し、保存系歯科医療におけるチームアプローチを実践するために必要な知識を修得する。

### 到達目標

- ・歯の硬組織疾患を説明する。
- ・う蝕の病理を説明する。
- ・窩洞の分類を説明する。
- ・修復物の理想的臨床形態を説明する。
- ・コンポジットレジン修復を説明する。
- ・歯科用セメントの種類と使用目的を説明する。
- ・グラスアイオノマーセメント修復を説明する。
- ・アマルガム修復を説明する。
- ・メタルインレー修復を説明する。
- ・審美的間接法修復を説明する。
- ・う蝕の保存修復治療に必要な器具、器材、前準備、ならびに術後管理を説明する。
- ・歯髓保存療法の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。
- ・歯髓除去療法の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。
- ・感染根管治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。
- ・根管充填法の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。
- ・外科的歯内治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。
- ・歯周基本治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。
- ・外科的歯周治療の種類、目的、器具、器材、前準備を説明する。
- ・歯周治療におけるメンテナンスの内容、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	歯周病・歯周治療、 歯周病の病因	歯周病・歯周治療の概説、歯周病の病因	渡辺 久
3, 4	歯周組織, 歯周組 織検査と診断	歯周組織診査の種類、目的、器具、器材、準備	渡辺 久
5, 6	スケーリング・ルー トプレーニング	歯周基本治療としてのスケーリング・ルートプレー ニング、目的、器具、器材、準備、術後管理	渡辺 久
7, 8	歯周外科手術、咬 合調整と固定	歯周外科手術、咬合調整と固定の種類、目的、器具、 器材、準備、術後管理	渡辺 久
9, 10	根分岐部病変・習 癖・治療計画とケー ススタディー	根分岐部病変、習癖などについて、歯周治療の計画 とメンテナンスの内容、目的、器具、器材、準備、 術後管理、歯周治療における診療の流れと器材の準 備	渡辺 久
11, 12	保存修復治療	保存修復治療概説、歯の硬組織疾患、う蝕の病理、 保存修復治療の種類と目的、窩洞の分類、修復物の 形態	島田康史
13, 14	成形充填修復 1	成形充填修復治療の流れ、コンポジットレジン修復	島田康史
15, 16	成形充填修復 2	歯科用セメント（ガラスイオノマーセメント修 復）、アマルガム修復	島田康史
17, 18	鑄造修復	間接法修復治療の流れ、メタルインレー修復、審美 的間接法修復	島田康史
19, 20	ケーススタディ	う蝕の保存修復歯科治療における診療の流れと器 材の準備、メンテナンス	島田康史
21, 22	歯内治療	歯内治療概説、歯髄保存療法の種類、目的、器具、 器材、準備、術後管理、ラバーダム防湿、隔壁	竹田淳志
23, 24	歯髄除去療法	歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、準備、術 後管理	竹田淳志
25, 26	感染根管治療	感染根管治療の種類、目的、器具、器材、準備、術 後管理	竹田淳志
27, 28	根管充填法	根管充填法の種類、目的、器具、器材、準備、術後 管理、および外科的歯内治療の種類、目的、器具、 器材、準備、術後管理	竹田淳志

29, 30	ケーススタディ	歯内治療における診療の流れと器材の準備	竹田淳志
--------	---------	---------------------	------

### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・沼部幸博監修：新人歯科衛生士のためのペリオドンタルインスツルメンテーション．クインテッセンス出版
- ・日本歯周病学会編：歯科衛生士のための歯周治療ガイドブック．医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
- ・「ザ・ペリオドントロジー」和泉雄一、沼部幸博、山本松男、木下淳博 編 永末書店
- ・新歯科衛生士教本「保存修復学・歯内療法学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・接着ここが知りたい歯科衛生士編 日本接着歯学会編 口腔保健協会
- ・保存修復学 2 1 田上順次、千田彰、奈良陽一郎、桃井保子 永末書店

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員の Office hour

渡辺 久 准教授 月～金 17:00-19:00 watanabe.peri@tmd.ac.jp  
 島田康史 助教 月・火・木・金 16:30-18:30 shimada.ope@tmd.ac.jp  
 竹田淳志 講師 月・火・水・金 17:00-18:00 takeda.a.endo@tmd.ac.jp

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	発達育成系・障害者歯科医学
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・15 時間 単位認定（2 単位）は 3 学年前期（15 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	吉増秀實・石川雅章
授業担当者	石川雅章、中里みどり（横浜市教育委員会）
主な授業場所	口腔保健学科 第 4 講義室

### 学習目標

小児の心身の成長・発達をふまえ、発達期口腔保健の意義および口腔疾患の特徴、予防・治療法を理解する。

### 到達目標

- ・ 出生から青少年期までの心身の成長・発達を理解する。
- ・ 小児の情緒と社会性の発達を理解する。
- ・ 小児の健康を育む食生活と支援の重要性を理解する。
- ・ 歯の萌出と乳歯・幼若永久歯の特徴を理解する。
- ・ 顎・顔面頭蓋の成長過程を理解する。
- ・ 歯列咬合の発育過程を理解する。
- ・ 歯科治療時の小児の行動への対応法を理解する。
- ・ 障害児口腔内の特徴と歯科的対応を理解する。
- ・ 小児期の口腔保健の重要性とその手段を理解する。
- ・ 小児期の口腔疾患とその治療法、チーム医療を理解する。
- ・ 青少年期に特有な心身の問題とその解決策を概説できる。

### 授業計画 2 学年後期・必修・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	顎・顔面頭蓋、 歯列・咬合の発 育	頭蓋の構成要素と相対的発育、頭蓋の発育機構、頭蓋発育の評価法、側貌頭部エックス線規格写真計測による日本人小児の平均成長、歯列咬合の発育（無歯期、乳歯萌出期、乳歯列期、混合歯列前期、混合歯列後期、永久歯列期）、歯列発育の評価法	石川雅章

3, 4	小児う蝕とその予防、発達期の口腔疾患	う蝕の病因と発生、小児う蝕の実態、う蝕予防に対する考え方、フッ化物の応用、歯周疾患、不正咬合、口腔軟組織疾患	石川雅章
5, 6	小児の歯科診療体系と行動管理法	小児の歯科診療の流れ、小児歯科診療時における留意事項、小児治療時の一般的対応法、発達段階別対応法、小児の情動の特徴、軽度な非協力児、非協力児、著しい非協力児（障害児）、小児の歯科診療における診療補助	石川雅章
7, 8	発達期におけるチーム歯科医療Ⅰ	診査と資料採得時の注意、ラバーダム防湿法、シーラント、成形充填、インレー修復、全部歯冠修復、間接覆髄法、GCRP、直接覆髄法、生活歯髄切断法、乳歯の抜髄法と感染根管治療法、根未完成永久歯歯内療法	石川雅章
9, 10	発達期におけるチーム歯科医療Ⅱ	小児における局所麻酔、抜歯、外来小手術、薬物療法、外傷歯の診査、歯周組織損傷と処置法、歯の硬組織・歯髄の損傷と処置法、外傷歯の予後	石川雅章
11, 12	発達期におけるチーム歯科医療Ⅲ	咬合誘導の概念、乳歯の早期喪失と保隙、保隙装置の種類、保隙装置製作・装着とその後の注意事項、歯列咬合の初期異常、診査診断・治療計画上のポイント、不正咬合別の治療指針	石川雅章
13, 14	青少年期の問題点と解決策	青少年の生活環境と問題、いじめ・不登校・児童虐待などの実態、解決策の模索	中里みどり
15	発達期の口腔保健	乳幼児の健診、乳幼児期の食生活習慣、歯磨き、学校歯科保健による健診	石川雅章

### 評価方法

- ・毎回の授業開始前小テストで形成的評価を行う。
- ・2学年後期末の客観試験、記述試験で中間的評価を行う。

### 参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「小児歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
- ・小児の口腔科学 前田隆秀、朝田芳信、田中光郎他 学建書院
- ・「国民衛生の動向 2010/2011」 厚生統計協会
- ・「平成 21 年版 青少年白書」 内閣府
- ・「平成 21 年版 食育白書」 内閣府

- ・「小学校 歯の保健指導の手引き」 東山書房

#### **留意事項**

- ・ 前期口腔疾患予防学の一連の授業のうち、最後の3回6時間の授業と連続性を有する（到達目標の最初4項目）。
- ・ e-learning上に、各授業1週間前にテキストをアップロードするので、事前の予習を十分行うこと。

#### **担当教員の Office hour**

石川 雅章 教授 平日 9:00-18:00 [ishikawa.pohc@tmd.ac.jp](mailto:ishikawa.pohc@tmd.ac.jp)

科目名	口腔疾患予防学
ユニット名	口腔疾患予防学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	品田佳世子
授業担当者	品田佳世子、木下淳博（教育メディア開発学分野）、石川雅章
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

### 学習目標

口腔の健康状態を維持するための要因と、予防可能な口腔疾患の種類、その原因と予防法について理解する。

### 到達目標

- ・ 歯・口腔の健康と予防の定義について説明する。
- ・ 歯・口腔の健康と予防の方法と健康づくりについて説明する。
- ・ セルフケア、プロフェッショナルケア、コミュニティーケアの内容を説明する。
- ・ 歯・口腔の付着物・沈着物について説明する。
- ・ 口腔清掃について説明する。
- ・ ブラークコントロールの方法について説明する。
- ・ 歯磨剤や洗口剤について説明する。
- ・ 歯周病の症状・種類・診査を説明する。
- ・ 歯周病の予防を説明する。
- ・ う蝕の発生のメカニズムを説明する。
- ・ う蝕の発生要因とう蝕活動性試験を説明する。
- ・ フッ化物の応用とそのう蝕予防効果を説明する。
- ・ フッ化物の代謝や毒性について説明する。
- ・ 歯質損耗（tooth wear）の症状、種類、予防、治療法を説明する。
- ・ 口臭の分類、原因、予防、処置を説明する。
- ・ 出生から青少年期までの心身の成長・発達を説明する。
- ・ 小児の情緒と社会性の発達を説明する。
- ・ 小児の健康を育む食生活と支援の重要性を説明する。
- ・ 歯の萌出と乳歯・幼若永久歯の特徴を説明する。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	歯・口腔の健康と予防の定義	歯・口腔の健康と予防の定義、基礎	品田佳世子
3, 4	歯・口腔の健康と予防の方法と健康づくり	歯・口腔の健康と予防の方法と健康づくり、第 1 次予防から第 3 次予防、セルフケア、プロフェッショナルケア、コミュニティーケア等について	品田佳世子
5, 6	歯・口腔の付着物・沈着物	歯・口腔の付着物・沈着物：ペリクル、プラーク、歯石、舌苔、外来性色素沈着物	品田佳世子
7, 8	口腔清掃法	歯・口腔の清掃法：自然的・人工的・手術的・科学的清掃法、プラークコントロールの重要性と効果、方法	品田佳世子
9, 10	歯周病の実態	歯周病の症状・種類・診査・検診、実態調査	木下淳博
11, 12	歯周病の予防	口腔保健指導、生活習慣指導、歯石除去、歯面研磨等	木下淳博
13, 14	う蝕の発生、発生要因	う蝕の発生機序、発生要因、う蝕活動性試験	品田佳世子
15, 16	う蝕の予防 1 フッ化物の応用	フッ化物の応用とそのう蝕予防効果、フッ化物の代謝、毒性	品田佳世子
17, 18	う蝕の予防 2	シュガーコントロール、代用甘味料、小窩裂溝填塞（シーラント）、その他の予防方法	品田佳世子
19, 20	歯質損耗（tooth wear）・口臭	歯質損耗（tooth wear）の症状・種類・予防法、口臭の分類、原因、予防方法	品田佳世子
21, 22	飲み物の性状	市販の飲み物の pH や糖度を知る（実習）	品田佳世子
23, 24	ケーススタディ	う蝕予防、歯周病予防など口腔疾患予防に関するケーススタディー（グループ発表）	品田佳世子
25, 26	発達期口腔保健衛生学概論、心身の成長発達	発達期口腔保健衛生学概論、成長・発達・発育の概念、発育の一般的原則、発育に影響を及ぼす因子、出生時の状態、発育期の分類と経過、発育の評価、情動の発達、社会性の発達、発達期の諸問題、発達障害	石川雅章
27, 28	小児の生理的特徴、摂食機能と言語の発達	原始反射、哺乳に関する反射、小児の生理的特徴、感覚の発達、栄養摂取と摂食機能の発達、哺乳期、離乳期、幼児期、児童・生徒期、言語の基礎知識、音声言語の発達、発達期にみられる構音障害	石川雅章

29, 30	歯の発育・萌出と乳歯・幼若永久歯の特徴	歯の発育、歯数の異常、歯の形態異常、歯の構造・石灰化の異常、乳歯の萌出、乳歯の特徴、永久歯の萌出	石川雅章
--------	---------------------	--	------

### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

教科書：最新歯科衛生士教本「保健生態学」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

参考書：

- ・「フッ化物応用の科学」日本口腔衛生学会フッ化物応用委員会編 口腔保健協会
- ・「8020 地域歯科保健活動の現場から」 榊原悠紀田郎監修 ヒョーロンパブリッシャーズ
- ・「歯周病と全身の健康を考える」 ライオン歯科衛生研究所編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
- ・「口腔ケアによる気道感染予防」 地域保健研究会口腔ケアによる気道感染予防研究委員会編 社会保険研究所
- ・新歯科衛生士教本「小児歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「小児の口腔科学」 前田隆秀、朝田芳信、田中光郎 他著 学建書院

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員の Office hour

品田佳世子 教授 火・金 16:30-18:30 shinada.ohp@tmd.ac.jp  
 木下淳博 教授 金 16:00-17:00 kinoshita.emdv@tmd.ac.jp  
 石川 雅章 教授 平日 9:00-18:00 ishikawa.pohc@tmd.ac.jp

科目名	口腔疾患予防学
ユニット名	顎口腔機能育成学
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	品田佳世子・石川雅章
授業担当者	辻 美千子（顎顔面矯正学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

### 学習目標

顎口腔機能の発達過程および不正咬合との関連を理解し、顎口腔機能の育成および個性正常咬合獲得を、口腔保健の立場から支援するための知識を修得する。

### 到達目標

- ・ 正常な歯列咬合の状態を理解する。
- ・ 不正咬合の種類とその影響を理解する。
- ・ 不正咬合の診断に必要な資料・情報を理解する。
- ・ 不正咬合の診断・治療法を概説できる。
- ・ 歯科矯正器材と装置の種類・取り扱い方を概説できる。
- ・ 歯科矯正治療におけるチーム医療を理解する。
- ・ 歯科矯正治療中の患児の口腔保健指導を理解する。
- ・ 歯科矯正治療中の患児への口腔ケアと心理的支援を理解する。
- ・ 顎口腔機能の育成を概説できる。

### 授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	歯科矯正学概論	不正咬合の生理的・心理的障害、矯正治療の目的とその必要性、矯正歯科治療の歴史、矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割	辻 美千子
2,3	成長・発育と口腔習癖	成長発育曲線、顎・顔面・頭蓋の成長発育、歯列の成長発育（乳歯列、混合歯列、永久歯列、歯年齢）、口腔習癖の種類と頻度、咬合・咀嚼・発音・嚥下への影響、口腔筋機能療法	辻 美千子

4, 5	咬合	正常咬合の定義、不正咬合の種類（歯の異常、歯列弓形態の異常、上下顎間関係の異常）と分類、不正咬合の原因（遺伝的・環境的、先天的・後天的）、不正咬合の予防	辻 美千子
6, 7	矯正診断	診査と情報の収集（相談・問診・写真・口腔模型・パノラマエックス線写真・頭部エックス線規格写真、口腔機能検査等）、症例分析法、治療方針の立て方	辻 美千子
8, 9	矯正治療における生体反応と生力学、矯正治療の使用器材	矯正力、歯の移動・組織反応、歯の移動様式、固定、矯正用器具の種類とその取り扱い、矯正材料の種類と取り扱い	辻 美千子
10, 11	矯正装置	舌側弧線装置、マルチブラケット装置、床矯正装置、機能的顎矯正装置、側方拡大装置、顎外固定装置、保定装置など、各装置の説明と注意事項	辻 美千子
12, 13	不正咬合の治療法	混合歯列期（第Ⅰ期治療）、永久歯列期（第Ⅱ期治療）、成人の矯正歯科治療（外科矯正、補綴前準備、歯周疾患患者、MTM）	辻 美千子
14, 15	歯科矯正治療におけるチーム医療	歯科矯正治療の補助、矯正治療中の口腔保健指導、患児への口腔ケアと心理的支援	辻 美千子

## 評価方法

随時の小テスト・レポートで形成的評価、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

## 参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科矯正学」 全国歯科衛生士教育評議会編 医歯薬出版
- ・矯正歯科治療とオーラルハイジーンコントロール 高田健治監修 クインテッセンス出版
- ・歯科矯正学と診療補助 東理十三雄監修 遠藤敏哉著 クインテッセンス出版
- ・歯科矯正学 第4版 葛西一貴他編 医歯薬出版

## 留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

## 担当教員の Office hour

石川 雅章 教授 平日 9:00-18:00 ishikawa.pohc@tmd.ac.jp  
辻 美千子 助教 平日 9:00-18:00 m-tsuji.mort@tmd.ac.jp

科目名	口腔疾患予防学実習
ユニット名	口腔疾患予防学実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・48 時間 2 学年後期・必修・42 時間 単位認定（3 単位）は3 学年前期（45 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	品田佳世子
授業担当者	品田佳世子、石川雅章、近藤圭子、白田千代子、遠藤圭子、小原由紀・大塚紘未・田澤千鶴・堀江明子（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室・臨床基礎実習室・相互実習室

### 学習目標

歯・口腔の状態把握および歯科予防処置の基本的知識と技術を修得する。

### 到達目標

- ・う蝕予防と歯周疾患予防の基礎を理解する。
- ・歯、口腔（歯、歯肉、歯の付着物・沈着物）状態を把握できる。
- ・器具の消毒・滅菌、感染予防、手指の消毒法、偶発事故の予防など生体への配慮の基本を実践しながら、歯科予防処置に必要な知識と技術を修得する。
- ・歯科予防処置のうち、歯石除去、歯面清掃、SRP、う蝕予防処置、フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口を実施できる。
- ・歯科衛生過程の基本を理解する。

### 授業計画

#### 2 学年前期・必修・48 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	実習の進め方	実習の目的、実習開始前の基本事項（身だしなみ・実習室の使い方・消毒と滅菌・実習使用器材の準備・手指消毒）、歯科用ユニットの操作方法（バキューム・ライティング・シリンジ）	近藤、小原 大塚
4-6	実習の基本1	インスツルメントの種類、マネキンの取扱方法、衛生材料の作成、滅菌物の取扱方法、位置と姿勢	近藤、白田 遠藤、堀江

7-9	実習の基本 2	位置と姿勢、インスツルメント（診査・検査器具、スケーラー）の把持法と操作法	近藤、白田 遠藤、大塚
10-12	インスツルメンテーション 1	インスツルメントの基本操作 スケーリングの基本操作 1	近藤、白田 遠藤、大塚
13-15	インスツルメンテーション 2	前歯部のスケーリング 1	近藤、白田 遠藤、大塚
16-18	インスツルメンテーション 3	前歯部のスケーリング 2	近藤、白田 遠藤、大塚
19-21	インスツルメンテーション 4	前歯部のスケーリング 3	近藤、白田 遠藤、小原
22-24	インスツルメンテーション 5	臼歯部のスケーリング 1	近藤、白田 遠藤、小原
25-27	インスツルメンテーション 6	臼歯部のスケーリング 2	近藤、白田 遠藤、大塚
28-30	インスツルメンテーション 7	臼歯部のスケーリング 3	近藤、白田 遠藤、大塚
31-33	インスツルメンテーション 8	臼歯部のスケーリング 4	近藤、白田 遠藤、大塚
34-36	歯面研磨 1	歯面研磨に使用する器材と取扱、方法	近藤、白田 遠藤、堀江
37-39	歯面研磨 2	歯面研磨の実際	近藤、白田 遠藤、大塚
40-42	ルートプレーニング 1	ルートプレーニングの基本	近藤、白田 遠藤、小原
43-45	ルートプレーニング 2	ルートプレーニング実習	近藤、白田 遠藤、小原
46-48	SRP 1 シャープニング	スケーリング、ルートプレーニング まとめ スケーラーのシャープニング	近藤、白田 遠藤、小原

## 2 学年後期・必修・42 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
49-51	SRP 2	基本の確認 スケーリング、ルートプレーニング	近藤、白田 小原、大塚

52-54	超音波スケーリング	超音波スケーリングの実際	近藤、遠藤 堀江、小原 大塚
55-57	相互実習について	相互実習について スケーラーのシャープニング、相互実習準備	近藤、白田 小原、大塚
58-60	相互実習 1	アセスメント 1 医療面接、口腔内観察、検査	品田、近藤 白田、遠藤 田澤、堀江 小原
61-63	相互実習 2	アセスメント 2 医療面接、口腔内観察、検査診断ステートメント	品田、近藤 白田、遠藤 田澤、堀江 小原
64-66	対象者の把握	記録の整理、歯科衛生診断のためのまとめ	近藤、小原
67-69	相互実習 3	ハンドスケーリング 前歯	品田、近藤 白田、遠藤 田澤、堀江 小原
70-72	相互実習 4	ハンドスケーリング 前歯	品田、近藤 白田、遠藤 堀江、小原 大塚
73-75	相互実習 5	ハンドスケーリング 臼歯	品田、近藤 白田、遠藤 田澤、小原 大塚
76-78	相互実習 6	ハンドスケーリング 臼歯	品田、近藤 白田、遠藤 田澤、小原 大塚
79-81	相互実習 7	超音波スケーラーによるスケーリング	品田、近藤 白田、遠藤 堀江、小原 大塚

82-84	相互実習 8	処置後の評価 医療面接、口腔内観察、検査	品田、近藤 白田、遠藤 田澤、小原 大塚
85-87	記録の整理と確認	記録の整理と確認、まとめ、評価	近藤、白田 遠藤、小原
88-90	フッ化物応用	フッ化物歯面塗布、フッ化物応用の方法と実際 (相互実習)	石川、近藤 白田、遠藤 小原、大塚

### 評価方法

- ・随時の小テストで形成的評価を行う。
- ・実習態度などを評価に加味する。
- ・2 学年後期末に、2 学年履修範囲 (2 単位相当) の実技試験および筆記試験による中間試験を実施し、総括的評価を行う。

### 参考図書等

- ・「歯科衛生士の臨床」 ウイルキンス著 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科予防処置」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・目で見えるペリオドンタルインスツルメンテーションⅠ「ベーシック スキル」 医歯薬出版
- ・目で見えるペリオドンタルインスツルメンテーションⅡ「アセスメントとインスツルメンテーション」 医歯薬出版
- ・目で見えるペリオドンタルインスツルメンテーションⅢ「デブライドメント」 医歯薬出版
- ・目で見えるペリオドンタルインスツルメンテーションⅣ「アドバンス スキル」 医歯薬出版
- ・授業の際に印刷物を配付、または e-learning システム上にアップロードする。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning 上へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員の Office hour (メールで約束してから来室してください)

近藤圭子	講師	随時	solan.pvoh@tmd.ac.jp
遠藤圭子	准教授	随時	usagi.aohc@tmd.ac.jp
白田千代子	講師	随時	hakuta.gohc@tmd.ac.jp
石川雅章	教授	平日	9:00-18:00 ishikawa.pohc@tmd.ac.jp
品田佳世子	教授	随時	shinada.ohp@tmd.ac.jp

科目名	口腔健康統計学・情報処理論
ユニット名	口腔健康統計学・情報処理論
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	寺岡加代
授業担当者	佐々木好幸（う蝕制御学分野）、品田佳世子、寺岡加代
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

### 学習目標

集団の口腔保健に関する問題を解決するための疫学的方法論を修得し、情報処理の実際を体験する。

### 到達目標

- ・衛生統計の意義および目標を説明する。
- ・資料の収集方法について説明する。
- ・標本の抽出について説明する。
- ・う蝕の検出と指数を説明する。
- ・歯周疾患の検出と指数を説明する。
- ・口腔清掃状態と歯石の指数を説明する。
- ・検定の意味についての概略を説明する。
- ・基本的なデータ集計、データ分析ができる。
- ・医学論文における基本的な解析結果を説明する。
- ・情報を法的・倫理的に正しく取り扱うことができる。

### 授業計画 2 学年後期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	保健統計の意義と目標	保健統計の果たす役割	佐々木好幸
2	疫学の成果	疫学の定義・成果・要因・タイプ	佐々木好幸
3	疫学の実際	疫学研究の方法論	佐々木好幸
4	資料の作成および指標と尺度	調査票の作成における留意点、尺度や数量化の方法	佐々木好幸
5	調査の実施と資料の真実性	調査の実施方法、統計資料の真実性の考察	佐々木好幸
6	マスキング	各種マスキングの方法と実例	佐々木好幸

7	母集団と標本	母集団に対する標本の一般化の可能性と代表性	佐々木好幸
8	バイアス	系統誤差の種類とその対策	佐々木好幸
9	交絡	因果推論と交絡	佐々木好幸
10	リスクとリスクファクタ	リスクとリスクファクタの相違	佐々木好幸
11	口腔診査の疫学的意義	口腔診査法の変遷とそれぞれの特徴、歯科検診における誤差の考察	佐々木好幸
12	スクリーニングと診断	スクリーニングの方法と特性の評価法	佐々木好幸
13	情報の分析	情報分析の方法論	佐々木好幸
14	標本抽出法	いろいろな標本抽出法	佐々木好幸
15	標本抽出演習	正規母集団からの標本抽出と集計実習	佐々木好幸
16	標本抽出のまとめ	抽出標本からの母集団の推定	佐々木好幸
17	う蝕の検出基準と指数	う蝕の各種検出基準・指数とその意義	佐々木好幸
18	う蝕の指数に関する演習	う蝕の各種指数の集団における評価の演習	佐々木好幸
19	歯周疾患の検出基準と指数	歯周疾患の各種検出基準・指数とその意義	佐々木好幸
20	歯周疾患の指数に関する演習	歯周疾患の各種指数の集団における評価の演習	佐々木好幸
21	口腔清掃状態および歯石の検出基準と指数	口腔清掃状態・歯石の各種検出基準・指数とその意義	品田佳世子
22	口腔清掃状態および歯石の指数に関する演習	口腔清掃状態・歯石の各種指数の集団における評価の演習	品田佳世子
23	歯のフッ素症・酸蝕症などの検出基準と指数	歯のフッ素症・酸蝕症等の各種検出基準・指数とその意義	寺岡加代
24	歯のフッ素症・酸蝕症などの指数に関する演習	歯のフッ素症・酸蝕症等の各種指数の集団における評価の演習	寺岡加代
25	グラフ	グラフの読解と使い分け	佐々木好幸
26	規格化と相関	規格化の方法と関連の表現法	佐々木好幸
27	推定	統計的推定法	佐々木好幸
28	検定	検定の使い分け	佐々木好幸
29	個人情報とプライバシー	個人情報とプライバシーの相違	佐々木好幸
30	情報に関する倫理	情報に関する倫理	佐々木好幸

## 評価方法

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

## 参考図書等

- ・「解説 平成 17 年歯科疾患実態調査」 歯科疾患実態調査報告解析検討委員会編 口腔保健協会
- ・「歯科衛生の動向 2007 年版」 日本口腔衛生学会編 医歯薬出版
- ・「歯科保健関係統計資料」 歯科保健医療研究会編 口腔保健協会
- ・歯科衛生士教本「歯科衛生統計」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

## 担当教員の office hour

寺岡加代	教授	随時	ktera.ohce@tmd.ac.jp
品田佳世子	教授	随時	shinada.ohp@tmd.ac.jp
佐々木 好幸	準教授	随時	sasaki.prev@tms.ac.jp

科目名	口腔健康教育
ユニット名	口腔健康教育
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2学年前期・必修2単位・30時間
責任者	遠藤圭子
授業担当者	遠藤圭子、白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室、歯学部 演習室

### 学習目標

ライフステージ毎の健康課題に基づいて、口腔健康教育のアセスメントから評価に至る流れを理解する。

### 到達目標

- ・口腔健康教育を説明する。
- ・ライフステージ毎の健康課題を説明する。
- ・歯科衛生過程を活用した健康教育実践の流れを説明する。
- ・歯科衛生に関わる理論を説明する。
- ・ニーズの把握について説明する。
- ・アセスメント、歯科衛生診断、歯科衛生計画、実施、評価の各ステップを説明する。
- ・健康教育計画立案のモデルを使い、課題に関する健康教育を企画する。
- ・家庭、地域、学校、職域における健康教育の実際を知る。
- ・視聴覚教材の種類と特徴、作成および使用に際しての留意点を説明する。

### 授業計画 2学年前期・必修2単位・30時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	口腔健康教育とは	健康教育・口腔健康教育の定義と考え方	遠藤圭子
3, 4	ライフステージ毎の健康課題	健康のとらえ方、発達課題	遠藤圭子
5, 6	口腔健康教育の基盤となる理論 健康教育のための計画づくり	ニーズ診断、行動理論 アセスメント、診断、計画、実施、評価の意味	遠藤圭子
7, 8	健康教育の実践	健康教育実践に必要なスキル	白田千代子

9, 10	健康教育の評価	評価とは何か、評価の種類	遠藤圭子
11, 12	評価の具体的な事例	保健行政における健康教育評価	白田千代子
13, 14	社会的アプローチ	健康権、ソーシャルマーケティング	遠藤圭子
15, 16	健康教育の展開－家庭	家庭における健康教育の実際	白田千代子
17, 18	健康教育の展開－学校	学校における健康教育の実際	遠藤圭子
19, 20	健康教育の展開－職域	職域における健康教育の実際	白田千代子
21, 22	健康教育の展開－地域	地域における健康教育の実際	白田千代子
23, 24	課題別健康教育－ライフスキル	ライフスタイル支援のあり方	遠藤圭子
25, 26	課題別健康教育－運動	運動指針、筋力トレーニング 禁煙支援	遠藤圭子
27, 28	課題別健康教育－栄養、休養	食育、余暇時間	遠藤圭子
29, 30	まとめ	まとめ	遠藤圭子

### 評価方法

- ・課題レポート、期末の試験で総括的評価を行う。
- ・受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・日本健康教育学会編 「健康教育 ヘルスプロモーションの展開」 保健同人社
- ・全国歯科衛生士教育協議会編 新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 医歯薬出版
- ・平成 17 年歯科疾患実態調査報告書 口腔保健協会
- ・授業の際、印刷物を配布する。

### 留意事項

事前配布資料や e-learning 上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員の Office hour

遠藤圭子 准教授 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp  
 白田千代子 講師 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp

科目名	口腔健康教育実習
ユニット名	口腔健康教育実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・51 時間 } 2 単位 2 学年後期・必修・39 時間 }
科目・ユニット責任者	白田千代子
授業担当者	白田千代子、遠藤圭子、近藤圭子、大塚紘未（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

### 学習目標

口腔健康教育の実践に必要な知識-技術を修得し、実践力を培う。

### 到達目標

- ・生活と口腔保健行動の関連を説明する。
- ・自分の歯や口の現状を観察、唾液検査をする。
- ・自分自身の口腔の現状を把握して、口腔健康教育計画を立てる。
- ・歯科衛生過程と使って、健康教育の内容を組み立てる。
- ・対象者の健康行動調査を行い、集計、分析して、問題点を列挙する。
- ・対象者の生活習慣と口腔保健に関するアセスメントをする。
- ・アセスメント内容を活用して、歯科衛生診断、計画立案をする。
- ・対象者に合わせた健康教育計画を立てる。
- ・口腔健康教育実践のためのツールを説明する。
- ・口腔清掃の用具の種類と用途、口腔機能の向上の術式を説明する。
- ・口腔清掃、口腔機能の向上指導の流れを実施する。
- ・口腔内写真撮影を行い、評価して、得られる情報を列挙する。
- ・小学生対象の健康教育を実践する。

### 授業計画

#### 2 学年前期・必修・51 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	口腔健康教育実習の意義と具体的内容	口腔健康教育と実習の意義、生活と口腔保健行動	白田、遠藤 近藤、大塚
4-6	学生生活の実態と健康行動	学生の生活実態、健康行動	白田、遠藤 近藤、大塚

7-9	歯科衛生過程 1 アセスメント 2 歯科衛生診断	歯科衛生過程に基づいて、各要素を検討する アセスメント 歯科衛生診断	白田、遠藤 近藤、大塚
10-12	対象者の口腔保健と生活	各自の口腔観察、サリバテスト、PCR 等の 実際 生活に関する情報の収集、整理	白田、遠藤 近藤、大塚
13-15	口腔環境 口腔機能	検査結果の分析、その評価	白田、遠藤 近藤、大塚
16-18	歯科衛生診断	アタックポイントの検討、優先順位の決定	白田、遠藤 近藤、大塚
19-21	計画立案 実践	結果を活用した計画立案 実践に必要な基礎的情報	白田、遠藤 近藤、大塚
22-24	T 小学校健康教育実習	T 小学校における健康教育実習の目的 1・2 年対象の健康教育の実際、報告書作成	白田、遠藤 近藤、大塚
25-27	ブラッシング法	ブラッシング法の種類、利点と欠点 口腔内の状態によるブラッシング法の選択	白田、遠藤 近藤、大塚
28-30	様々な口腔清掃用具	舌ブラシ、粘膜ブラシ、電動歯ブラシ、口 腔洗浄器	白田、遠藤 近藤、大塚
31-33	口腔清掃関連器材	歯垢染め出し剤の使用意義と使用上の注 意	白田、遠藤 近藤、大塚
34-36	対象別健康教育事例検討 1 対象別健康教育事例検討 2	妊娠期の健康課題 乳幼児期の健康課題	白田、遠藤 近藤、大塚
37-39	対象別健康教育事例検討 3 対象別健康教育事例検討 4	学童期の健康課題 思春期の健康課題	白田、遠藤 近藤、大塚
40-42	対象別健康教育事例検討 5 対象別健康教育事例検討 6	成人期の健康課題 高齢期の健康課題	白田、遠藤 近藤、大塚
43-45	対象別健康教育事例検討 7	在宅高齢者の健康課題、訪問活動とは、居 宅訪問時の留意点、アセスメント、BDR、 ADL	白田、遠藤 近藤、大塚
46-48	小学生の生活と保健行動把 握 1	調査項目の設定、調査票の設計	白田、遠藤 近藤、大塚
49-51	小学生の生活と保健行動把 握 2	小学生の保健行動に関する文献検索	白田、遠藤 近藤、大塚

2 学年後期・必修・39 時間

回	授業題目	授業内容	担当者
52, 53	小学生対象の健康教育 1	学童対象の健康教育計画	白田、遠藤 近藤、大塚
54	海外の歯科保健事情	歯科保健の現状、歯科衛生士の役割	白田、遠藤 近藤、大塚
55-57	視聴覚教材の種類と応用法	視聴覚教材とは、種類、長所-欠点、応用法	白田、遠藤 近藤、大塚
58-60	口腔内写真撮影 1 写真撮影の基礎	デジタルカメラの取り扱い、撮影、パソコンへの取り込み-整理、管理法	白田、遠藤 近藤、大塚
61-62	小学生対象の健康教育 2	歯科衛生診断、計画立案、健康教育目標の設定媒体、シナリオ（絵コンテ）作成	白田、遠藤 近藤、大塚
63-65	口腔内写真撮影 2 相互実習	口角鈎、写真用ミラーの使用上の注意 相互実習時の配慮点 写真撮影、写真の整理-管理	白田、遠藤 近藤、大塚
66-68	小学生対象の健康教育 3	リハーサル、評価 健康教育評価法の選択	白田、遠藤 近藤、大塚
69-72	口腔内写真撮影 3 相互実習	写真撮影、写真の整理-管理 報告書の作成	白田、遠藤 近藤、大塚
73-75	小学生対象の健康教育 4	集団対象時の留意点（服装、話し方、発声、視線の向け方、媒体の使用法 等）	白田、遠藤 近藤、大塚
76-78	小学校健康教育実習 5	実習、事後評価	白田、遠藤 近藤、大塚
79-81	臨床の場における健康教育：症例検討	患者に関する情報の収集、健康教育法 模型、実物の活用の仕方	白田、遠藤 近藤、大塚
82-84	小学生対象の健康教育 6	学校、保護者への結果報告書の作成	白田、遠藤 近藤、大塚
85-87	症例検討報告	報告書の作成、発表、討議	白田、遠藤 近藤、大塚
88-90	まとめ	健康教育の意義と場	白田、遠藤 近藤、大塚

## 評価方法

授業態度、グループワークでの役割行動、出席、提出物、期末試験によって、総括的評価を行う。

## 参考図書

- ・「平成 17 年歯科疾患実態調査報告」 厚生労働省医政局歯科保健課編 口腔保健協会
- ・新歯科衛生士教本「保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯がなかもちするプラークコントロールのグッドテクニック 伊藤公一他編 クインテッセンス出版
- ・「歯と口の健康百科」 伊藤公一他編 医歯薬出版
- ・「子どもの声を生かした保健室活動
- ・「大規模校における養護教諭と子どもたち」 尾花美恵子 不昧堂出版
- ・「お母さんの疑問にこたえる すこやかな口 元気な子ども」 田中英一、佐々木洋他 医歯薬出版
- ・臨地実習 HAND BOOK 真木吉信、相場千佳子、船奥律子、北原 稔、白田チヨ監著 クインテッセンス出版

## 留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。
- ・授業進度や学外実習先の状況によって、関連の授業項目の順序が入れ替わることがある。

## 担当教員の Office hour

白田千代子	講師	随時	hakuta.gohc@tmd.ac.jp
遠藤圭子	准教授	随時	usagi.aohc@tmd.ac.jp
近藤圭子	講師	随時	solan.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	食生活教育
ユニット名	食生活論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	小野寺光江
授業担当者	小野寺光江、森田育男（分子細胞機能学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

### 学習目標

・日本人の食生活の現状を把握し、栄養成分の消化・吸収・代謝と健康の維持・増進、生活活動のために必要な栄養素を理解する。

### 到達目標

- ・国民健康・栄養調査について理解し説明する。
- ・日本人の食事摂取基準について理解し説明する。
- ・ライフステージに適した食生活について理解し説明する。
- ・保健機能食品について理解し説明する。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	日本人の食生活 1	国民健康・栄養調査ほか	小野寺光江
2	日本人の食生活 2	日本人の食事摂取基準ほか	小野寺光江
3	ライフステージと食生活 1	成長・発達・加齢による食に関する機能の変化と食生活	小野寺光江
4	ライフステージと食生活 2	母性の栄養と食生活	小野寺光江
5	ライフステージと食生活 3	乳児期の栄養と食生活	小野寺光江
6	ライフステージと食生活 4	幼児期の栄養と食生活	小野寺光江
7	ライフステージと食生活 5	学童期の栄養と食生活	小野寺光江
8	ライフステージと食生活 6	青少年期の栄養と食生活	小野寺光江
9	ライフステージと食生活 7	成人期の栄養と食生活	小野寺光江
10	ライフステージと食生活 8	高齢期の栄養と食生活	小野寺光江

11, 12	保健機能食品 1	食品安全学、保健機能食品学概論	森田育男
13, 14	保健機能食品 2	保健機能食品学特論	森田育男
15	まとめ	まとめ	小野寺光江

### 評価方法

- ・ 期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
- ・ 出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・ 最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 2 栄養と代謝 全国歯科衛生士教育協議会監修  
医歯薬出版 2010 年 ISBN978-4-263-42819-1
- ・ 食品成分表 香川芳子監修 女子栄養大学出版部 2011 年 ISBN978-4-7895-1001-1
- ・ 「わかりやすい栄養学」第 3 版 中村美知子・長谷川恭子編集 ニューヴェルヒロカワ 2009 年  
ISBN978-4-86174-024-4

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員の Office hour

小野寺光江 講師 随時 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp  
森田育男 教授 随時 morita.cell@tmd.ac.jp

科目名	食生活教育
ユニット名	栄養指導
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2学年前期・必修1単位・15時間
科目・ユニット責任者	寺岡加代
授業担当者	寺岡加代、小野寺光江
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

### 学習目標

栄養学の知識を基に食生活について理解し、栄養指導に必要な知識と技能を修得する。

### 到達目標

- ・ 栄養指導の意義を説明する。
- ・ 個人の栄養・食生活を分析する。
- ・ 食生活と口腔保健の関連を説明する。
- ・ 食品の形態と食べやすさの関係について説明する。
- ・ 疾病と栄養指導との関連を説明する。
- ・ 口腔保健の立場から個人および集団に対する栄養指導をする。

### 授業計画 2学年前期・必修1単位・15時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	栄養指導の基礎知識1	栄養指導の意義 (食育、有病者の栄養管理を含む)	寺岡加代
2	栄養指導の基礎知識2	栄養・食事バランスの分析1	寺岡加代
3	栄養指導の基礎知識3	栄養・食事バランスの分析2	寺岡加代
4	栄養指導の基礎知識4	栄養・食事バランスの分析3	寺岡加代
5	栄養指導の基礎知識5	食生活と口腔保健の関連1 咀嚼の全身への影響	寺岡加代
6	栄養指導の基礎知識6	食生活と口腔保健の関連2 食生活と口腔機能	寺岡加代
7	栄養指導の基礎知識7	食生活と口腔保健の関連3 食品のう蝕誘発能	寺岡加代

8	栄養指導の基礎知識8	食品の形態と食べやすさの関係	寺岡加代
9	栄養指導の基礎知識9	疾病と栄養指導1	小野寺光江
10	栄養指導の基礎知識10	疾病と栄養指導2	小野寺光江
11	栄養指導演習1	栄養指導実例1	寺岡加代
12	栄養指導演習2	栄養指導実例2	寺岡加代
13	栄養指導演習3	栄養指導実例3	寺岡加代
14	栄養指導演習4	栄養指導実例4	寺岡加代
15	まとめ	まとめ	寺岡加代

### 評価方法

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・副読本：食品成分表 改訂最新版 香川芳子監修 女子栄養大学出版部
- ・最新歯科衛生士教本 「人体の構造と機能2 栄養と代謝」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医師薬出版
- ・「歯科栄養」 小鹿眞理、加藤靖正著 学建書院
- ・「わかりやすい栄養学」第3版 中村美知子・長谷川恭子編集 ヌーヴェルヒロカワ
- ・「糖尿病食事療法のための食品交換表」第6版 日本糖尿病学会編 日本糖尿病協会 文光堂

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のoffice hour

寺岡加代 教授 随時 ktera.ohce@tmd.ac.jp

小野寺光江 講師 随時 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp

科目名	医学一般
ユニット名	医学一般
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・30 時間 3 学年前期・必修・30 時間 単位認定（4 単位）は3 学年前期終了時に行う
科目・ユニット責任者	吉増秀實
授業担当者	下門顕太郎（血流制御内科学分野）、藤江俊秀（総合呼吸器病学分野）、磯部光章・蜂谷 仁（循環制御内科学分野）、吉本貴宣・三原正朋（分子内分泌内科学）、岡本隆一（消化器病態学分野）、水澤英洋（神経内科）、江渡加代子（腎臓内科学分野）、山本正宏（血液内科学分野）、高村聡人（膠原病・リウマチ内科学分野）、成相直（脳神経機能外科学分野）、中島康晃（食道・胃外科学分野）、医学部教員（大腸・肛門外科学分野）、石黒めぐみ・佐藤隆宣（腫瘍外科学分野）、伴大輔（肝胆膵・総合外科学分野）伊藤聡一郎（長津田厚生総合病院）、古賀英之（運動器外科学分野）、高嶺智子・若菜公雄（生殖機能協関学分野）、西川徹・車地暁生（精神行動医科学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

### 学習目標

- ・口腔保健活動を行うために必要な臨床医学の各分野の知識を身につける。

### 到達目標

- ・主な感染症を説明する。
- ・主な循環器疾患を説明する。
- ・主な呼吸器疾患を説明する。
- ・主な消化器疾患を説明する。
- ・主な神経疾患を説明する。
- ・主な血液疾患を説明する。
- ・主な精神疾患を説明する。
- ・主な骨・関節・結合組織疾患を説明する。
- ・主な精神疾患を説明する。
- ・臓器移植を概説する。
- ・主な先天性疾患を説明する。（3年）

- ・ 主な小児科疾患を説明する。(3年)
- ・ 主な皮膚疾患を説明する。(3年)
- ・ 主な耳鼻咽喉科疾患を説明する。(3年)
- ・ 主な眼科疾患を説明する。(3年)
- ・ 主な泌尿器科疾患を説明する。(3年)
- ・ 老化に伴う主な疾患を説明する。(3年)
- ・ 再生医療を概説する。(3年)
- ・ 救急医療について概説する。(3年)
- ・ 機能障害およびリハビリテーション医療を説明する。(3年)
- ・ 有病者の歯科治療・口腔保健活動における対応法を説明する(3年)。

### 授業計画 2 学年後期・必修・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	内科	内科総論	下門顕太郎
2	内科	呼吸器疾患	藤江俊秀
3	内科	循環器疾患 1	磯部光章
4	内科	循環器疾患 2	蜂谷 仁
5	内科	代謝性疾患	吉本貴宣
6	内科	内分泌疾患	三原正明
7, 8	内科	消化管疾患, 肝・胆・膵疾患	岡本隆一
9	内科	神経疾患	水澤英洋
10	内科	腎臓疾患	江渡加代子
11	内科	血液疾患	山本正宏
12	内科	膠原病・リウマチ	高村聡人
13, 14	脳神経外科	脳血管障害、脳腫瘍等	成相 直
15	外科	食道・胃外科	中島康晃
16	外科	大腸・肛門外科	石黒めぐみ
17	外科	肝胆膵外科	伴 大輔
18	外科	乳腺外科	佐藤隆宣
19, 20	整形外科	神経系疾患	伊藤聡一郎
21, 22	整形外科	関節系疾患	古賀英之
23, 24	産婦人科	妊娠、出産、不妊治療、更年期障害など	高嶺智子

25, 26	産婦人科	子宮筋腫、子宮がん、卵巣がんなど	若菜公雄
27, 28	精神科	うつ病、統合失調症	西川 徹
29, 30	精神科	認知症	車地暁生

### 評価方法

- ・2 学年後期末に 2 学年履修範囲（2 単位相当）の中間試験を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・中間試験の受験資格は、東京医科歯科大学歯学部試験規則第 11 条に準ずる。

### 参考図書等

- ・新版社会福祉士要請講座 13 「医学一般」 第 2 版 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規
- ・社会福祉士養成テキストブック 16 「医学一般」 黒田研二、竹内孝仁編著 ミネルヴァ書房

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員の Office hour

吉増秀實 教授 火・木 16:00-18:00 h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp

科目名	口腔と全身の健康評価
ユニット名	生活習慣と疾患
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	吉増秀實・小野寺光江
授業担当者	口腔保健学科教員ほか
主な授業場所	歯学部演習室ほか

### 学習目標

生活習慣病を理解し、口腔保健衛生活動が生活習慣病予防に果たす役割について理解する。

### 到達目標

- ・生活習慣病について理解し説明する。
- ・生活習慣病を引き起こす生活習慣とその予防法について理解し説明する。
- ・生活習慣病を引き起こす生活習慣要因以外の要因について理解し説明する。
- ・生活習慣病と日本人の死亡原因について理解し説明する。
- ・生活習慣病におけるヘルスプロモーションの重要性を理解し説明する。
- ・生活習慣病をもつ人びとに対する健康教育の重要性を理解し説明する。
- ・生活習慣病と歯周病との関係について理解し説明する。
- ・生活習慣病に関する問題を自ら発見し、解決するための方法を検討する。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	セッション 1	シナリオ 1	口腔保健学科教員
4-6	セッション 2	シナリオ 1 の発表、シナリオ 2	口腔保健学科教員
7-9	セッション 3	シナリオ 2 の発表、シナリオ 3	口腔保健学科教員
10, 11	セッション 4	シナリオ 3 の発表	口腔保健学科教員
12	PBL 試験 1	口頭試問用シナリオ	口腔保健学科教員
13-15	PBL 試験 2	口頭試問	口腔保健学科教員

### 評価方法

- ・セッション毎に、チューターによる形成的評価を行う。

- ・ PBL 口頭試問および期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・ 出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

#### **留意事項**

- ・ PBL テュートリアルブックをよく読んで、グラドルールを厳守すること。
- ・ 事前に資料の配付、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。
- ・ 必要に応じ、科目責任者(演習)、担当テューターによる面談を行うことがある。

#### **担当教員の Office hour**

小野寺光江 講師 随時 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp

科目名	口腔と全身の健康評価
ユニット名	口腔と全身の健康評価・臨床検査
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	吉増秀實
授業担当者	吉増秀實・近藤圭子・品田佳世子、木下淳博（教育メディア開発学分野）、吉野教夫（口腔放射線医学分野）、岡田憲彦（中央検査部）、小林 裕（都立広尾病院）
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室・相互実習室

### 学習目標

口腔保健の実践に必要な口腔と全身の健康評価についての理論と実際を理解し、個々の対象者に応用できる問題解決能力を身につける。

### 到達目標

- ・ 診断のための医療面接を説明する。
- ・ 面接および検査の結果を、業務記録に記載する。
- ・ バイタルサインの意義を説明する。
- ・ 口腔および頭頸部の臨床評価について説明し、実施する。
- ・ 口腔疾患と全身疾患の関係を説明する。
- ・ 口腔領域のエックス線写真を読影する。
- ・ 口腔内の検査を実施し、その結果を評価する。
- ・ 主な臨床検査について説明する。
- ・ 提示された事例についての口腔健康診断を行い、口腔保健活動計画を立案する。

### 授業計画 2 学年後期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	口腔と全身の健康評価の概要	歯科衛生過程の構成要素、診断とは、歯科衛生診断と歯科診断の違い	吉増秀實
2, 3	医療面接	診断のための医療面接、面接にあたり注意すべき点、問診の方法	吉増秀實
4	バイタルサイン	全身状態の把握のためのバイタルサインのとり方	吉増秀實

5	口腔外アセスメント	頭頸部の健康状態の把握、顔面および頸部リンパ節の診査法（視診、触診）	吉増秀實
6	口腔内アセスメント	口腔内の健康状態の把握、口腔粘膜、唾液腺、顎骨等の診査、歯および歯周組織の診査、口腔衛生状態の評価	吉増秀實
7-9	口腔内アセスメント	口腔内の健康状態の把握、口腔粘膜、唾液腺、顎骨等の診査、歯および歯周組織の診査、口腔衛生状態の評価	木下淳博
10-12	口腔疾患と全身疾患の関連	口腔領域に症状が現れる全身疾患・全身に影響を及ぼす口腔疾患	小林 裕
13, 14	歯科衛生過程の各ステージと相互関連	アセスメント、問題の明確化、計画立案（目標設定と方略）、実施・評価	近藤圭子
15	業務記録	業務記録とは、業務記録の記載内容、記載法	近藤圭子
16-18	画像診断	歯と歯周組織のX線診断、デンタルX線写真、パノラマX線写真等の読影法（正常像、異常像）等	吉野教夫
19-21	口臭検査・唾液検査	口臭検査、唾液検査の講義・実習	品田佳世子
22-24	臨床検査 1	臨床検査概論、血液検査	岡田憲彦
25-27	臨床検査 2	肝機能検査、腎機能検査、感染症検査	岡田憲彦
28-30	臨床検査 3	病理検査、口腔領域の検査	岡田憲彦

## 評価方法

- ・随時小テストを行い、形成的評価を行う。
- ・期末に客観試験、記述試験を行い、総括的評価を行う。
- ・講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

## 参考図書等

- ・「Dental Hygiene Process: Diagnosis and care planning」 Mueller-Joseph L, Petersen M., Delmar Publishers
- ・「Clinical Practice of the Dental Hygienist」 Wilkins, Esther M., Lippincott Williams & Wilkins
- ・「歯科衛生ケアプロセス」 下野正基 監修 医歯薬出版
- ・「デンタルコミュニケーション」一歯科医療面接総論― 山田隆文著 学建書院
- ・「内科診断学」 福井次矢、奈良信雄編 医学書院

- ・「診察の技法と考え方」 寺本民生、秋葉隆編著 中外医学社
- ・「口腔診断学」 下里常弘監修 稔、長坂信夫、船越正也著 デンタルダイヤモンド社
- ・「口腔病変と患者の診かた」 富田喜内、河村正昭、福田博著 医歯薬出版
- ・「最新口腔外科学」 第4版(総論) 塩田重利、富田喜内監修 医歯薬出版

#### **留意事項**

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

#### **担当教員の Office hour**

吉増秀實 教授 火・木 16:00-18:00 h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp

科目名	臨床口腔保健衛生基礎学
ユニット名	臨床口腔保健衛生基礎学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	近藤圭子
授業担当者	近藤圭子、遠藤圭子、石川雅章、品田佳世子、吉増秀實、下山和弘、寺岡加代
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

### 学習目標

口腔保健・歯科医療の変遷と現状、歯科医療従事者の種類と役割、歯科診療の概要を理解する。

### 到達目標

- ・口腔保健・歯科医療の変遷と現状を理解する。
- ・歯科患者の特徴、心理状態を理解し説明する。
- ・歯科診療従事者の種類をあげ、それぞれの役割が説明できる。
- ・歯科診療の流れと概要を理解する。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	口腔保健、歯科医療	口腔保健、歯科医療の変遷と現状、予測	近藤圭子
3, 4	歯科診療従事者と歯科受診患者	臨床の場における専門職種との協働、患者対応の留意点	遠藤圭子
5, 6	乳幼児・小児の歯科診療の概要	う蝕・歯周病の予防と抑制、不正咬合とその治療	石川雅章
7, 8	成人における歯科診療の概要 1	う蝕と歯周病の予防と保存治療、メンテナンス	品田佳世子
9, 10	成人における歯科診療の概要 2	口腔外科的疾患の治療とメンテナンス	吉増秀實
11, 12	成人における歯科診療の概要 3	歯の欠損・喪失と歯科補綴治療、咬合回復	下山和弘
13, 14	歯科保健・医療制度の概要	歯科保健・医療サービスの提供システム	寺岡加代
15	まとめ	まとめ	近藤圭子

## 評価方法

必要に応じてレポートの提出を課すとともに、期末に客観試験、記述試験を行い、総括的評価を行う。

## 参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」  
全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

## 担当教員の Office hour

吉増秀實	教授	火・木	16:00-18:00	h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp
石川雅章	教授	平日	9:00-18:00	ishikawa.dohs@tmd.ac.jp
寺岡加代	教授	随時		ktera.ohce@tmd.ac.jp
下山和弘	教授	木	17:00-18:00	k.shimoyama.gohc@tmd.ac.jp
品田佳世子	教授	随時		shinada.ohp@tmd.ac.jp
遠藤圭子	准教授	随時		usagi.aohc@tmd.ac.jp
近藤圭子	講師	随時		solan.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	臨床口腔保健衛生基礎学
ユニット名	歯科放射線学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	近藤圭子
授業担当者	大林尚人（口腔放射線医学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

### 学習目標

歯科診療の診断に必要な放射線に関して、チーム医療に必要な知識、基本的手技を習得する。

### 到達目標

- ・放射線物理の基本的な内容を理解する。
- ・歯科放射線の撮影方法について理解する。
- ・放射線撮影にあたり、撮影の意味とその被曝の程度や適切な防護について説明理解する。
- ・放射線の生物に対する影響を理解する。
- ・放射線治療の概要について理解する。
- ・CTやMRIなどの画像診断法について概説できる。

### 授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	放射線物理学 1	放射線の種類と同位元素、X線の発生、X線の性質と物質透過性、X線像の成り立ち	大林尚人
3, 4	放射線物理学 2	X線像の成り立ちとその性質	大林尚人
5, 6	X線装置と撮影用器材 1	歯科用X線発生装置、パノラマX線撮影装置、頭部X線規格撮影装置、フィルムと増感紙	大林尚人
7, 8	撮影用器材 2、X線撮影法（口内法）	撮影用器材、X線撮影法（口内法：2等分面法、平行法、口翼法、咬合法）、口内法X線写真の読影	大林尚人
9, 10	パノラマX線撮影、現像法	パノラマX線撮影、パノラマX線写真の読影、各種現像法	大林尚人
11, 12	デジタルX線画像、放射線生物学	デジタルX線画像の特徴と性質、放射線が生物に与える影響	大林尚人

13, 14	放射線の管理と防護、放射線治療	放射線の管理、防護	大林尚人
15	新しい画像診断法	CT、MRI、PET/CT ほか sq	大林尚人

### 評価方法

必要に応じてレポートの提出を課すとともに、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

### 参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科放射線」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
- ・歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学 有地榮一郎ほか監修 学建書院
- ・「歯科放射線学」 古本啓一、山本昭、岡野友宏著 医歯薬出版
- ・「理科年表（平成 23 年度版）」東京天文台編 丸善

### 担当教員の Office hour

大林尚人 講師 月～木 16:00-17:00 nao.orad@tmd.ac.jp

科目名	臨床口腔保健衛生基礎学
ユニット名	歯科生体材料学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	近藤圭子
授業担当者	高橋英和（生体材料加工学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

### 学習目標

顎口腔歯科領域の治療に使用される歯科生体材料の種類と使用方法について学習する。

### 到達目標

- ・ 歯科生体材料の一般的性質を理解する。
- ・ 石膏の種類と使用方法を理解する。
- ・ 印象材の種類と使用方法について理解する。
- ・ セメント（合着用セメント、成形修復用セメント）の種類と使用方法について説明する。
- ・ アクリルレジンおよびコンポジットレジンの種類と使用方法について説明できる。
- ・ 歯科補綴治療（インプラントを含む）に使用する材料の種類と使用方法を概説する。
- ・ 歯科生体材料の安全性について理解する。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	歯科生体材料の特徴、歯科生体材料の生体適合性	歯科生体材料の特徴とその素材, 歯科材料の所要性質、生体適合性の重要性、生体適合性の評価方法	高橋英和
2	歯科生体材料の物理的性質と化学的性質	歯科生体材料の物理的性質, 機械的性質、応力-ひずみ線図、硬さ	高橋英和
3	成形修復材 1	歯科用アマルガムの性質と取り扱い方法、グラスアイオノマーセメントの性質と取り扱い方法	高橋英和
4	成形修復材 2	コンポジットレジンの性質と取り扱い方法, 接着機序	高橋英和
5	印象材 1	印象材の所要性質、アルジネート印象材、寒天印象材	高橋英和

6	印象材 2	ゴム質印象材、非弾性印象材、機能印象材	高橋英和
7	模型材 1	模型材の所要性質、石膏の種類と性質	高橋英和
8	模型材 2	石膏の取り扱い方法	高橋英和
9	鑄造	歯科精密鑄造の概要とその特徴、鑄造用合金の種類と特徴	高橋英和
10	義歯床用材料	義歯床用レジンの特徴、レジンの重合、裏装材、義歯安定剤	高橋英和
11	合着材 1	合着材の所要性質と種類、リン酸亜鉛セメントの特徴と練和法	高橋英和
12	合着材 2	ポリカルボキシレートセメントの特徴と練和法、グラスアイオノマーセメントの特徴と練和法、接着性レジンセメントの特徴と練和法	高橋英和
13	歯内治療用材料、 予防歯科材料 矯正治療用材料	歯内療法に用いる小器具の特徴、仮封材の特徴、 予防充填材の種類と特徴、歯ブラシの構造矯正用ワイヤの特徴	高橋英和
14	口腔外科用材料 と感染予防 インプラント材 料とその他の材 料	顎義歯に用いる材料、エピーテーゼに用いる材料 インプラント材料の性質、歯科再生材料の性質、歯の 物性	高橋英和
15	まとめ	歯科生体材料のまとめ	高橋英和

### 評価方法

- ・ 期末の筆記試験で総括的評価を行う。
- ・ 必要に応じて小テストによる形成的評価を行う。
- ・ 出席状況、平常学習態度等を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・ 宮崎隆ほか編「臨床歯科理工学」 医歯薬出版 2006年
- ・ 小倉英夫ほか編「コア歯科理工学」 医歯薬出版 2008年
- ・ 必要に応じてプリントを配布する。

### 担当教員の Office hour

高橋英和 教授 火 16:00-19:00 takahashi.abm@tmd.ac.jp

科目名	臨床口腔保健衛生基礎学実習
ユニット名	臨床口腔保健衛生基礎学実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・45 時間 単位認定（2 単位）は 3 年前期（45 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	白田千代子
授業担当者	白田千代子、遠藤圭子、近藤圭子、小野寺光江、石川雅章、吉増秀實、下山和弘、安江透（歯冠修復工学分野）、辻美千子（矯正歯科外来）、秋本紗恵子・小原由紀・大塚紘未・田澤千鶴・堀江明子・稲場幸治・西川毅・安藤秀二（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 臨床基礎実習室・第4講義室、歯学科 実習室

### 学習目標

歯科臨床の場で必要な知識・器材の取扱・技術を理解し、基本的な歯科衛生士に必要な技術を身につける。

### 到達目標

- ・器材の種類・特性・用途を理解する。
- ・診療に必要な器械・材料・薬品の適切な準備と取扱を行う。
- ・器材の特製にあわせ、滅菌・消毒を行う。
- ・器材の管理の仕方を説明する。
- ・患者の誘導のしかたを説明する。
- ・チーム医療に必要な技能を理解する。
- ・各科に必要な器材を選択し、診療の流れにそって説明する。
- ・バイタルサイン（意識レベルを含む）を測定する。
- ・救急蘇生について説明し、その内容を理解する。

### 授業計画 2 学年後期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	歯科診療室の環境整備 共同動作の基本 インシデントとアクシデント	歯科診療室の基礎知識 診療室管理の実際 共同動作の概念 術者・補助者・患者のポジション 器具の受け渡し インシデント・アクシデント発生時の対応	白田、近藤 遠藤、大塚

4-6	滅菌と消毒の実践 1	滅菌・消毒・洗浄の定義 消毒薬使用の実際 各種滅菌器材の取り扱い	白田、近藤 遠藤、大塚 田澤
7-9	滅菌と消毒の実践 2	外科処置時の滅菌操作 滅菌グローブの装着 術衣の着用 穴布の使用法	白田、近藤 遠藤、大塚
10-12	共同動作の実際	患者の誘導（グループワークと実習） 姿勢と位置の確認（実習）	白田、近藤 遠藤、大塚
13-15	相互実習（共同動作）	バキュームテクニック、3WAY シリンジの 使用方法 ライティング、ミラーテクニック、器具の 受け渡し	白田、近藤 遠藤、大塚 田澤
16-18	歯科診療補助の概要	歯科治療の流れと歯科衛生士の役割 歯科器材の特徴と取扱いにおける注意点	白田、近藤 遠藤、大塚
19-21	歯科診療補助の実際	歯科に用いる薬剤・材料の管理 各診療における特徴的な歯科器具	白田、近藤 遠藤、大塚
22-24	歯科材料の取り扱い	アルジネート・セメントの練和と取扱	白田、近藤 遠藤、大塚 田澤
25-27	研究用模型の作製 1	全顎印象採得実習	下山、秋本 稲場、西川 安藤、大塚 田澤
28-30	研究用模型の作製 2	平行模型の作製	下山、安江 秋本、稲場 西川、安藤
31-33	小児歯科関連実習	ラバーダム防湿法 予防填塞（マネキン）	白田、大塚 近藤、遠藤
34-36	矯正歯科関連実習 1	矯正歯科における診査、検査、診断	辻、大塚
37-39	矯正歯科関連実習 2	矯正歯科における器材の取扱い（桔槔ほか）	辻、大塚
40-42	バイタルサイン	歯科診療に必要な計測、検査	吉増、小野寺 白田、近藤 大塚
43-45	まとめ	まとめ	

## 評価

- ・ 中間（2年次）と期末の筆記試験、実技試験及び提出レポート・課題により総括的評価する。
- ・ 出席状況、意欲・授業態度を総括的評価に加味する。

## 参考図書等

- ・ 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2007年
- ・ 器材準備マニュアル第5版 全国歯科衛生士教育協議会編 財団法人 口腔保健協会 2011年

## 留意事項

事前に資料の配布、e-learning システム上へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

## 担当教員の Office hour

白田千代子	講師	随時	hakuta.gohc@tmd.ac.jp
遠藤圭子	准教授	随時	usage.aohc@tmd.ac.jp
近藤圭子	講師	随時	solan.pvoh@tmd.ac.jp
小野寺光江	講師	随時	m.onodera.cohc@tmd.ac.jp
石川雅章	教授	随時	ishikawa.pohc@tmd.ac.jp
吉増秀實	教授	随時	h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp
下山和弘	教授	随時	k.shimoyama.gohc@tmd.ac.jp

科目名	口腔保健衛生基礎科学実習
ユニット名	口腔保健衛生基礎科学実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2学年前後期・必修1単位・45時間
科目・ユニット責任者	坂本裕次郎・杉本久美子（口腔基礎科学）
授業担当者	坂本裕次郎、青木和宏・田村幸彦（硬組織薬理学分野）、高橋英和（生体材料加工学分野）、杉本久美子（口腔基礎科学分野）、中川一路（細菌感染制御学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 基礎科学実習室・第3講義室、歯学部基礎実習室

### 学習目標

人体の構造と機能、薬理学・薬剤学、疾病の成り立ちと生体防御、および歯科生体材料学などの講義で学習した内容について、実習を通して理解を深める。

### 到達目標

- ・人体を構成する主要な骨、筋、神経、脈管および臓器の組織学的構造を観察し、説明する。
- ・組織標本の切片作製と染色を行い、光学顕微鏡観察の意義について説明する。
- ・人体を構成する主要な器官の病的状態を観察し、常態との違いを説明する。
- ・歯の脱灰過程を観察し、酸とう蝕の関係を説明する。
- ・咀嚼筋筋電図および誘発筋電図を記録し、筋収縮のしくみについて説明する。
- ・味覚および体性感覚の感覚検査を行い、感覚のしくみについて説明する。
- ・心筋の電気活動の観察に基づいて、心臓の働きについて説明する。
- ・歯科で用いられる生体材料の基本的な操作法を説明する。
- ・歯科で用いられる代表的な薬物の作用を観察し、薬物の特性を説明する。
- ・蛍光色素等の硬組織内への沈着を観察し、硬組織の成長・発育過程を説明する。
- ・細菌の分離培養とその細菌の鑑別を行う。

### 授業計画 2学年前後期・必修1単位・45時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	解剖組織実習1	組織標本の作製と観察1（組織切片の作製）	坂本裕次郎
4-6	解剖組織実習2	組織標本の作製と観察2（組織切片の染色）	坂本裕次郎
7-9	病理・組織実習	病理組織観察、歯の脱灰過程の観察	坂本裕次郎

10-12	薬理実習 1	全身麻酔薬の作用	青木和宏・ 田村幸彦
13-15	薬理実習 2	硬組織の薬理	青木和宏・ 田村幸彦
16-18	薬理実習 3	鎮痛薬の薬理、局所麻酔薬の作用	青木和宏・ 田村幸彦
19-21	歯科材料実習 1	石膏の硬化反応	高橋英和
22-24	生理実習 1	血圧・脈拍数・ヘモグロビン酸素飽和度・体温の測定、肺気量の計測	杉本久美子
25-27	歯科材料実習 2	印象採得と模型の精度	高橋英和
28-30	生理実習 2	感覚機能検査（皮膚感覚の測定、味覚閾値測定、嗅覚検査）	杉本久美子
31-33	歯科材料実習 3	歯科用セメント、常温重合型レジンとコンポジットレジンの硬化反応と寸法変化	高橋英和
34-36	生理実習 3	心機能、咀嚼筋筋電図	杉本久美子
37-39	細菌学実習 1	細菌の分子生物学的実験 1	中川一路
40-42	細菌学実習 2	細菌の分子生物学的実験 2	中川一路
43-45	細菌学実習 3	細菌の分子生物学的実験 3	中川一路

## 評価方法

出席状況、実習態度、提出レポートで総合的に評価を行う。

## 参考図書等

e-learning システム上にアップロード、または授業の際に印刷物を配付する。

## 留意事項

- ・必ず白衣を着用すること。
- ・事前に、配付される実習書を読み、関連知識を予習しておくこと。
- ・1～9回の解剖、病理・組織実習および22～24回、28～30回、34～36回の生理実習は、前半と後半の2グループに分かれて実習を行う。

## 担当教員の office hour

坂本裕次郎 講師 随時 y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp

青木和弘 准教授 月 16:00-18:00 kazu.hpha@tmd.ac.jp

田村幸彦 助教 金 16:00-18:00 tamu.hpha@tmd.ac.jp  
高橋英和 教授 火 17:00~19:00 takahashi.abm@tmd.ac.jp  
杉本久美子 教授 木 16:00-18:00 ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp  
中川一路 教授 月・木 16:00-18:00 ichiro-n.bac@tmd.ac.jp

科目名	現代社会と福祉 I
ユニット名	現代社会と福祉 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	坪井真
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

### 学習目標

- ・ 保健・医療・福祉の専門職に共通する人権擁護や社会正義などの価値・倫理を理解する。
- ・ 現代社会における社会福祉の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。

### 到達目標

- ・ 保健・医療・福祉の専門職に共通する人権擁護や社会正義などの価値・倫理を説明する。
- ・ 現代社会における社会福祉の意義を保健・医療・福祉専門職の価値・倫理と関連づけながら説明する。
- ・ 現代社会における福祉政策の構成要素や社会資源、関連政策などの概要を説明する。
- ・ 人々の生活と健康に関連する社会福祉の課題について、自らの意見を述べる。
- ・ 社会福祉と口腔保健の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度をもつ。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション	授業内容の理解、学習関心や学習方法の確認	坪井真
2	社会福祉の概念と理念	人びとの生活に関わる日本の社会福祉制度	坪井真
3	社会福祉の展開過程 1	前近代・近代社会における社会福祉の歴史	坪井真
4	社会福祉の展開過程 2	現代社会における社会福祉（実践と制度）	坪井真
5	社会福祉の展開過程 2	日本における保健・福祉・医療の展開過程	坪井真
6	グループ討議 1	人びとの健康と生活に関連する社会福祉の課題	坪井真
7	現代社会と福祉政策 1	現代社会の特徴と福祉政策の概念・理念	坪井真
8	現代社会と福祉政策 2	日本と諸外国における社会福祉と関連分野	坪井真
9	現代社会と福祉政策 3	人びとの健康に関連する日本の政策と国際動向	坪井真

10	グループ討議 2	人びとの健康に関連する政策と社会福祉	坪井真
11	専門職の価値・倫理 1	福祉の哲学・原理・価値・人間観	坪井真
12	専門職の価値・倫理 2	保健・医療・福祉専門職の特徴と共通点	坪井真
13	専門職の価値・倫理 1	健康にかかわる保健・医療・福祉専門職の役割	坪井真
14	グループ討議 3	人々の健康と生活を支援するために必要なこと	坪井真
15	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	坪井真

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・社会福祉士養成講座編集委員会編「現代社会と福祉」第2版（新・社会福祉士養成講座 第4巻）中央法規出版
- ・他随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

### 担当教員の Office hour

坪井真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	現代社会と福祉Ⅱ
ユニット名	現代社会と福祉Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・選択・7 時間 2 学年前期（夏季集中）・選択・38 時間 } 3 単位
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	坪井真
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

### 学習目標

- ・ 保健・医療・福祉の専門職に共通する人権擁護や社会正義などの価値・倫理を理解する。
- ・ 現代社会における社会福祉の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。

### 到達目標

- ・ 保健・医療・福祉の専門職に共通する人権擁護や社会正義などの価値・倫理を具体的に説明する。
- ・ 現代社会における社会福祉の意義を保健・医療・福祉専門職の価値・倫理と関連づけながら具体的に説明する。
- ・ 福祉政策におけるニーズと社会資源について説明する。
- ・ 福祉政策の課題や福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む）について説明する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について説明する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について説明する。
- ・ 人々の生活と健康に関連する社会福祉の課題について、自らの意見を具体的に述べる。
- ・ 社会福祉と口腔保健の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度をもつ。

### 授業計画

#### 2 学年前期・選択・7 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション	授業内容の理解、学習関心や学習方法の確認	坪井真
2-4	福祉政策におけるニーズと社会資源	ニーズと社会資源の定義、グループ演習①	坪井真
5-7	福祉政策の課題 1	現代の社会問題（貧困・失業・社会的排除等）	坪井真

## 2 学年前期（夏季集中）・選択・38 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
8-10	福祉政策の課題 2	社会的包摂とセーフティネット、グループ討議②	坪井真
11-13	福祉政策の課題 3	福祉国家の類型と福祉政策の国際比較	坪井真
14-16	福祉政策の課題 4	日本と諸外国の福祉政策、グループ討議③	坪井真
17-19	福祉政策の構成要素 1	福祉政策の視座と福祉供給部門の概要	坪井真
20-22	福祉政策の構成要素 2	福祉政策と日常生活、グループ討議④	坪井真
23-25	福祉政策の構成要素 3	福祉供給部門と地域社会、グループ討議⑤	坪井真
26-29	福祉政策の構成要素 4	福祉供給部門の特徴、グループ討議⑥	坪井真
30-33	福祉政策の構成要素 5	福祉政策と相談援助の関係、グループ討議⑦	坪井真
34, 35	福祉政策と関連政策 1	保健・医療・福祉分野の政策と生活関連政策	坪井真
36-39	福祉政策と関連政策 2	福祉政策と人々の健康・生活、グループ討議⑧	坪井真
40-43	福祉政策と関連政策 3	福祉政策と人々の健康・生活、グループ討議⑨	坪井真
44, 45	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	坪井真

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・社会福祉士養成講座編集委員会編「現代社会と福祉」第2版（新・社会福祉士養成講座 第4巻）中央法規出版
- ・他随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

### 担当教員の Office hour

坪井 真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度
ユニット名	低所得者に対する支援と生活保護制度
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2学年前期（夏季集中）・選択2単位・30時間
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	弓削俊雄
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

### 学習目標

- ・低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。
- ・生活保護制度や関連制度、自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。

### 到達目標

- ・低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について説明する。
- ・相談援助活動において必要となる生活保護制度や関連制度について説明する。
- ・自立支援プログラムの意義とその実際について説明する。
- ・憲法25条の生存権保障の精神に基づく公的扶助の意義と役割を説明する。

### 授業計画 2学年前期（夏季集中）・選択2単位・30時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	公的扶助の歴史とその役割、外国の公的扶助の歴史と概要	日本の公的扶助（広い意味での社会福祉）の歴史から、制度の社会的役割を学ぶ、外国の公的扶助の歴史・概要から比較する	弓削俊雄
4-6	貧困と低所得階層の生活実態	低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際	弓削俊雄
7-9	生活保護制度の概要、生活保護法の基本原理	生活保護制度の社会保障制度における位置づけと制度の概要	弓削俊雄
10-12	生活保護法の運用と福祉事務所の役割	生活保護の実施要領（保護手帳）について、生活保護の実施機関としての福祉事務所	弓削俊雄
13-15	生活保護法の4原則	生活保護法第2章・第7条～第10条について	弓削俊雄

16-18	被保護者の権利と義務、福祉事務所の実施体制	被保護者の権利と義務、福祉事務所の機能と実施体制、生活保護制度における組織及び団体の役割と実際	弓削俊雄
19-21	生活保護制度における専門職の役割と実際	社会福祉主事（CW）の役割、生活保護のcw論争（ケースワークとはなにか）	弓削俊雄
22-24	生活保護基準、生活保護制度の財政・予算	実際の生活保護基準の計算、生活保護予算の特殊性等（予備費優先）	弓削俊雄
25-27	生活保護制度と保健・医療・福祉専門職の連携	生活保護制度における多職種連携、ネットワーキングと実際	弓削俊雄
28-30	現在の生活保護制度の現状と今後の課題	自立支援プログラムの意義と実際、低所得者へ住宅政策、ホームレス対策など（現状と課題）	弓削俊雄

### 評価方法

- ・随時のリアクション・ペーパーで授業の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・教科書：渋谷哲編「低所得者に対する支援と生活保護制度」(株)みらい
- ・その他、随時授業中に紹介する。

### 担当教員の Office hour

坪井 真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 I
ユニット名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 I
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	雨宮由紀枝（日本女子体育大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

### 学習目標

- ・ 障害者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）、国際的動向について理解する。
- ・ 障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。
- ・ 障害者の自立生活と社会参加に向けた支援のあり方を理解する

### 到達目標

- ・ 障害者の生活実態と社会情勢、国際的動向、障害の概念について概括的に説明する。
- ・ 障害者にかかわる法律と、障害者の自立支援の制度の概要について説明する。
- ・ 障害児の療育と教育の現状と課題について説明する。
- ・ 障害児者のための地域および生活環境の整備について説明する。
- ・ 障害児者とその家族へのライフステージに応じた支援のあり方を説明する。
- ・ 障害者の雇用・就労の現状と課題について説明する。
- ・ 現代社会における障害者福祉の課題を説明する。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	現代社会と障害者福祉	障害者を取り巻く国内・国際的動向、障害者にかかわる法律、生活実態、国際生活機能分類（ICF）	雨宮由紀枝
4-6	障害児への支援	療育システム、母子保健施策、子育て支援、特別支援教育、発達障害者支援法	雨宮由紀枝
7-9	地域生活をサポートする 1	自立の概念、障害者自立支援法、成年後見制度、福祉のまちづくり、所得保障、情報保障	雨宮由紀枝

10-12	地域生活をサポートする 2	障害当事者組織の活動、専門職の役割、ソーシャルワーク、障害児者の家族への支援	雨宮由紀枝
13-15	障害者の雇用・就労支援	雇用・就労施策の歴史と現状、障害のある人の就労の現状、援助付き雇用、ジョブコーチ	雨宮由紀枝

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」第2版（新・社会福祉士養成講座 第14巻）中央法規出版
- ・他随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員の Office hour

坪井 真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ
ユニット名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・選択 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	雨宮由紀枝（日本女子体育大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

### 学習目標

- ・ 障害者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）、国際的動向について理解する。
- ・ 障害者福祉制度の発展過程について理解する。
- ・ 相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。
- ・ 障害者の自立生活と社会参加に向けた支援のあり方を理解する
- ・ 障害者施策における国際的動向を理解し、自らの障害を捉える視点のあり方について考える。

### 到達目標

- ・ 障害者の生活実態と社会情勢、国際的動向、障害の概念について概括的に説明する。
- ・ 障害者にかかわる法律と、障害者の自立支援の制度の概要について説明する。
- ・ 障害児の療育と教育の現状と課題について説明する。
- ・ 障害児者のための地域および生活環境の整備について説明する。
- ・ 障害児者とその家族へのライフステージに応じた支援のあり方を説明する。
- ・ 障害者の雇用・就労の現状と課題について説明する。
- ・ 現代社会における障害者福祉の課題を説明する。
- ・ 障害者の自立生活と社会参加に向けた支援のあり方を説明する
- ・ 障害者施策における国際的動向を理解し、自らの障害を捉える視点のあり方を説明する。

### 授業計画 2 学年後期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰの振り返り、障害者の生活実態と福祉・介護需要など	雨宮由紀枝

2	障害者福祉の歴史的展開過程	障害者福祉の歴史（前近代から現代に至る過程）	雨宮由紀枝
3	障害のある人たちの健康と生活 1	I C F（国際生活機能分類）と障害者福祉	雨宮由紀枝
4	障害のある人たちの健康と生活 2	障害のある人たちの健康と生活を支える医療・保健・福祉機関・施設と専門職	雨宮由紀枝
5	発達障害児者の理解と支援	発達障害者支援法 LD、ADHD、高機能自閉症	雨宮由紀枝
6	障害者運動とセルフヘルプグループ	障害当事者による社会行動 障害当事者の会、家族会、親の会	雨宮由紀枝
7	障害と生命倫理	優生思想、出生前診断 生殖補助医療	雨宮由紀枝
8	障害者の地域生活支援の実際	自立生活支援、地域生活移行 事例検討	雨宮由紀枝
9	相談支援活動の実際	ソーシャルワーク、多職種連携 事例検討	雨宮由紀枝
10	現代の障害者福祉制度 1	障害者自立支援法における組織及び団体の役割、専門職の役割、多職種連携、ネットワーキング	雨宮由紀枝
11	現代の障害者福祉制度 2	相談支援事業所の役割と実際、障害者自立支援法と相談援助活動	雨宮由紀枝
12	現代の障害者福祉制度 3	身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、発達障害者支援法、障害者基本法など	雨宮由紀枝
13	現代の障害者福祉制度 4	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、障害者の雇用の促進等に関する法など	雨宮由紀枝
14	福祉用具とリハビリテーション	リハビリテーションの概要、WHO国際分類ファミリー（ICFやISO9999）と福祉用具	雨宮由紀枝
15	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	雨宮由紀枝

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」第2版（新・社会福祉士養成講座 第14巻）中央法規出版
- ・他随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員の Office hour

坪井 真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 I
ユニット名	児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	雨宮由紀枝（日本女子体育大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

### 学習目標

- ・児童・家庭の生活実態と社会情勢、福祉需要および児童の権利について理解する。
- ・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。

### 到達目標

- ・児童・家庭の生活実態と社会情勢、福祉需要（子育て、一人親家庭、児童虐待、家庭内暴力[D. V.]の実態を含む）について説明する。
- ・児童・家庭福祉制度の歴史的展開過程について説明する。
- ・児童の権利について説明する。
- ・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について説明する。

### 授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション	本授業で学ぶ内容、授業の進め方などの説明	雨宮由紀枝
2	児童の定義と権利	児童の定義、児童の権利に関する条約の概要	雨宮由紀枝
3	児童・家庭福祉の歴史的展開過程	児童・家庭福祉の歴史的展開過程（国内外）	雨宮由紀枝
4	現代社会における児童と家庭	少子高齢社会における児童と家庭の福祉需要	雨宮由紀枝
5	児童・家庭福祉制度 1	児童福祉法、児童虐待防止法、DV法、売春防止法	雨宮由紀枝
6	児童・家庭福祉制度 2	ひとり親家庭と母子及び寡婦福祉法、母子保健法	雨宮由紀枝

7	児童・家庭福祉制度 3	児童手当法、児童扶養手当法などの諸制度	雨宮由紀枝
8	児童・家庭福祉制度 4	次世代育成支援対策推進法、少子化社会対策基本法	雨宮由紀枝
9	児童・家庭福祉制度と支援 1	支援組織および団体の役割と実際	雨宮由紀枝
10	児童・家庭福祉制度と支援 2	児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際	雨宮由紀枝
11	児童・家庭福祉制度と支援 3	児童相談所の役割と実際（事例の紹介）	雨宮由紀枝
12	児童・家庭福祉制度と支援 4	多職種連携、ネットワーキングと実際	雨宮由紀枝
13	児童・家庭福祉制度と支援 3	児童福祉分野における相談援助の実際 1	雨宮由紀枝
14	児童・家庭福祉制度と支援 4	児童福祉分野における相談援助の実際 2	雨宮由紀枝
15	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	雨宮由紀枝

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・社会福祉士養成講座編集委員会編「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」第2版（新・社会福祉士養成講座 第15巻）中央法規出版
- ・その他、随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員の Office hour

坪井真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ
ユニット名	児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・選択 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	雨宮由紀枝（日本女子体育大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

### 学習目標

- ・児童・家庭の生活実態と社会情勢、福祉需要および児童の権利について理解する。
- ・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。

### 到達目標

- ・児童・家庭の生活実態と社会情勢、福祉需要（子育て、一人親家庭、児童虐待、家庭内暴力[D. V.]の実態を含む）について具体的に説明する。
- ・児童・家庭福祉制度の歴史的展開過程について具体的に説明する。
- ・児童の権利について説明すると同時に自分の意見を述べる。
- ・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について具体的に説明する。

### 授業計画 2 学年後期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション	本授業で学ぶ内容、授業の進め方などの説明	雨宮由紀枝
2	相談援助と児童・家庭福祉制度 1	児童福祉法と相談援助活動	雨宮由紀枝
3	相談援助と児童・家庭福祉制度 2	児童虐待防止法と相談援助活動	雨宮由紀枝
4	相談援助と児童・家庭福祉制度 3	家庭内暴力や女性福祉問題と相談援助活動	雨宮由紀枝
5	相談援助と児童・家庭福祉制度 4	ひとり親家庭の支援と相談援助活動	雨宮由紀枝

6	相談援助と児童・家庭福祉制度 5	子育て支援と相談援助活動	雨宮由紀枝
7	児童・家庭福祉の政策 1	児童・家庭福祉の政策と次世代育成支援対策推進法	雨宮由紀枝
8	児童・家庭福祉の政策 2	児童・家庭福祉の政策と少子化社会対策基本法	雨宮由紀枝
9	児童・家庭福祉の支援者 1	児童・家庭福祉のインフォーマルな支援者・組織	雨宮由紀枝
10	児童・家庭福祉の支援者 2	児童・家庭福祉のフォーマルな支援者・組織	雨宮由紀枝
11, 12	児童・家庭福祉の相談援助事例 1	児童福祉の相談援助事例（グループ討議）	雨宮由紀枝
13, 14	児童・家庭福祉の相談援助事例 2	家庭福祉の相談援助事例（グループ討議）	雨宮由紀枝
15	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	雨宮由紀枝

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・社会福祉士養成講座編集委員会編「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」第2版（新・社会福祉士養成講座 第15巻）中央法規出版
- ・他随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員の Office hour

坪井真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	高齢者に対する支援と制度 I
ユニット名	高齢者に対する支援と制度 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学後期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	坪井真・小野寺光江
授業担当者	小野寺光江、口腔保健衛生学専攻教員
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

### 学習目標

高齢期を迎えた人々の特徴を理解し、高齢者の福祉・介護の必要性および基本的な介護の実際を理解する。

### 到達目標

- ・高齢者の生活実態および高齢者を取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解し説明する。
- ・高齢期を迎えた人々の特徴を理解し説明する。
- ・介護とは何かを理解し説明する。
- ・介護保険制度について概説する。
- ・介護保険制度における組織・団体について概説する。
- ・介護の対象となる人びとの特徴を理解し説明する。
- ・介護活動の展開法を理解し説明する。
- ・基本的な介護ケアを概説する。
- ・介護予防の必要性を理解し説明する。
- ・福祉・介護分野における口腔保健活動の必要性を理解し説明する。
- ・高齢者をとりまく問題を自ら発見し、解決するための方法を検討する。
- ・高齢者施設訪問をとおし、施設の機能および職員や利用者の特徴の実際を学ぶ。

### 授業計画 2 学年後期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	高齢社会と福祉	高齢者社会における福祉、介護の重要性	小野寺光江
3, 4	高齢者の特徴	高齢期を迎えた人々の心身の特徴と社会的役割	小野寺光江
5, 6	高齢者の生活を支える介護 1	介護の概念、介護の対象、介護過程	小野寺光江

7, 8	高齢者の生活を支える介護 2	介護保険制度の概要、介護保険法における組織・団体の役割	小野寺光江
9-11	高齢者の生活を支える介護 3	日常生活援助のための基本的介護	小野寺光江
12, 13	施設見学 1	施設見学オリエンテーション	小野寺光江
14-18	施設見学 2	高齢者施設見学	口腔保健衛生学専攻教員
19, 20	施設見学 3	高齢者施設見学報告会準備	小野寺光江
21-25	施設見学 4	施設見学報告会	口腔保健衛生学専攻教員
26-29	高齢者の生活を支える介護 4	介護と住環境、認知症ケアの概要と実際、終末期ケアの概要と実際	小野寺光江
30	まとめ	まとめ	小野寺光江

### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と制度 I 社会福祉士養成講座編集委員会編  
中央法規 2009年 ISBN978-4-8058-3113-7

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員の Office hour

小野寺光江 講師 随時 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp

科目名	相談援助の基盤と専門職
ユニット名	相談援助の基盤と専門職
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・選択 4 単位・60 時間
科目責任者	坪井真
授業担当者	坪井真、柳沢志津子（東洋学園大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

### 学習目標

- ・保健・福祉・医療分野の専門職（社会福祉士や歯科衛生士など）による相談援助の共通基盤を理解する。
- ・相談援助の概念と範囲、相談援助における総合的・包括的な援助について理解する。

### 到達目標

- ・保健・福祉・医療分野の専門職（社会福祉士や歯科衛生士など）による相談援助の共通基盤を説明する。
- ・相談援助の概念と範囲について説明する。
- ・相談援助の理念について説明する。
- ・相談援助における権利擁護の意義と範囲について説明する。
- ・相談援助と専門職倫理の関係性について説明する。
- ・総合的かつ包括的な相談援助と多職種連携の意義と内容について説明する。

### 授業計画 2 学年後期・選択 4 単位・60 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	相談援助の基礎 1	学習内容の説明、相談援助の概念・範囲・理念	坪井真
4-6	相談援助の基礎 2	相談援助の実際 1（講義・事例検討）	坪井真
7-12	相談援助の基礎 3	相談援助の実際 2（講義・事例検討）	坪井真
13-18	相談援助の基礎 4	相談援助の実際 3（講義・事例検討）	坪井真
19-21	専門職と相談援助 1	相談援助と専門職倫理の関係性、グループ討議	柳沢志津子
22-24	専門職と相談援助 2	相談援助における権利擁護、グループ討議	柳沢志津子
25-27	専門職と相談援助 3	多職種連携の意義と内容（講義・事例検討）	柳沢志津子

28-30	専門職と相談援助 4	総合的かつ包括的な相談援助（講義・事例検討）	柳沢志津子
31-33	相談援助の共通基盤 1	保健・福祉・医療分野の専門職と相談援助 1	柳沢志津子
34-36	相談援助の共通基盤 2	保健・福祉・医療分野の専門職と相談援助 2	柳沢志津子
37-39	相談援助の共通基盤 3	保健・福祉・医療分野の専門職と相談援助 3	柳沢志津子
40-42	相談援助の共通基盤 4	保健・福祉・医療分野の専門職と相談援助 4	柳沢志津子
43-45	相談援助の共通基盤 5	保健・福祉・医療分野の専門職と相談援助 5	柳沢志津子
46-48	相談援助の共通基盤 6	保健・福祉・医療分野の専門職と相談援助 6	柳沢志津子
49-51	相談援助の共通基盤 7	保健・福祉・医療分野の専門職と相談援助 7	柳沢志津子
52-54	相談援助の共通基盤 8	保健・福祉・医療分野の専門職と相談援助 8	柳沢志津子
55-57	相談援助の共通基盤 9	保健・福祉・医療分野の専門職と相談援助 9	柳沢志津子
58-60	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	柳沢志津子

#### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

#### 参考図書等

- ・授業に関連する配布資料
- ・その他、随時授業中に紹介する。

#### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

#### 担当教員の Office hour

坪井 真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

# 第3学年 履修ユニット

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	再建系歯科医学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	吉増秀實・下山和弘
授業担当者	下山和弘、塩田真（インプラント・口腔再生医学分野）、濱野英也（非常勤講師）、隅田由香（顎顔面補綴学分野）、上野俊明（スポーツ医歯学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

### 学習目標

補綴歯科治療と補綴装置の特徴を理解するとともに、補綴装置使用における口腔の健康管理の知識を修得する。

### 到達目標

- ・補綴歯科治療の意義と目的を説明する。
- ・補綴歯科治療の種類・特徴を説明する。
- ・補綴歯科治療に関連のある顎口腔系の機能と形態を説明する。
- ・有床義歯の種類・特徴を説明し、製作過程を概説する。
- ・冠橋義歯の種類・特徴を説明し、製作過程を概説する。
- ・顎顔面補綴装置の種類・特徴を説明し、製作過程を概説する。
- ・口腔インプラントの種類・特徴を説明し、診療過程を概説する。
- ・補綴装置使用時における口腔の健康管理法を説明する。
- ・スポーツ選手の歯の健康管理について説明する。
- ・スポーツ外傷と安全対策について説明する。
- ・金属アレルギーの特徴と対応方法を説明する。

### 授業計画 3 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	補綴歯科治療の基礎 1	補綴歯科治療の意義と目的、顎口腔機能に果たす補綴装置の役割	下山和弘
2	補綴歯科治療の基礎 2	補綴歯科装置の種類と特徴、粘膜負担と歯根膜負担、材質の相違が歯周組織に与える影響	下山和弘

3	補綴歯科治療の基礎 3	顎口腔系の形態・機能、咬合器の基本と歯科臨床上の必要性・役割	下山和弘
4	補綴歯科治療の基礎 4	歯の喪失に伴う変化	下山和弘
5	床義歯の構成と特徴 1	全部床義歯の特徴と構成要素、金属床とレジン床の特徴と相違、顎口腔系・口腔粘膜への影響	下山和弘
6	床義歯の構成と特徴 2	部分床義歯の特徴、構成要素（クラスプ、レスト、Iバー、アタッチメント、マグネット、テレスコープ、連結子など）の特徴と相違	下山和弘
7	冠橋義歯の種類と特徴 1	冠橋義歯の特徴、金属冠、レジン前装冠、ポーセレン前装冠、レジンジャケットクラウン、オールセラミッククラウン、3/4冠、4/5冠、ピンレッジ、プロキシマールハーフクラウン、アンレー、ラミネートベニア、ブリッジなど	下山和弘
8	冠橋義歯の種類と特徴 2	ブリッジの種類と特徴、ボンティックの形態・材質と為害作用、テンポラリークラウンの意義と為害性、仮着と合着、支台歯形成方法	下山和弘
9	補綴装置の製作過程 1	印象採得の特徴、全部床義歯製作のための印象採得、部分床義歯製作のための印象採得、クラウンブリッジ製作のための印象採得	下山和弘
10	補綴装置の製作過程 2	咬合採得の特徴、全部床義歯製作のための咬合採得、部分床義歯製作のための咬合採得、クラウンブリッジ製作のための咬合採得、垂直的・水平的な咬合採得法、ゴシックアーチ法の概略、咬合器と咬合採得の実際	下山和弘
11	補綴装置の取扱い 1	床義歯の取扱い、義歯装着により生じる問題、義歯安定剤の問題と使用法、味覚と義歯、発音と義歯、唾液と義歯、義歯の慣れ	下山和弘
12	補綴装置の取扱い 2	冠橋義歯の取扱い、クラウンブリッジの失敗症例と対応方法	下山和弘
13	補綴装置の管理と補修	床義歯の管理、冠橋義歯の管理、補綴装置の修理、デンチャーマーキングの目的と実際、ティッシュコンディショニング	下山和弘
14	補綴歯科治療の特徴	補綴歯科診療の基本方針、患者の疑問に対する対応、患者指導	下山和弘

15	インプラントの基礎と臨床 1	インプラントの歴史、インプラントの種類	塩田 真
16	インプラントの基礎と臨床 2	インプラントの手技、インプラントの管理	塩田 真
17	インプラントの臨床と製作過程 1	インプラントの埋入法	塩田 真
18	インプラントの臨床と製作過程 2	インプラントの補綴法	塩田 真
19	金属アレルギー1	歯科における金属アレルギーの現状	濱野英也
20	金属アレルギー2	金属アレルギーの臨床的対応と予防	濱野英也
21	顎顔面補綴学	顎顔面補綴学が対応する症例	隅田由香
22	顎顔面補綴治療の実際 1	補綴症例、顎顔面補綴治療における口腔衛生指導	隅田由香
23	顎顔面補綴治療の実際 2	顎顔面補綴治療に求められる心理ケア	隅田由香
24	顎顔面補綴治療の実際 3	顎顔面補綴治療におけるチーム医療	隅田由香
25	スポーツ歯学の基礎と臨床 1	スポーツ選手の歯の健康管理	上野俊明
26	スポーツ歯学の基礎と臨床 2	スポーツ外傷と安全対策	上野俊明
27	補綴歯科臨床の実際 1	補綴歯科臨床の実際、補綴装置の製作過程と患者指導	下山和弘
28	補綴歯科臨床の実際 2	補綴歯科臨床の実際、補綴装置の製作過程と患者指導	下山和弘
29	健康を考える補綴歯科臨床 1	補綴歯科臨床から健康を考える	下山和弘
30	健康を考える補綴歯科臨床 2	補綴歯科臨床から健康を考える	下山和弘

## 評価方法

提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。出席状況および授業態度を総括的評価に加味する。随時の小テスト等で形成的評価を行う。

## 参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常（1）歯科補綴」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・「第3版 歯科補綴学専門用語集」 日本補綴歯科学会編 医歯薬出版
- ・「全部床義歯補綴学」 林都志夫編 医歯薬出版
- ・「小部分床義歯学」 藍 稔著 学建書院
- ・「スタンダード部分床義歯補綴学」 藍 稔編 学建書院
- ・「クランブリッジ補綴学」 石橋寛二、川添堯彬ほか編 医歯薬出版
- ・「よくわかる口腔インプラント学」 赤川安正、松浦正朗ほか編 医歯薬出版
- ・「GPのための金属アレルギー臨床」 中山秀夫・松村光明編 デンタルダイヤモンド社
- ・「声と言葉のしくみ」 亀田和夫 口腔保健協会
- ・「口唇裂口蓋裂の補綴治療」 大山喬史編 医歯薬出版
- ・「顎顔面補綴の臨床」 大山喬史・谷口 尚編 医学情報社
- ・「言語聴覚士に必要な歯科の知識」 谷口 尚・片倉伸郎・大野友久・隅田由香著 インテルナ出版
- ・「スポーツマウスガードハンドブック」 大山喬史・上野俊明編 医学情報社
- ・「スポーツ歯学の臨床」 大山喬史編 医学情報社
- ・「スポーツ歯科臨床マニュアル」 日本スポーツ歯科医学会編 医学情報社
- ・「口と歯の事典」 高戸 毅・天笠光雄ほか編 朝倉書店

## 留意事項

事前の資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

## 担当教員の Office hour

下山和弘 教授 木 17:00-18:00 k.shimoyama.gohc@tmd.ac.jp  
塩田 真 准教授 月 16:30-17:30 mshiota.impl@tmd.ac.jp  
上野俊明 准教授 月・木 17:00-18:00 t.ueno.spmd@tmd.ac.jp  
隅田由香 講師 水 16:00-18:00 yuka.mfp@tmd.ac.jp

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	外科系歯科医学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	吉増秀實
授業担当者	吉増秀實、木野孔司（顎関節治療部）、神野成治（麻酔・生体管理学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

### 学習目標

口腔外科臨床のチーム医療を行うにあたって必要な基礎的知識を修得する。

### 到達目標

- ・ 顎顔面口腔に症状を現す先天異常と発育異常を列挙し、治療法を説明できる。
- ・ 顎口腔領域の炎症の診断および治療法を説明する。
- ・ 顎口腔領域の損傷の診断および治療法を説明する。
- ・ 顎口腔領域の嚢胞の診断および治療法を説明する。
- ・ 口腔粘膜疾患の診断および治療法を説明する。
- ・ 唾液腺疾患の病因と病態について説明する。
- ・ 顎口腔領域の腫瘍の診断および治療法を説明する。
- ・ 顎口腔領域の神経疾患の診断および治療法を説明する。
- ・ 顎口腔領域の血液疾患、出血性素因について説明する。
- ・ 顎関節疾患の病因、病態、診断および治療法を説明する。
- ・ 麻酔法を説明する。
- ・ 口腔外科のチーム医療について説明する。
- ・ 口腔の健康維持のために、治療後のセルフケアについて説明する。

### 授業計画 3 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	口腔外科の概要	口腔外科とは、口腔外科疾患の種類、口腔外科診断法	吉増秀實
2	先天異常	口唇口蓋裂の診断、治療、その他の顔面奇形	吉増秀實
3	顎発育異常	顎変形症の診断と治療	吉増秀實
4	外傷	軟組織損傷、顎骨骨折、歯の外傷	吉増秀實

5	炎症	歯性炎症、炎症の波及、炎症の診断と治療	吉増秀實
6	嚢胞	歯源性嚢胞、非歯源性嚢胞、軟組織嚢胞の診断と治療	吉増秀實
7	良性腫瘍・腫瘍類似疾患	良性腫瘍・腫瘍類似疾患の診断と治療	吉増秀實
8	悪性腫瘍	悪性腫瘍の診断・治療	吉増秀實
9	口腔粘膜疾患	口腔粘膜疾患の診断と治療	吉増秀實
10	口腔顎顔面領域の神経疾患、唾液線疾患	口腔顎顔面領域の神経疾患、唾液線疾患の診断と治療	吉増秀實
11	血液疾患、出血性素因	血液疾患、出血性素因の診断と治療	吉増秀實
12	代謝性疾患の口腔症状、症候群	代謝性疾患の口腔症状、口腔顎顔面領域に関連した症候群および疾患	吉増秀實
13, 14	顎関節疾患	顎関節症の診断と治療、顎関節症以外の顎関節疾患の種類、診断と治療	木野孔司
15	口腔外科診療総論	診察法、手術の適否、消毒滅菌（器械材料の消毒、手術室の消毒、手指の消毒、手術野の消毒	吉増秀實
16	口腔外科診療各論（抜歯）	抜歯の適応、必要器材、術前の注意事項、抜歯法、抜歯の実際と介助、診療補助の要点、抜歯創の治癒過程、術後処置偶発症と処置等	吉増秀實
17	口腔外科小手術	種類、適応、方法、必要器材、術前の注意事項、術後管理、術後の説明、診療補助の要点等	吉増秀實
18	口腔外科手術患者の口腔ケア	口腔癌・口唇口蓋裂・顎変形症・顎骨骨折患者の治療法、処置の流れ、治療後のセルフケア	吉増秀實
19	歯科麻酔学概論	歯科麻酔学概論	神野成治
20	全身状態評価・バイタルサイン	全身状態評価・バイタルサイン	神野成治
21, 22	全身麻酔法	全身麻酔法	神野成治
23, 24	局所麻酔法	局所麻酔法、局所麻酔薬の種類	神野成治
25, 26	精神鎮静法ほか	精神鎮静法ほか	神野成治
27, 28	ペインクリニック	ペインクリニックとは、顎顔面口腔領域の疼痛性疾患の種類、診断と治療	神野成治

**評価方法**

- ・随時の小テストで形成的評価を行う。
- ・期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

**参考図書等**

- ・最新歯科衛生士教本「口腔外科・歯科麻酔」 国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2011年
- ・「医療従事者のための口腔外科学」 古森孝秀 編著 永末書店
- ・「臨床病態学3」北村 聖 総編集 ヌーヴェルヒロカワ
- ・「医療従事者のためのカラーアトラス：口腔外科疾患」 道健一編 永末書店
- ・「最新口腔外科学 第4版(総論,各論)」 塩田重利、富田喜内監修 医歯薬出版

**留意事項**

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

**担当教員の Office hour**

吉増秀實 教授 火・木 16:00-18:00 h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	発達育成系・障害者歯科医学
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・15 時間 3 学年前期・必修・15 時間 単位認定（2 単位）は 3 学年前期（15 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	吉増秀實・石川雅章
授業担当者	石川雅章、篠塚修（障害者歯科学分野）、大沼由季（歯科衛生保健部）、田中光郎（岩手医科大学）、五十川伸崇（亀田クリニック）、小川仲子（小川歯科医院）
主な授業場所	口腔保健学科 第 3 講義室

### 学習目標

小児の心身の成長・発達をふまえ、発達期口腔疾患の特徴、予防・治療法を理解する。障害児・者に対して、口腔保健の立場から支援する際に必要な知識、技術を修得する。

### 到達目標

- ・ 障害とは何かを理解し、種々の障害の定義を理解する。
- ・ 障害児・者口腔内の特徴と歯科疾患罹患状況を理解する。
- ・ 障害児・者の歯科治療時における行動への対応法を概説できる。
- ・ 障害児・者の歯科治療におけるチーム医療を理解する。
- ・ 障害児・者の一次、二次、三次歯科医療体制を理解する。
- ・ う蝕予防の最新理論を概説できる。
- ・ 障害児・者の口腔保健指導の実際を概説できる。
- ・ 広汎性発達障害児の療育と歯科的対応が概説できる。
- ・ 発達期障害児の摂食指導が概説できる。

### 授業計画 3 学年前期・必修・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	障害と歯科医療 1	障害（精神（発達）遅滞、脳性麻痺、広汎性発達障害、てんかん、ダウン症、感覚障害）の分類およびその特徴、口腔内所見、歯科疾患罹患状況	篠塚修
3, 4	障害と歯科医療 2	行動調整法の種類、一般的対応法（TLC）、心理学的手段（行動変容法）、物理的手段（抑制法）薬理的手段（精神鎮静法、全身麻酔法）	篠塚修

5, 6 3	障害と歯科医療	診療計画の立案、予後の管理、障害児・者の一次、二次、三次歯科医療体制	篠塚修
7, 8	う蝕予防の最新理論	プラークフルイド、臨界 PH、母子感染に対する考え方、フッ化物の作用機序、フッ化物以外による歯質の成熟と再石灰化	田中光郎
9, 10	障害児・者に対する口腔保健指導の実際	障害の程度の把握、理解力、運動機能、コミュニケーション能力の評価、障害に対応したセルフケア、ホームケアの指導	大沼由季
11, 12	広汎性発達障害児・者に対する行動調整法と口腔保健指導、歯科治療の実際	広汎性発達障害児療育の概要、TEACHH 法、PECS 法、歯科診療の構造化、自閉症児歯科治療と口腔衛生指導時の視覚支援	五十川伸崇
13-15	発達障害児の食べる機能、発達障害とその対応	摂食の 5 期、発達療法とは、摂食・嚥下機能の発達を阻害する要因、摂食機能障害の検査方法、評価の流れ、対応法	小川仲子

### 評価方法

- ・随時の小テストで形成的評価を行う。
- ・期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う

### 参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「障害者歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
- ・「スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科」 日本障害者歯科学会編 医歯薬出版
- ・「小児の口腔科学」 前田隆秀、朝田芳信、田中光郎他著 学建書院
- ・「食べる機能の障害」 金子芳洋編 医歯薬出版
- ・「子どもの摂食・嚥下障害」 北住映二、尾本和彦、藤島一郎編著 永井書店

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員の Office hour

石川雅章 教授 平日 9:00-18:00 ishikawa.pohc@tmd.ac.jp

篠塚 修 准教授 随時 o.shinozuka.dpa@tmd.ac.jp

科目名	先端歯周病予防学
ユニット名	先端歯周病予防学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	白田千代子
授業担当者	白田千代子、難波佳子（歯周病外来）、塩山秀裕（口腔ケア外来）、木下淳博（教育メディア分野）、和泉雄一・竹内康雄・片桐さやか・須田智也（歯周病外来）、菊池重成・鷺尾由香・小原由紀、（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

### 学習目標

歯周病予防に必要な最新の臨床知識を理解し、実践に役立つ歯科衛生士としての判断能力を培う。

### 到達目標

- ・歯周病予防と全身の関連を説明できる。
- ・最新の歯周病検査を理解する。
- ・歯周病における免疫反応を理解する。
- ・歯周専門分野での歯科衛生士の役割を説明する。
- ・歯周病予防における歯科衛生士の役割を説明する。

### 授業計画 3 学年前期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	歯周組織の健康と全身の健康との関わり 1	歯周病のリスクファクターとなる全身疾患に関する最新情報	和泉雄一
3	歯周組織の健康と全身の健康との関わり 2	歯周病のリスクファクターとなる全身疾患に関する最新情報	片桐さやか
4	ライフステージと歯周疾患	各ライフステージにおける歯周疾患の特徴およびその予防	白田千代子
5	3・4 年次臨床実習における歯周基本治療の実際 1	臨床実習における歯周治療の流れ・健康調査票の確認	塩山秀裕
6	3・4 年次臨床実習における歯周基本治療の実際 2	臨床実習における歯周組織検査・口腔保健衛生指導	塩山秀裕

7	3・4年次臨床実習における歯周基本治療の実際 3	臨床実習におけるスケーリング・ルートプレーニング	塩山秀裕
8	歯科衛生士による歯周治療の実際 1	歯科衛生士による歯周病治療の実際	小原由紀
9	歯科衛生士による歯周治療の実際 2	本学歯学部附属病院での歯科衛生士による歯周治療の実際	難波佳子
10	最新の歯周病検査	酵素反応、遺伝工学的手法を用いた最新の細菌検査	竹内康雄
11	歯周組織再生治療	歯周組織再生の最新治療	木下淳博
12	歯周病専門医による歯周外科治療の実際 1	結合組織移植術を用いた根面被覆の症例	菊池重成
13	歯周病専門医による歯周外科治療の実際 2	歯周組織再生療法の症例	須田智也
14	歯周病専門開業医における歯科衛生士の役割	歯周病専門開業医における歯科衛生士の役割	菊池重成 鷲尾有香
15	歯周外科治療における歯科衛生士の役割	歯周外科治療における歯科衛生士の役割	難波佳子

## 評価方法

出席状況、レポート・小テスト等により総括的評価を行う。

## 参考図書等

- ・「ザ・ペリオドントロジー」和泉雄一、沼部幸博、山本松男、木下淳博 編 永末書店
- ・「歯周病診断のストラテジー」吉江弘正、宮田 隆 編 医歯薬出版
- ・「チームアプローチで成功させる実践的歯周治療」野口俊英、横田 誠 編 医学情報社
- ・「AN INTRODUCTION TO RISK PREDICTION AND PREVENTIVE DENTISTRY」Per Axelsson, DDS.  
Odont Dr Quintessence Publishing. Inc

## 留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

## 担当教員の Office hour

白田千代子 講師 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp

科目名	口腔疾患予防学実習
ユニット名	口腔疾患予防学実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・45 時間 2 学年後期・必修・45 時間 3 学年前期・必修・45 時間 単位認定（3 単位）は3 学年前期終了時に行う
科目・ユニット責任者	品田佳世子
授業担当者	品田佳世子、石川雅章、近藤圭子、白田千代子、遠藤圭子、小原由紀・大塚紘未・田澤千鶴・堀江明子（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室、相互実習室、臨床基礎実習室

### 学習目標

歯・口腔の状態把握および歯科予防処置の基本的技術を修得する。

### 到達目標

- ・う蝕予防と歯周疾患予防の基礎を説明する。
- ・歯、口腔（歯、歯肉、歯の付着物・沈着物）状態を把握できる。
- ・器具の消毒・滅菌、感染予防、手指の消毒法、偶発事故の予防など生体への配慮の基本を実践しながら、歯科予防処置に必要な知識と技術を修得する。
- ・歯科予防処置のうち、歯石除去、歯面清掃、SRP、う蝕予防処置、フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口を実施できる。
- ・歯科衛生過程にそって、口腔ケアを実施できる。

### 授業計画 3 学年前期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	試験ケースの説明、SRP・研磨復習	実習の進め方、SRP 復習	近藤、白田、遠藤 大塚
4-6	シャープニング、SRP・研磨復習	シャープニング、SRP・研磨復習 相互実習準備	近藤、堀江、遠藤 大塚
7-9	ケース・シミュレーション 実習 1	相互実習 シミュレーション I アセスメント 1	品田、近藤、白田 遠藤、堀江、大塚

10-12	ケース・シミュレーション 実習 2	相互実習 シミュレーションⅡ アセスメント 2	品田、近藤、白田 遠藤、田澤、大塚
13-15	歯科衛生過程による診 断・計画・業務記録、実習 準備	歯科衛生過程による診断・計画、POS 相互実習準備	品田、近藤、白田 遠藤、田澤、大塚
16-18	ケース・シミュレーション 実習 3	相互実習 シミュレーションⅢ 臨床実習（口腔ケア北 2）体験実習	品田、近藤、白田 遠藤、堀江、大塚
19-21	ケース・シミュレーション 実習 4 * 口腔ケア体験実習	相互実習 シミュレーションⅣ 臨床実習（口腔ケア北 2）体験実習	品田、近藤、白田 遠藤、堀江、小原 大塚
22-24	ケース・シミュレーション 実習 5 * 口腔ケア体験実習	相互実習 シミュレーションⅤ 臨床実習（口腔ケア北 2）体験実習	品田、近藤、白田 遠藤、田澤、小原 大塚
25-27	ケース・シミュレーション 実習 6 * 口腔ケア体験実習	相互実習 シミュレーションⅥ 臨床実習（口腔ケア北 2）体験実習	品田、近藤、白田 遠藤、田澤、小原
28-30	ケース・シミュレーション 実習 7 * 口腔ケア体験実習	相互実習 シミュレーションⅦ（評価） 臨床実習（口腔ケア北 2）体験実習	品田、近藤、白田 遠藤、堀江、小原
31-33	ケース・シミュレーション 実習 8 * 口腔ケア体験実習	相互実習シミュレーションⅧ（評価）・ 記録整理	品田、近藤、白田 遠藤、堀江、小原 大塚
34-36	資料作成など	資料のまとめ、発表の準備	近藤、白田、田澤 小原
37-39	集団に対するフッ化物塗 布 校外実習	幼稚園児に対する集団フッ化物塗布実 習	品田、石川、近藤 遠藤、小原、大塚
40-42	ケース・シミュレーション 実習 7	ケース発表	品田、近藤、白田 遠藤、田澤、大塚
43-45	まとめ	発表後のフィードバック	品田、近藤、白田 遠藤

## 評価方法

- ・随時の小テストで形成的評価を行う。
- ・出欠状況、実習態度などを総括的評価に加味する。
- ・実技試験および筆記試験を期末に実施し、2・3年の総括的評価を行う。

## 参考図書等

- ・「歯科衛生士の臨床」ウイルキンス著 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科予防処置」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・目で見るペリオドンタルインスツルメンテーションⅠ「ベーシック スキル」 医歯薬出版
- ・目で見るペリオドンタルインスツルメンテーションⅡ「アセスメントとインスツルメンテーション」 医歯薬出版
- ・目で見るペリオドンタルインスツルメンテーションⅢ「デブライドメント」 医歯薬出版
- ・目で見るペリオドンタルインスツルメンテーションⅠ「アドバンス スキル」 医歯薬出版
- ・「歯科衛生ケアプロセス」下野正基監修 医歯薬出版
- ・授業の際に印刷物を配付、または e-learning システム上にアップロードする。

## 留意事項

事前に資料の配付、e-learning 上へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

## 担当教員の Office hour (メールで約束してから来室してください)

近藤圭子	講師	随時	solan.pvoh@tmd.ac.jp
遠藤圭子	准教授	随時	usagi.aohc@tmd.ac.jp
白田千代子	講師	随時	hakuta.gohc@tmd.ac.jp
石川 雅章	教授	平日	9:00-18:00 ishikawa.pohc@tmd.ac.jp
品田佳世子	教授	随時	shinada.ohp@tmd.ac.jp

科目名	医学一般
ユニット名	医学一般
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・30 時間 3 学年前期・必修・30 時間 単位認定（4 単位）は 3 学年前期終了時に行う
科目・ユニット責任者	吉増秀實
授業担当者	長澤正之（発生発達病態学分野）、高山かおる（皮膚科学分野）、戸叶尚史、岩崎朱見（耳鼻咽喉科学分野）、大野京子・杉田 直（眼科学分野）、石岡淳一郎、横山みなど（泌尿器科学分野）、黒田真司（インプラント・口腔再生医学分野）、森田定雄（リハビリテーション部）磯谷栄二（救急災害医学分野）、荒木 聡（都立駒込病院）、吉増秀實
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

### 学習目標

口腔保健活動を行うために必要な臨床医学の各分野の知識を身につける。

### 到達目標

- ・主な感染症を説明する。(2年)
- ・主な循環器疾患を説明する。(2年)
- ・主な呼吸器疾患を説明する。(2年)
- ・主な消化器疾患を説明する。(2年)
- ・主な精神疾患を説明する。(2年)
- ・主な骨関節・結合組織疾患を説明する。(2年)
- ・主な精神疾患を説明する。(2年)
- ・主な先天性疾患を説明する。
- ・主な皮膚疾患を説明する。
- ・主な耳鼻咽喉科疾患を説明する。
- ・主な眼科疾患を説明する。
- ・主な泌尿器科疾患を説明する。
- ・老化に伴う主な疾患を説明する。
- ・再生医療を概説する。
- ・救急医療について概説する。
- ・機能障害およびリハビリテーション医療を説明する。
- ・有病者の歯科医療・口腔保健活動の対応法について説明する。

### 授業計画 3 学年前期・必修・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	小児科	小児が罹患しやすい感染症、先天性疾患等	長澤正之
3, 4	小児科	小児麻痺、進行性筋ジストロフィー、小児喘息など	荒木 聡
5, 6	皮膚科	アトピー性皮膚炎、薬剤アレルギー、皮膚癌等	高山かおる
7, 8	皮膚科	しみ、しわ、老化性変化、疥癬、水虫等	高山かおる
9, 10	耳鼻咽喉科	耳科学、鼻科学	戸叶尚史
11, 12	耳鼻咽喉科	咽頭、喉頭	岩崎朱見
13, 14	眼科	主な目の病気	大野京子
15, 16	眼科	老化と目	杉田 直
17, 18	泌尿器科	主な泌尿器の病気など	石岡淳一郎
19, 20	泌尿器科	老化に伴う変化、悪性腫瘍など	横山みなど
21, 12	リハビリテーション	リハビリテーション	森田定雄
23, 24	再生医療	再生医療とは、再生医療の口腔領域への応用	黒田真司
25, 26	救急災害医学	救急災害医療	磯谷栄二
27, 28	有病者に対する対応	有病者の歯科医療	吉増秀實
29	有病者に対する対応	有病者に対する口腔保健活動	吉増秀實
30	総括	まとめ	吉増秀實

### 評価方法

- ・ 期末に客観試験、記述試験を行い、総括的評価を行う。
- ・ 出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・ 新版社会福祉士要請講座 13 「医学一般」 第 2 版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規
- ・ 社会福祉士養成テキストブック 16 「医学一般」 黒田研二、竹内孝仁編著 ミネルヴァ書房

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員の Office hour

吉増秀實 教授 火・木 16:00-18:00 h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp

科目名	保健行動科学
ユニット名	コミュニケーション論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3学年前期・必修1単位・15時間
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
授業担当者	遠藤圭子、白田千代子、小野寺光江、小原由紀（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室、歯学部 演習室

### 学習目標

健康上もしくは生活上の課題や QOL をもつ人たちの立場にたって考え、支援するための基盤となるコミュニケーションの知識・技術および支援者としての態度を修得する。

### 到達目標

- ・ 支援者としての適切な態度（挨拶や言葉遣いなど）を身につける。
- ・ 自分自身の性格や価値観などを客観的に理解し、肯定的・否定的な両面を認識する。
- ・ 人の性格や価値観、生活様式などを理解し、互いに尊重する。
- ・ 健康上および生活上の課題をもつ人たちの感情を理解し、受容するための態度を身につける。
- ・ 言語的・非言語的コミュニケーションの特徴を説明する。
- ・ 自分の言語的・非言語的コミュニケーションの特徴を理解し、課題や改善策を認識する。
- ・ 支援者として相手の心身機能や生活歴の違いによるコミュニケーションの特徴を理解して、配慮する。

### 授業計画 3学年前期・必修1単位・15時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	支援とコミュニケーション 自己紹介	支援とは何か 自分を知ってもらうこと	遠藤、白田 小野寺、小原
3, 4	自己理解 自己開示	対人関係と自己理解 自己開示とは何か	遠藤、白田 小野寺、小原
5, 6	コミュニケーションの基本	非言語的コミュニケーションと言語的コミュニケーション	遠藤、白田 小野寺、小原
7, 8	コミュニケーションのあり方	各自のコミュニケーションのとり方の特徴	遠藤、白田 小野寺、小原

9, 10	相手の立場に立った支援の実 際	心身機能の理解、生活歴 支援者の役割	遠藤、白田 小野寺、小原
11, 12	チームワークとリーダーシッ プ	チームワークに必要なもの リーダーシップとは何か	遠藤、白田 小野寺、小原
13, 14	人と環境の相互作用 チームワーク	チームワークの実際	遠藤、白田 小野寺、小原
15	振り返りとまとめ	まとめ	遠藤、白田

### 評価方法

- ・ 報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。
- ・ 実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

### 担当教員の Office hour

遠藤圭子 准教授 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp  
 白田千代子 講師 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp  
 小野寺光江 講師 随時 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp

科目名	保健行動科学
ユニット名	ヘルスカウンセリング論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
授業担当者	遠藤圭子、近藤圭子、白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室、歯学部 演習室

### 学習目標

患者・地域住民の QOL の向上および健康や生活上の課題解決を支援する際に必要となるコミュニケーションや相談支援に関わる知識、技術、態度を修得する。

### 到達目標

- ・専門職としての適切な態度を身につける。
- ・対処とする人の感情を理解し、受容する態度を身につける。
- ・実践上の課題、改善策を整理する。
- ・対象とする人の心身機能や生活歴を受け入れた対応をする。
- ・専門的な視点から支援策を考える。
- ・自身の特性を理解し、キャリアについて考える。

### 授業計画 3 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	オリエンテーション	オリエンテーション 基本姿勢	遠藤圭子
3, 4	セッション 1	接近の手がかり	遠藤圭子 白田千代子
5, 6	セッション 2	観察、傾聴の技術	遠藤圭子 近藤圭子
7, 8	セッション 3	確認と共感、信頼関係の構築	白田千代子 遠藤圭子
9, 10	セッション 4	キャリア・カウンセリング 1：自分の特性を見つける	遠藤圭子 近藤圭子

11, 12	セッション 5	キャリア・カウンセリング 2: 個性を生かす	遠藤圭子 白田千代子
13, 14	セッション 6	キャリア・カウンセリング 3: キャリアの選択と開発	遠藤圭子 近藤圭子
15	まとめ	まとめ	遠藤圭子

### 評価方法

出席、授業への取り組みならびに提出物により評価する。

### 留意事項

キャリアに関するテーマを取り上げながら演習を行うとともに、歯科保健医療現場に即した内容を設定して、授業を進める。

### 担当教員の Office hour

白田千代子 講師 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp

遠藤圭子 准教授 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp

近藤圭子 講師 随時 solan.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	臨床口腔保健衛生基礎学実習
ユニット名	臨床口腔保健衛生基礎学実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・45 時間 3 学年前期・必修・45 時間 単位認定（2 単位）は 3 年前期（45 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	白田千代子
授業担当者	白田千代子、遠藤圭子、近藤圭子、石川雅章、吉増秀實、下山和弘、安江透（歯冠修復技工学分野）、島田康史（う蝕制御学分野）、神野成治（麻酔・生体管理学分野）大塚紘未・田澤千鶴・堀江明子・金子博寿・清水裕之（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 臨床基礎実習室、歯学科 実習室

### 学習目標

歯科臨床の場で必要な知識・器材の取扱・技術を理解し、基本的な歯科衛生士に必要な技術を身につける。

### 到達目標

- ・器材の種類・特性・用途を理解する。
- ・診療に必要な器械・材料・薬品の適切な準備と取扱いを行う。
- ・器材の特性にあわせ、滅菌・消毒を行う。
- ・患者の誘導のしかた・患者とのコミュニケーションの取り方を理解する。
- ・チーム医療に必要な技能を実践する。
- ・バイタルサイン（意識レベルを含む）の測定、判断ができる。
- ・救急蘇生について説明し、シミュレーターを使用し体験する。

### 授業計画 3 学年前期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	歯科診療の補助とは 歯科診療の補助	歯科診療の補助の実際について 保存修復学 1. 補助の実際 器材を扱う体験 歯内療法 1. 補助の実際 器材を扱う体験	白田、遠藤、 近藤、大塚
4-6	歯科保険について 1 歯科診療の補助	社会保険制度の体系と医療保険 保存修復学 2. 補助の実際 器材を扱う体験 歯内療法 2. 補助の実際 器材を扱う体験	白田、遠藤、 近藤、小原

7-9	歯科保険について 2 歯科診療の補助	歯科保険の仕組み 歯周疾患 補助の実践 器材を扱う体験 矯正歯科 補助の実践 器材を扱う体験	白田、近藤、 遠藤、小原
10-12	歯科保険について 3 歯科診療の補助	歯科治療と歯科保険請求 口腔外科 補助の実践 器材を扱う体験	白田、近藤、 遠藤、小原
13-15	歯科保険について 4 歯科診療の補助	歯科保険請求書の作成 小児歯科 補助の実践 器材を扱う体験	白田、近藤、 遠藤、小原
16-18	歯科保存処置関連実習 1	器材の取り扱いの実際 充填物	島田、白田、 近藤、遠藤
19-21	歯科保存処置関連実習 2	器材の取り扱いの実際 接着材	島田、白田、 近藤、遠藤、 大塚
22-24	歯科診療補助	歯科補綴科 補助の実践 器材を扱う体験	白田、近藤、 遠藤、大塚
25-27	暫間被覆冠の作成	暫間被覆冠の種類と作製の実際	下山、金子、 清水、大塚
28-30	精密印象採得の実習	精密印象・硬石膏の取り扱い（相互実習）	下山、安江、 金子、清水
31-33	小児歯科関連の実習	フッ化物塗布の実際（相互実習）	石川、白田、 遠藤、近藤、 大塚、堀江
34-36	口腔外科・歯科麻酔関連 実習	浸潤麻酔・静脈確保の実際	神野、吉増、 白田、大塚
37-39	補綴物について	義歯の種類と取り扱い方	白田、近藤、 遠藤、大塚
40-42	救急蘇生法の実習	救急蘇生の実際	神野、白田、 大塚
43-45	臨床口腔保健学基礎実習 評価 OSCE	科目の理解度を評価 実技及び筆記試験	白田、遠藤、 近藤、田澤、 堀江、小原、 大塚

## 評価方法

- ・ 期末の筆記試験、実技試験及び提出レポート・課題により総合的に評価する。
- ・ 出席状況、意欲・授業態度を総合的に評価に加味する。

## 参考図書等

- ・ 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・ 器材準備マニュアル第5版 全国歯科衛生士教育協議会編 財団法人 口腔保健協会

## 留意事項

事前に資料の配布、e-learning システム上へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

## 担当教員の Office hour

白田千代子	講師	随時	hakuta.gohc@tmd.ac.jp
遠藤圭子	准教授	随時	usagi.aohc@tmd.ac.jp
近藤圭子	講師	随時	solan.pvoh@tmd.ac.jp
石川雅章	教授	随時	ishikawa.pohc@tmd.ac.jp
吉増秀實	教授	随時	h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp
下山和弘	教授	随時	k.shimoyama.gohc@tmd.ac.jp

科目名	顎口腔機能訓練法
ユニット名	顎口腔機能訓練法
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	石川雅章
授業担当者	石川雅章、佐々木洋（UTAKA DENTAL OFFICE）、壬生美智子（言語治療室）、大塚義頭（千葉東病院）、落合聡（聖マリア病院）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

### 学習目標

顎・口腔・顔面領域の運動および感覚の健全な発達を支援する必要性、および様々な顎口腔機能訓練の役割とその実際を理解する。

### 到達目標

- ・顎口腔機能発達の遅滞に対する支援を理解する。
- ・顎口腔機能の発達に影響を及ぼす習癖などを理解する。
- ・顎口腔機能の発達における哺乳・離乳、摂食の重要性を理解する。
- ・口腔筋機能療法を概説できる。
- ・発音機能の発達とその異常を概説できる。
- ・構音障害とその診査法・訓練法を概説できる。
- ・摂食・嚥下機能の発達障害を概説できる。
- ・重症障害児の摂食訓練を概説できる。
- ・顎口腔の先天異常における摂食機能への影響を理解する。
- ・唇顎口蓋裂児における Hotz 床の役割を概説できる。

### 授業計画 第3 学年前期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	摂食・嚥下機能の発達、非栄養的吸啜行動と口腔習癖	発育の原則，機能の発達と習熟，哺乳の発達，相互作用の意義，成人の摂食・嚥下過程，非栄養的吸啜行動の背景と発育への影響，歯科からのアプローチ	佐々木洋

3, 4	口腔筋機能療法の基本理論と流れ	口腔筋機能療法の概説, 促通法, 筋機能訓練, 行動変容療法, 理論と訓練法の組立、包括的歯科における口腔筋機能療法の応用	佐々木洋
5, 6	口腔筋機能の評価法と口腔筋機能療法の手技	摂食・嚥下過程での顎舌協調運動の評価, 口腔機能の障害とパラファンクション、筋触診, 摂食・嚥下課程の簡易評価、低位舌と口唇閉鎖、姿勢、評価法と手技の演習	佐々木洋
7, 8	発音機能の発達と遅滞、言語治療の概要	言語聴覚士について、正常な構音発達、発達中の音の誤りの特徴、機能性構音障害と治療法、症例供覧	壬生美智子
9, 10	構音障害とその訓練	器質性構音障害と治療法、舌小帯強直症と言語治療、口蓋裂に伴う構音障害と言語治療、鼻咽腔閉鎖機能の診査と評価、スピーチエイドとパラタルリフト、症例供覧	壬生美智子
11-13	摂食・嚥下機能の遅滞、重症障害児の摂食訓練	摂食嚥下機能の発達遅滞、遅滞を助長する外部環境因子、異常パターンの定着、重症心身障害児の摂食訓練（食事環境の整備、脱感作療法、介助の姿勢、顎・頭部の固定とコントロール、食物の調理形態、嚥下促通法、バンゲード法）	大塚義頭
14, 15	先天異常と顎口腔機能、唇顎口蓋裂児におけるHotz床の役割	顎口腔の先天異常と摂食機能の発達、唇顎口蓋裂児の哺乳と離乳、Hotz床の目的・構造および治療効果、術前鼻齒槽形成法（PNAM）、家族・本人への精神的支援	落合聡

### 評価方法

- ・必要に応じてレポートの提出を課すとともに、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・口腔筋機能療法（MFT）の臨床 佐々木洋他編 医歯薬出版
- ・口腔筋機能療法の実際 高橋未哉子 クインテッセンス出版
- ・口唇口蓋裂の理解のために—すこやかな成長を願って— 夏目長門、鈴木俊夫 医歯薬出版
- ・言語聴覚療法シリーズ8・器質性構音障害 斉藤裕恵編 建帛社
- ・口蓋裂の言語治療 岡崎恵子他 医学書院

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	発達育成系口腔保健衛生臨床実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修・140 時間 4 学年前期・必修・40 時間 単位認定（4 単位）は 4 学年前期（40 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	品田佳世子・石川雅章
授業担当者	寺岡加代、石川雅章、下山和弘、吉増秀實、品田佳世子、遠藤圭子、近藤圭子、白田千代子、大学院医歯学総合研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教員・歯科衛生士・看護師・放射線技師
主な授業場所	歯学部附属病院内

### 学習目標

歯科診療施設において、発達期にある乳幼児から青少年およびその保護者に対し、チーム医療の一員として、歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

### 到達目標

- ・ 患児の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理する。
- ・ 患児および保護者の不安・不満に適切に対応する。
- ・ 歯科診療時に示す患児の行動とその変容に適切に対応する。
- ・ 歯科ユニット各部の名称と機能を説明する。
- ・ 発達期の歯科診療に必要な器材を説明する。
- ・ 診療室への患児および保護者を適切に誘導する。
- ・ 患児および保護者に挨拶して自己紹介する。
- ・ 患児および保護者との信頼関係を築く。
- ・ 個人的、社会的背景等が異なる患児および保護者に、わけへだてなく対応する。
- ・ 患児および保護者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応する。
- ・ 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備する。
- ・ 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮する。
- ・ 患児および保護者からの質問に適切に答え、その様々な反応に柔軟に対応する。
- ・ 医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てる。
- ・ インフォームドコンセントを行う。

- ・乳幼児から青少年に対し、歯科予防処置を実施する。
- ・乳幼児から青少年およびその保護者に対し、歯科保健指導を実施する。
- ・乳幼児から青少年の歯科診療に際し、診療補助を実施する。
- ・歯科用X線写真撮影時における補助、現像、フィルム処理を実践するとともに、歯科口腔外科領域の画像診断法の概要も理解する。
- ・病院における中央器材室の役割を理解し、滅菌法、滅菌の検知、滅菌物の管理および供給について理解する。

### 授業計画 3 学年後期・必修・140 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-24	臨床実習ガイダンスおよび予備実習	臨床実習ガイダンス、小児歯科外来、歯科放射線外来、中央器材室実習等に関するオリエンテーション	口腔保健学科教員、歯学科教員、歯科衛生士
25-95	小児歯科外来実習	小児歯科外来における歯科診療の補助、歯科保健指導	石川雅章、小児歯科外来教員、歯科衛生士
96-120	歯科放射線外来実習	歯科放射線外来における歯科診療の補助	歯科放射線外来教員、放射線技師
121-140	中央器材室実習	中央器材室における歯科診療室管理業務実習	看護師

### 評価方法

- ・実習記録等により総括的評価を行う。
- ・実習態度を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「小児歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科放射線」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

## 留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

## 担当教員の Office hour

石川雅章 教授 平日 9:00-18:00 [ishikawa.pohc@tmd.ac.jp](mailto:ishikawa.pohc@tmd.ac.jp)

品田佳世子 教授 月・金 16:00-18:00 [shinada.ohp@tmd.ac.jp](mailto:shinada.ohp@tmd.ac.jp)

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	成人口腔保健衛生臨床実習 I
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修 6 単位・270 時間
科目・ユニット責任者	品田佳世子
授業担当者	品田佳世子、寺岡加代、石川雅章、下山和弘、吉増秀實、遠藤圭子、近藤圭子、白田千代子、坂本裕次郎、佐々木好幸（う蝕制御学分野）、山崎美幸・岡田昌子・田澤千鶴・河野章江・小原由紀（非常勤講師）、大学院医歯学総合研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教職員・歯科衛生士・看護師
主な授業場所	歯学部附属病院内

### 学習目標

主に成人に対し、対象者本位の歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

### 到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理する。
- ・対象者の不安・不満や表情・行動の変化に適切に対応する。
- ・歯科ユニット各部の名称と機能を説明できる。
- ・診療に必要な器材を説明する。
- ・診療室への患者の誘導を適切にできる。
- ・対象者に挨拶して自己紹介できる。
- ・対象者との信頼関係を築くことができる。
- ・個人的、社会的背景等が異なる対象者に、わけへだてなく対応する。
- ・対象者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- ・必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備する。
- ・説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- ・対象者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応する。
- ・医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- ・インフォームドコンセントを行う。
- ・主に成人に対し、歯科予防処置を実施する。
- ・主に成人に対し、歯科保健指導を実施する。
- ・主に成人に対し、歯科診療補助を実施する。

### 授業計画 3 学年後期・必修6単位・270時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-45	臨床実習ガイダンスおよび予備実習	臨床実習ガイダンス、口腔ケア外来、むし歯外来、歯周病外来、義歯外来、口腔外科外来等におけるオリエンテーション	口腔保健学科教員、歯学科教員、歯科衛生士
46-135	口腔ケア実習	患者さんを担当した歯科予防処置、歯科保健指導	口腔保健学科臨床系教員 非常勤講師 佐々木好幸
136-180	むし歯外来実習	むし歯外来における歯科診療補助、歯科保健指導	むし歯外来教員、歯科衛生士
181-225	歯周病外来実習	歯周病外来における歯科診療補助、歯科保健指導	歯周病外来教員、歯科衛生士
226-248	義歯外来実習	義歯外来における歯科診療補助、歯科保健指導	義歯外来教員、歯科衛生士
249-270	口腔外科外来実習	口腔外科外来における歯科診療補助、歯科保健指導	口腔外科外来教員、看護師

#### 評価方法

- ・実習記録、患者さんへのリーフレット等により総括的評価を行う。
- ・出席状況、実習記録、患者へのリーフレット等、実習態度を総括的評価に加味する。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。

#### 参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1歯科補綴」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

版

- ・最新歯科衛生士教本「顎口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

### 留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

### 担当教員の Office hour

吉増秀實 教授 火・木 16:00-18:00 h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp

品田佳世子 教授 月・金 16:00-18:00 shinada.ohp@tmd.ac.jp

近藤圭子 講師 随時 solan.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	地域口腔保健衛生臨地実習
ユニット名	地域口腔保健衛生臨地実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修・30 時間 3 学年後期・必修・15 時間 単位認定（2 単位）は 4 学年前後期終了時に行う
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
授業担当者	遠藤圭子、近藤圭子、白田千代子、寺岡加代、石川雅章
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室、小学校、幼稚園、保育園、病院 等

### 学習目標

地域保健活動を展開するために必要な知識、技術、態度を習得して、実践力を養う。

### 到達目標

- ・地域における口腔保健活動を説明する。
- ・学童、園児等のニーズを判断して、健康教育の企画し、実践する。
- ・健康教育による介入後の変化を評価する。
- ・病院における歯科衛生活動の内容を説明する。

### 授業計画

#### 3 学年前期・必修・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	学外実習の意義 小学生対象健康教育 1	学外実習について 事前調査項目の検討、設計	遠藤、白田 近藤
4-7	小学生対象健康教育 2	小学校 1・2 年生の健康課題 生活習慣、学童が抱える歯科的問題	白田
8-10	小学生対象健康教育 3	教材の意義、種類、特徴、活用法 絵コンテ作成、必要物品準備	近藤、遠藤
11-14	小学生対象健康教育 4	学外実習（T 小学校における健康教育） 実習、事後評価、実習報告書の作成	遠藤、近藤
15-17	幼稚園児対象健康教育 1	フッ素塗布事前調査項目の検討	遠藤
18-21	幼稚園児対象健康教育 2	フッ化物の局所応用、必要物品の準備	遠藤、近藤

22-24	幼稚園児対象健康教育 3	実習、事後評価、実習報告書の作成 (N幼稚園における健康教育)	遠藤、近藤 石川、寺岡
25-27	保育園児対象健康教育 1	幼児の健康課題、生活習慣、幼児が抱える 歯科的問題	遠藤、白田 近藤
28-30	保育園児対象健康教育 2	実習、事後評価、実習報告書の作成 (H市保育園における健康教育)	遠藤、近藤

### 3 学年後期・必修・15 時間

31-35	総合病院における活動の 実際	総合病院の現状と職種間の連携	白田、遠藤
36-40	〃	入院患者の現状の把握	白田、遠藤
41-45	〃	患者誘導、術後指導、患者への配慮	白田、遠藤

### 評価方法

授業への取り組み、出席状況、報告書、期末試験を基に総括的評価を行う。

### 留意事項

- ・学外実習時の服装、態度、言葉遣いに留意する。
- ・実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切な場合には、実習停止とすることがある。

### 担当教員の Office hour

遠藤圭子 准教授 随時 usagi.aohc@md.ac.jp  
 近藤圭子 講師 随時 solan.pvohtmd.ac.jp  
 白田千代子 講師 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp  
 石川雅章 教授 随時 ishikawa.pohc@tmd.ac.jp  
 寺岡加代 教授 随時 ktera.ohce@tmd.ac.jp

科目名	特論（卒業研究）
ユニット名	特論（卒業研究）
授業形態	演習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修・60 時間 単位認定（6 単位）は 4 学年（120 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	吉増秀實
授業担当者	口腔保健学科・歯学科教員
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

### 学習目標

各学生の知的興味、将来の方向性に沿ってテーマを選択し、計画・立案に基づいて研究を実施する。さらに結果を論文にまとめて十分考察することにより、研究への理解と意欲を培う。

### 到達目標

- ・自分の知的興味、将来の方向性に沿って研究テーマを設定する。
- ・研究テーマに対応した論文の検索と科学的吟味を行い、これまでの知見を整理する。
- ・EBM・EBHC の概念を説明する。
- ・知見や問題点に基づいた研究の計画・立案を行う。
- ・実験・調査などの研究を実施する。
- ・実験・調査などの結果を分析整理し、統計学的な解析を行う。
- ・結果に基づき、新たな問題点と課題を抽出、提起する。

### 授業計画 3 学年後期・必修・60 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	卒業研究オリエンテーション	卒業研究の概要、これまでの卒業研究の紹介、口腔保健学科指導教員の研究テーマ紹介、卒業研究テーマの考え方	吉増秀實
3, 4	研究のデザイン	Evidence-based Medicine (EBM), Evidence-based Health Care (EBHC)とは、論文の構成、文献の検索と引用、文献の科学的吟味	佐々木好幸
5, 6	研究方法の立案、結果の整理	実験ノートのつけ方、調査アンケート作成上の注意、倫理上の問題、個人情報管理、結果の入力方法とエクセルの使い方	佐々木好幸

7-10	研究結果の分析処理	研究結果の分析方法、有意性の検定、統計ソフトの使い方の実際	佐々木好幸
11, 12	研究計画の仮決定、論文書式	研究テーマの仮決定、研究分野・指導教官の決定、研究計画書の作成方法、CD掲載概要版と本論文の書式について	吉増秀實
13-28	研究分野とテーマの検討1	指導教官との討論による研究計画・方法の検討、研究テーマに関連する文献検索と知見の整理、課題の設定、研究計画書の作成	吉増秀實 各教員
29-36	4年生特論研究成果報告会	4年生特論研究成果報告会への参加	吉増秀實 各教員
37-44	研究計画書の作成	研究計画書の作成 倫理審査委員会と研究評価方法について	吉増秀實 寺岡加代 各教員
45-52	研究計画書の提出	研究計画書の再検討および提出	吉増秀實 各教員
53-60	研究計画発表会	研究計画書の発表と質疑応答	吉増秀實 各教員

### 評価方法

- ・研究計画発表会での発表、および研究計画書により総括的中間評価を行う。
- ・単位認定は、3年次から各課題（論文抄録、研究計画書、中間発表会プレゼンテーション用ファイル、成果報告会プレゼンテーション用ファイル、卒業研究論文概要版）のe-learning上での期限内提出、本論文、研究進行表の提出により行う。

### 参考図書等

- ・「保健・医療のための研究法入門」、朝倉隆司監訳、協同医書出版社
- ・「歯科衛生研究の進め方、論文の書き方」、金澤紀子、武井典子、合場千佳子、岩久正明 編、医歯薬出版
- ・「医薬研究者の視点からみた道具としての統計学」、奥田千恵子、金芳堂
- ・「SPSSによる医学・歯学・薬学のための統計解析」第2版、石村貞夫他著、東京図書

### 留意事項

常に指導教員、副指導教員と密接な連絡をとり、助言を得ながら研究を進め、研究進行表の各月欄に認印をもらうこと。

### 担当教員の Office hour

吉増秀實 教授 火・木 16:00-18:00 h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp

科目名	高齢者に対する支援と制度Ⅱ
ユニット名	高齢者に対する支援と制度Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3学年前期・必修2単位・30時間
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	小野寺光江、柳沢志津子（東洋学園大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

### 学習目標

- ・高齢者の人々の生活実態および高齢者の人々を取り巻く社会情勢、福祉・介護需要、終末期ケアの在り方について理解する。
- ・高齢者福祉制度の発展過程、介護保険制度や高齢者の福祉、介護に係る他の法制度、介護の概念および介護課程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。

### 到達目標

- ・高齢者の人々の生活実態および人々を取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域行こう、就労の実態を含む）について理解する。
- ・高齢者福祉制度の発展過程について理解し説明する。
- ・介護の概念や対象およびその理念等について理解し説明する。
- ・介護課程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について説明する。
- ・相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解し説明する。
- ・高齢者の福祉・介護と口腔保健の関連性について説明する。
- ・高齢者の疾病の特徴と経過を理解し説明する。
- ・終末期の在り方（人間観や倫理を含む）について理解し説明する。

### 授業計画 3学年前期・必修2単位・30時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	高齢者を取り巻く社会環境	少子高齢化・家族変化・介護への影響	柳沢志津子
4-6	高齢者福祉制度の変遷	老人福祉法・介護保険・老人保健法	柳沢志津子
7-9	介護保険制度	制度の概要、改正ポイント、地域包括支援センター概要	柳沢志津子

10-12	その他の高齢者に関わる福祉制度	高齢者虐待の実態・高齢者虐待防止法、成年後見制度と自立支援事業、居住安定にかかる制度・移動に関する制度・高齢者雇用	柳沢志津子
13-15	地域包括支援センターにおける専門職連携	高齢者福祉施設・在宅福祉サービス・福祉多元主義・専門職連携	柳沢志津子
16, 17	高齢者の心身の特徴	高齢者の生理機能	小野寺光江
18, 19	高齢者の疾病の特徴と経過 1	急性期から症状安定まで	小野寺光江
20, 21	高齢者の疾病の特徴と経過 2	回復期からリハビリテーション	小野寺光江
22, 23	高齢者への援助 1	在宅高齢者への援助	小野寺光江
24, 25	高齢者への援助 2	身体障害をともなう高齢者への援助	小野寺光江
26, 27	高齢者への援助 3	認知症高齢者への援助	小野寺光江
28, 29	高齢者への援助 4	終末期の援助	小野寺光江
30	まとめ	まとめ	小野寺光江

## 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。

## 参考図書等

- ・新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と制度 I 社会福祉士養成講座編集委員会編  
中央法規 2009年 ISBN978-4-8058-3113-7

## 留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

## 担当教員の Office hour

小野寺光江 講師 随時 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp

科目名	地域福祉の理論と方法 I
ユニット名	地域福祉の理論と方法 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	柳沢志津子（東洋学園大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

### 学習目標

- ・地域福祉の基本的考え方、地域福祉に係る組織や専門職の役割について理解する。
- ・ネットワーキングをはじめとする地域福祉の推進方法について理解する。

### 到達目標

- ・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について説明する。
- ・地域福祉の主体と対象について説明する。
- ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について説明する。
- ・地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む）の意義と方法及びその実際について説明する。
- ・地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について説明する。

### 授業計画 3 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	地域福祉の理念	自立支援、地域生活支援、地域移行	柳沢志津子
2	地域福祉の基本概念 1	地域コミュニティと住民、社会福祉法	柳沢志津子
3	地域福祉の基本概念 2	人権尊重、権利擁護、社会的包摂、	柳沢志津子
4	地域福祉の歴史的展開 1	地域福祉の源流 COS活動とセツルメント活動	柳沢志津子
5	地域福祉の歴史的展開 2	戦後日本の地域福祉	柳沢志津子
6	地域福祉の歴史的展開 3	地域コミュニティ視点の登場	柳沢志津子
7	地域福祉の主体と対象 1	地方分権、住民自治	柳沢志津子

8	地域福祉の主体と対象 2	福祉の多元化、市場化	柳沢志津子
9	地域福祉の問題とは何か	ビデオ「孤立する都市の高齢者」	柳沢志津子
10	地域福祉を支える組織と人々1	行政組織の役割と実際、地方自治体	柳沢志津子
11	地域福祉を支える組織と人々2	民間組織の役割と実際、社会福祉協議会、共同募金	柳沢志津子
12	地域福祉を支える組織と人々3	民間組織の役割と実際、社会福祉法人、NPO・NGO、自治会	柳沢志津子
13	地域福祉を支える組織と人々4	社会福祉専門職の役割と実際、社会福祉士、地域活動専門員、介護相談員	柳沢志津子
14	地域福祉を支える組織と人々5	地域住民の役割と実際、民生委員、児童委員、ボランティア、自治会	柳沢志津子
15	まとめ	ミニテスト	柳沢志津子

#### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

#### 参考図書等

- ・教科書：「地域福祉の理論と方法」(株みらい ISBN978-4-86015-159-1)
- ・「厚生指針 国民の福祉の動向 各年度版」 厚生統計協会
- ・「社会福祉小六法 2009年度版」 ミネルヴァ書房
- ・他随時授業中に紹介する。

#### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

#### 担当教員の Office hour

坪井真 講師 火～金曜日 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅱ
ユニット名	地域福祉の理論と方法Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3学年前期・選択3単位・45時間
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	坪井真、柳沢志津子（東洋学園大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

### 学習目標

- ・地域福祉の基本的考え方、地域福祉に係る組織や専門職の役割について理解する。
- ・ネットワーキングをはじめとする地域福祉の推進方法について理解する。

### 到達目標

- ・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について具体的に説明する。
- ・地域福祉の主体と対象について具体的に説明する。
- ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について具体的に説明する。
- ・地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む）の意義と方法及びその実際について具体的に説明する。
- ・地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、サービスの評価方法など）について具体的に説明する。

### 授業計画 3学年前期・選択3単位・45時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	地域福祉の概念と実態	地域福祉の理論と理念、地域福祉の発達過程	坪井真
4-6	地域福祉の実際1	日本における地域福祉の実際（事例検討）	坪井真
7-9	地域福祉の組織と人材	地域福祉の組織と役割、地域福祉を担う人材	坪井真
10-12	地域福祉の実際2	日本における地域福祉の組織と人材（事例検討）	坪井真
13-15	地域福祉の人材養成	ボランティア活動の推進、福祉教育の特徴	坪井真
16-18	ネットワーキング	ネットワークの基本、福祉ネットワークの特徴	坪井真
19-21	地域福祉の実際3	日本における福祉ネットワーク（事例検討）	柳沢志津子

22	地域福祉の実際 4	日本における地域福祉実践 1 (事例紹介)	坪井真
23-25	地域福祉の社会資源	地域福祉における社会資源と活用・調整・開発	柳沢志津子
26-27	地域福祉の実際 5	日本における地域福祉実践 2 (事例検討)	坪井真
28-30	地域福祉の計画策定 1	地域福祉計画の概要と実際	柳沢志津子
31-33	地域福祉の実際 6	日本における地域福祉実践 3 (事例検討)	坪井真
34-36	地域福祉の実際 7	日本における地域福祉の社会資源 (事例検討)	坪井真
37-39	地域福祉の計画策定 2	地域福祉活動計画の概要と実際	柳沢志津子
40-42	地域福祉の実際 8	日本における地域福祉の計画づくり (事例検討)	坪井真
43-45	まとめ	授業の振り返りとまとめ、学習成果の確認	柳沢志津子

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・教科書：「地域福祉の理論と方法」 (株)みらい ISBN978-4-86015-159-1
- ・「厚生指標 国民の福祉の動向 各年度版」 厚生統計協会
- ・「社会福祉小六法 2010年度版」 ミネルヴァ書房
- ・その他、随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

### 担当教員の Office hour

坪井真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	保健医療サービス
ユニット名	保健医療サービス
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・選択 2 単位・30 時間
科目責任者	坪井真
授業担当者	草水美代子（西片医療福祉研究会）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

### 学習目標

- ・相談援助活動において必要となる医療保険制度や保健医療サービスについて理解する。
- ・保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。

### 到達目標

- ・保健・医療分野における相談援助の特徴を説明する。
- ・医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）の特徴や仕組みを説明する。
- ・保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割と実際について説明する。
- ・保健医療サービスにおける他の専門職（医師・看護師・保健師・リハビリテーション関連職など）の役割と実際について説明する。
- ・インフォームドコンセントの概要（関連制度、自己決定・自立尊重原理など）を説明する。
- ・保健医療サービスにおける他職種連携や医療チームアプローチについて説明する。

### 授業計画 3 学年後期・選択 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	オリエンテーション 保健医療サービスと 医療保険制度の概要	授業の説明、相談援助と保健医療サービス、 保健・医療分野における相談援助、医療保険 の種類とプロセス、医療費に関する政策動向	草水美代子
4-6	出来高払いと包括払い 制度、医療費減免等の 諸制度	出来高払いと包括払い制度の内容、医療費政策 との関連、高額療養費制度、他の医療費減免制 度（在宅療養を含む）	草水美代子
7-9	診療報酬制度 医療法の概要	診療報酬制度（社会福祉士の役割）、医療法の概 要、医療機関の種類、診療報酬と医療連携	草水美代子

10-12	医療ソーシャルワーカー（MSW）とは 病院組織とMSW	医療ソーシャルワーカーの歴史、仕事と役割、 業務指針、病院内のMSWの位置づけ、MSW と他職種との関係	草水美代子
13-15	医師・看護師・保健 師の役割	医師・看護師・保健師の法的定義、診療報酬制 度および医療法における医師・看護師・保健師	草水美代子
16-18	インフォームドコン セント	関連制度、自己決定・自立尊重原理、ICとM SW業務	草水美代子
19-21	リハビリテーション 関連職の理解	作業療法士（OT）、理学療法士（PT）、言語 聴覚士（ST）の仕事と役割	草水美代子
22-24	医療チームアプローチ	入院から退院にいたる一般的なプロセスと各段 階における医療従事者の役割、医療チームアプ プローチの実際	草水美代子
25-27	地域保健医療サービ スと社会福祉	地域保健法の概要、保健師の役割、介護保険と 地域保健医療サービス体制	草水美代子
28-30	まとめ	事例から学ぶ保健医療サービス 授業の振り返りと学習成果の確認	草水美代子

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・教科書：「保健医療サービス 第2版（新・社会福祉士養成講座 第17巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・他随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

### 担当教員の Office hour

坪井真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	社会調査の基礎
ユニット名	社会調査の基礎
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択 2 単位・30 時間
科目責任者	坪井真
授業担当者	坪井真
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

### 学習目標

社会調査の意義と目的・方法、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。

### 到達目標

- ・社会調査の意義と目的及び方法の概要について説明する。
- ・統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について説明する。
- ・量的調査及び質的調査の基本的な方法を説明する。

### 授業計画 3 学年前期・選択 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	オリエンテーション 社会調査の意義と目的	授業の説明、学習内容の確認、社会調査の意義と目的 ソーシャルワークと社会調査	坪井真
4-6	社会調査のプロセス	社会調査のプロセス、社会調査の概要、統計の留意点	坪井真
7-9	統計法 1	統計の意義と目的、主な統計資料、統計法の基本	坪井真
10-12	統計法 2	ソーシャルワークにおける統計データの活用、事例紹介	坪井真
13-15	社会調査における倫理と個人情報保護	社会調査における倫理、個人情報保護、統計法における秘密保持、調査票の管理	坪井真
16-18	量的調査の方法 1	量的調査の概要、調査のプロセス（データ収集・分析等）	坪井真
19-21	量的調査の方法 2	量的調査の実際（事例の紹介、簡単な調査の演習）	坪井真
22-24	質的調査の方法 1	質的調査の概要、調査のプロセス（データ収集・分析等）	坪井真

25-27	質的調査の方法 2	質的調査の実際（事例の紹介、簡単な調査の演習）	坪井真
28-30	社会調査における IT の活用、まとめ	IT を活用した社会調査の実際 授業の振り返りと学習成果の確認	坪井真

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・教科書：「社会調査」放送大学テキスト
- ・他随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

### 担当教員の Office hour

坪井真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	相談援助の理論と方法
ユニット名	相談援助の理論と方法
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択・46 時間 3 学年前期（夏季集中）・選択・14 時間 単位認定（8 単位）は 4 学年前期・夏季集中（60 時間）の授業終了後に行う
科目責任者	坪井真
授業担当者	坪井真、長谷川洋昭（田園調布学園大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

### 学習目標

- ・相談援助の理論および相談援助の過程と知識・技術について理解する。
- ・相談援助の実際および相談援助の事例分析（意義や方法）について理解する。

### 到達目標

- ・相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について説明する。
- ・相談援助の対象と様々な実践モデルについて説明する。
- ・相談援助の過程とそれに係る知識と技術について説明する。
- ・相談援助における事例分析の意義や方法について説明する。
- ・相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について説明する。

### 授業計画

#### 3 学年前期・選択・46 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-4	イントロダクション	社会福祉援助技術の概要（定義、歴史、理論）	坪井真
5-8	人と環境の交互作用	相談援助の理論と実践（システム理論など）	坪井真
9-12	相談援助の対象	具体的な相談援助の対象と範囲（視聴覚学習）	坪井真
13-16	相談援助の実践モデル	相談援助における実践モデル	坪井真
17-20	相談援助の過程	相談援助の基本的なプロセス、事例検討	坪井真
21-24	援助関係の構築	援助関係形成の方法	坪井真
25-28	相談援助の面接技術	相談援助における面接の場面と面接技術	坪井真

29-32	ケースマネジメントとケアマネジメント	ケースマネジメントとケアマネジメントの共通点と相違点、諸外国と日本の事例の比較検討	坪井真
33, 34	アウトリーチ	アウトリーチの概念、相談援助の事例検討	坪井真
35	相談援助における社会資源の活用・調整・開発	一般的な社会資源の種類、相談援助における社会資源の位置づけ・活用・調整・開発	坪井真
36	ネットワーク（相談援助における多職種・多機関との連携）	相談援助におけるネットワーク（相談援助における多職種・多機関との連携を含む）	坪井真
37, 38	グループワーク	グループワークの概要、事例検討	坪井真
39, 40	スーパービジョン	スーパービジョンの概要、事例検討	坪井真
41, 42	記録、相談援助と個人情報保護の意義と留意点	相談援助における記録の意味や位置づけ、相談援助における個人情報保護の意義と留意点、相談援助における情報通信技術（IT）の活用	坪井真
43, 44	相談援助の実際 1（権利擁護活動を含む）	相談援助（権利擁護活動を含む）の事例検討、グループ討議	坪井真
45, 46	相談援助の実際 2（権利擁護活動を含む）	相談援助（権利擁護活動を含む）の事例検討、グループ討議	坪井真

### 3 学年前期（夏季集中）・選択・14 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
47-53	相談援助の実際 3（権利擁護活動を含む）	様々な相談援助の実際 1（司法福祉と相談援助）	長谷川洋昭
54-60	相談援助の実際 4（権利擁護活動を含む）	様々な相談援助の実際 2（司法福祉と相談援助）	長谷川洋昭

#### 評価方法

- ・複数回の授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。

#### 参考図書等

- ・随時授業中に紹介する。

#### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

#### 担当教員の Office hour

坪井真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	社会福祉相談援助演習
ユニット名	社会福祉相談援助演習
授業の形態	演習
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択・4 時間 3 学年前期（夏季集中）・選択・56 時間 3 学年後期・選択・35 時間 単位認定（5 単位）は 4 学年前後期（55 時間）の授業終了後に行う
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	坪井真、堀千鶴子(城西国際大学)、草水美代子(西片医療福祉研究会)
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

### 学習目標

社会福祉における相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

### 到達目標

- ・社会福祉援助の特徴・内容・方法とプロセスを説明する。
- ・社会福祉援助に関する実践上の課題について、自らの意見を述べる。
- ・社会福祉援助と口腔保健における実践の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度をもつ。
- ・社会福祉援助技術現場実習に向けた自らの興味関心と学習課題を説明する。

### 授業計画

#### 3 学年前期・選択・4 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-4	授業説明、基礎演習	相談援助演習の目的・意義、基礎演習	坪井真

#### 3 学年前期（夏季集中）・選択・56 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
5-11	相談援助技術の基礎 1	自己覚知について（自己理解と他者理解） 基本的なコミュニケーション技術の習得	堀千鶴子

12-18	相談援助技術の基礎 1	基本的な面接技術の習得 相談援助における価値と倫理の理解	堀千鶴子
19-25	相談援助技術の実際 1	個別援助の実際と援助技術の活用	堀千鶴子
26-32	相談援助技術の実際 2	集団援助の実際と援助技術の活用	堀千鶴子
33-39	相談援助実践事例演習 1	実践事例（社会的排除・虐待（児童・高齢者）・家庭内暴力（D.V）・低所得者・ホームレス・その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む）の理解と研究方法	堀千鶴子
40-46	相談援助実践事例演習 2	医療ソーシャルワークにおける実践事例の理解と研究方法 1	草水美代子
47-53	相談援助実践事例演習 3	医療ソーシャルワークにおける実践事例の理解と研究方法 2	草水美代子
54-60	相談援助実践事例演習 4	医療ソーシャルワークにおける実践事例の理解と研究方法 3	草水美代子

### 3 学年後期・選択・35 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
61-67	相談援助技術の実際 3	地域福祉の実際と援助技術の活用	坪井真
68-74	相談援助実践事例演習 5	地域福祉における実践事例の理解と研究方法 1	坪井真
75-81	相談援助実践事例演習 6	地域福祉における実践事例の理解と研究方法 2	坪井真
82-88	相談援助実践事例演習 7	地域福祉における実践事例の理解と研究方法 3	坪井真
89-95	相談援助実践事例演習 8	地域福祉における実践事例の理解と研究方法 4	坪井真

#### 評価方法

- ・複数回の授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。

**参考図書等**

随時授業中に紹介する。

**留意事項**

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、グループディスカッションやロールプレイなどには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

**担当教員の Office hour**

坪井真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	社会福祉相談援助実習
ユニット名	社会福祉相談援助実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期（春季集中）・選択・16 日間（120 時間）または 8 日間（60 時間）以上 単位認定（4 単位）は 4 年次の実習（8 日間または 16 日間以上）終了時に行う
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	実習先の実習指導者
主な授業場所	社会福祉施設・機関

### 学習目標

社会福祉士として求められる資質や倫理、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際に理解し、支援に必要な技術を体得する。

### 到達目標

- ・社会福祉分野における相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に経験し、実践的な技術等を経験知として整理する。
- ・社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を体験的に把握する。
- ・関連分野の専門職との連携のあり方や具体的内容を把握し、事後学習で整理する。

### 授業計画 3 学年後期（春季集中）・選択・16 日間（120 時間）もしくは 8 日間（60 時間）以上

実習日程等については、実習受け入れ先と相談の上、決定する。

### 評価方法

実習計画、実習記録ノート、実習報告書および実習指導者評価表により、総括的評価を行う。

### 担当教員の Office hour

坪井真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	社会福祉相談援助実習指導
ユニット名	社会福祉相談援助実習指導
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年前後期・選択・63 時間 単位認定（2 単位）は 4 学年前後期（27 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	坪井真、社会福祉施設・機関の実習指導者
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

### 学習目標

- ・社会福祉における相談援助実習の意義について理解する。
- ・授業で学んだ専門知識と相談援助の具体的な実践を結びつけるとともに、実習後は実習体験を意識化し、体系立てていくことをめざす。

### 到達目標

- ・社会福祉における相談援助実習の意義を事前に理解し、実習後は経験知として説明する。
- ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に体験し、経験知として説明する。
- ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、意識化する。
- ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てて整理する。

### 授業計画 3 学年前後期・選択・63 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-7	社会福祉現場実習のオリエンテーション、基礎学習	社会福祉実習施設の説明、社会福祉実習の意義・目的、実習先の決定、個人票作成要領の説明、視聴覚学習	坪井真
8-14	実習計画と学習活動	実習計画の作成過程と意義、学習目標の検討	坪井真
15-21	実習による体験学習の理解	4 年生による社会福祉援助技術現場実習の学習発表会参加	坪井真

22-28	社会福祉施設・機関の把握 1	社会福祉施設の現状と実習内容 1	社会福祉施設・機関の実習指導者
29-35	社会福祉施設・機関の把握 2	社会福祉施設の現状と実習内容 2	社会福祉施設・機関の実習指導者
36-42	実習前指導 1	実習生としての態度や取り組み、事前学習の内容など	坪井真
43-49	実習前指導 2	実習計画書および個人票の作成指導 1	坪井真
50-56	実習前指導 3	実習計画書および個人票の作成指導 2	坪井真
57-63	実習前指導 4	実習計画書および個人票の作成指導 3	坪井真

### 評価方法

事前・事後学習の成果による総合的評価を行う。

### 参考図書等

随時、実習関連資料を配付する。

### 担当教員の Office hour

坪井真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp



# 第4学年 履修ユニット

科目名	社会保障論Ⅱ
ユニット名	社会保障論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4学年前期・選択1単位・15時間 3年次（45時間）の履修と併せて3単位を認定する
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	弓削俊雄（社会福祉法人 竹友会 理事長）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

### 学習目標

- ・社会保障制度の全体および各論を理解する。
- ・生活と社会保障の関連性を理解する。

### 到達目標

- ・年金制度を説明する。
- ・医療保険制度を説明する。
- ・介護保険制度を説明する。
- ・雇用保険、労働災害補償保険制度を説明する。
- ・諸外国の社会保障を説明する。

### 授業計画 4学年前期・選択1単位・15時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	社会保障の歴史	社会保障の歴史	弓削俊雄
3, 4	医療保険制度 1	我が国の医療保険制度と諸外国の制度	弓削俊雄
5, 6	医療保険制度 2	医療保険制度における給付事例の検討	弓削俊雄
7, 8	年金制度 1	我が国の年金制度と諸外国の制度	弓削俊雄
9, 10	年金制度 2	年金制度における給付事例の検討	弓削俊雄
11, 12	雇用保険、労働災害補償保険制度	我が国における雇用保険と労働災害補償保険制度の概要	弓削俊雄
13, 14	介護保険制度	我が国の介護保険制度と諸外国の制度	弓削俊雄
15	まとめ	授業の振り返りと学習内容のまとめ	弓削俊雄

### **評価方法**

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### **参考図書等**

随時授業中に紹介する。

### **留意事項**

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

### **担当教員の Office hour**

坪井 真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	保健行動科学
ユニット名	ヘルスカウンセリング特論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4学年前期・選択1単位・15時間
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
授業担当者	遠藤圭子、近藤圭子、白田千代子、坪井真
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室、歯学部 演習室

### 学習目標

歯科保健医療従事者として対人援助をするために、コミュニケーションやカウンセリングの手法を応用して、問題解決するための判断力と行動する姿勢を身につける。

### 到達目標

- ・対象とする人に対して、支援者としての基本的な態度をとることができる。
- ・対象とする人の話を受容的に聴く。
- ・歯科医療従事者の活動場面でのコミュニケーションを理解する。
- ・人びとの健康づくりに必要なカウンセリング技法を理解する。
- ・事例に則した問題解決のため意欲的に判断し、行動する。

### 授業計画 4学年前期・選択1単位・15時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	オリエンテーション	授業の目的と方法	遠藤圭子
3, 4	対象とする人の理解	カウンセリング技法の基礎と応用	遠藤圭子 白田千代子
5, 6	事例検討1	口臭を訴える患者へのカウンセリング	遠藤圭子 近藤圭子
7, 8	事例検討2	審美的悩みを抱える患者へのカウンセリング	白田千代子 遠藤圭子
9, 10	地域住民に対する相談技法	地域住民とのコミュニケーションの実際	遠藤圭子 白田千代子 坪井真

11, 12	産業保健におけるカウンセリング	産業保健における禁煙支援の相談事例	遠藤圭子
13, 14	ストレスマネジメント	ストレス対処に関するカウンセリング	遠藤圭子 近藤圭子
15	まとめ	振り返りとまとめ	遠藤圭子

### 評価方法

出席、授業への取り組みならびに提出物により評価する。

### 留意事項

具体的事例を取り上げながら演習を行うとともに、歯科保健医療現場における対人援助に即した内容を設定して、授業を進める。

### 担当教員の Office hour

白田千代子 講師 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp  
遠藤圭子 准教授 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp  
近藤圭子 講師 随時 solan.pvoh@tmd.ac.jp  
坪井 真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	介護概論
ユニット名	介護概論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修・15 時間 } 2 単位 4 学年後期・必修・15 時間
科目・ユニット責任者	小野寺光江
授業担当者	小野寺光江、助友裕子（国立がん研究センター）、 新井武志（目白大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

### 学習目標

社会を構成する基本的単位である家族について学び、その機能の変遷より、現代の日本社会が抱える介護の問題を理解するとともに、基本的な介護技法を習得する。

### 到達目標

- ・ 家族とは何かを理解し説明する。
- ・ 家族の機能およびその変遷を理解し説明する。
- ・ 介護とは何かを理解し説明する。
- ・ 家族機能の視点から介護の必要性を理解し説明する。
- ・ 介護の対象を理解し説明する。
- ・ 介護活動の展開法を理解し説明する。
- ・ 介護予防の必要性を理解し説明する。
- ・ 介護予防活動の概要を説明する。
- ・ 老年症候群について理解し説明する。
- ・ 介護に必要な基本的な介護を理解し説明する。
- ・ 要支援者・要介護者の心身の特徴を理解し説明する。
- ・ 福祉用具について説明する。
- ・ 介護にかかわる保健・医療・福祉等の関連職種との連携の必要性を理解し説明する。

### 授業計画

#### 4 学年前期・必修・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	家族とは何か	家族の概念、家族の機能	助友裕子

2	現代家族の動向 1	家族形成の原理、現代社会と家族	助友裕子
3	現代家族の動向 2	現代社会の家族構造および機能の変化	助友裕子
4	介護とは何か	介護の概念他	小野寺光江
5	介護の対象	介護の対象は誰か、要支援者・要介護者および介護者の特徴	小野寺光江
6	介護の対象	介護の対象、要支援者・要介護者および介護者の特徴	小野寺光江
7	介護技術 1	介護活動の展開 1	小野寺光江
8	介護技術 2	介護活動の展開 2	小野寺光江
9	介護技術 3	日常生活援助のための基本的な介護・福祉用具 1	小野寺光江
10	介護技術 4	日常生活援助のための基本的な介護・福祉用具 2	小野寺光江
11	介護技術 5	日常生活援助のための基本的な介護・福祉用具 3	小野寺光江
12	介護技術 6	日常生活援助のための基本的な介護・福祉用具 4	小野寺光江
13	介護と関連機関との連携	介護と医療の継続	小野寺光江
14	高齢社会の課題	高齢者を取り巻く諸問題	小野寺光江
15	まとめ	まとめ	小野寺光江

#### 4 学年後期・必修・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
16, 17	介護予防とは何か	介護予防の必要性・老年症候群	新井武志
18, 19	介護予防の対象	介護予防の対象	新井武志
20, 21	介護予防活動Ⅰ	介護予防活動の展開	新井武志
22, 23	介護予防活動Ⅱ	介護予防活動時のリスク管理	新井武志
24, 25	介護予防活動Ⅲ	転倒予防プログラムの概要	新井武志
26, 27	介護予防活動Ⅳ	運動器の機能向上プログラムの概要	新井武志
28, 29	介護予防活動Ⅴ	自己管理型筋力増強プログラムの概要	新井武志
30	まとめ	まとめ	新井武志

#### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、記述試験で総合的評価を行う。

- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度 社会福祉士養成講座編集委員会  
編 中央法規 2009年 ISBN978-4-8058-3113-7

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員の Office hour

小野寺光江 講師 随時 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp

科目名	歯科口腔介護
ユニット名	歯科口腔介護
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 1 単位・15 時間 4 学年前期・選択 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	白田千代子
授業担当者	白田千代子、遠藤圭子、近藤圭子、小野寺光江、大庭優香（リハビリテーション部）、大塚紘未（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室ほか

### 学習目標

加齢にともなう口腔機能の変化を理解し、高齢者の心身と口腔の状況に応じた口腔機能の保持・増進のための方法および技術を習得する。

### 到達目標

- ・高齢者の口腔保健の現状と課題を説明する。
- ・加齢に伴う口腔機能の変化を説明する。
- ・高齢者の口腔の健康維持・増進の必要性を説明する。
- ・高齢者や障害者の口腔機能評価方法を説明する。
- ・口腔機能に応じた食形態や障害に応じた食器について説明する。
- ・疾病や障害に応じた食事摂取の方法について説明する。
- ・自立高齢者および要支援・要介護高齢者への口腔ケア支援の方法を理解し、技術を習得する。
- ・麻痺や特殊疾患等により口腔機能障害をもつ高齢者の口腔ケアの方法を理解し、基本的な介護を習得する。

### 授業計画

#### 4 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	高齢者口腔保健 加齢に伴う口腔機能の変化	高齢者の口腔状態：加齢に伴う生理的な口腔機能の変化と疾病や障害などによる口腔機能の変化	白田、小野寺 遠藤、近藤
3, 4	歯科口腔介護	歯科口腔介護とは、口腔の健康維持・増進の必要性、歯科口腔介護の定義・目的・対象者 介護予防とは	白田、小野寺 遠藤、近藤

5, 6	自立高齢者・要支援・要介護高齢者への専門的支援	口腔機能とは、高齢者の口腔機能評価と専門的支援	白田、小野寺 遠藤、近藤
7, 8	要支援・要介護高齢者への支援 1	口腔機能向上とは、口腔機能訓練とは機能を維持増進させる方法	白田、小野寺 遠藤、近藤
9, 10	要支援・要介護高齢者への支援 2	食事をとるということ 口から食べる意味	白田、小野寺 遠藤、近藤
11, 12	要支援・要介護高齢者への支援 3	口腔機能に応じた食べ物・飲み物、 障害に応じた食器	白田、小野寺 遠藤、近藤
13, 14	要支援・要介護高齢者への支援 4	口腔清掃・口腔機能訓練	白田、小野寺 遠藤、近藤
15	まとめ	まとめ	白田、小野寺 遠藤、近藤

#### 4 学年後期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	障害をもつ高齢者への日常生活支援 1	姿勢と体位、更衣の援助	白田、小野寺 遠藤、近藤
3, 4	障害をもつ高齢者への日常生活支援 2	運動・移動の援助：床上の移動、座位の保持、歩行介助、車いすへの移乗	白田、小野寺 遠藤、近藤
5, 6	障害をもつ高齢者への日常生活支援 3	疾病や障害に応じた食事（栄養摂取）摂取の方法、床上における食事介助	白田、小野寺 遠藤、近藤
7, 8	口腔機能と障害	発声・発語、摂食・嚥下の機能と障害	大庭
9, 10	疾患や障害をもつ人々への口腔ケア 1	口腔機能訓練、疾患や障害を地域で支援する方法、口腔ケアの展開、慢性疾患患者に対する口腔ケア	白田、小野寺 遠藤、近藤
11, 12	疾患や障害をもつ人々への口腔ケア 2	特殊疾患患者・高次脳機能障害者に対する口腔ケア	白田、小野寺 遠藤、近藤
13, 14	疾患や障害をもつ人々への口腔ケア 3	癌患者（頭頸部癌・口腔癌も含む）に対する口腔ケア	白田、小野寺 遠藤、近藤
15	まとめ	まとめ	白田、小野寺 遠藤、近藤

## 評価方法

- ・提出レポート、課題発表、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

## 参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防にかかわる人間と社会の仕組み1・保健生態学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1・歯科補綴 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助」医歯薬出版
- ・「臨床の口腔生理学に基づく摂食・嚥下障害のキュアとケア」舘村卓著 医歯薬出版
- ・「実践訪問口腔ケア」上巻 高江洲義矩監修 クインテッセンス
- ・「実践訪問口腔ケア」下巻 高江洲義矩監修 クインテッセンス

## 留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

## 担当教員の Office hour

白田千代子	講師	随時	hakuta.gohc@tmd.ac.jp
遠藤圭子	准教授	随時	usagi.aohc@tmd.ac.jp
近藤圭子	講師	随時	solan.pvoh@tmd.ac.jp
小野寺光江	講師	随時	m.onodera.cohc@tmd.ac.jp

科目名	歯科口腔介護
ユニット名	顎口腔機能リハビリテーション
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	下山和弘
授業担当者	下山和弘、戸原玄（日本大学）、大平章子（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

### 学習目標

顎口腔機能および顎口腔機能障害、機能障害に対する対応方法を理解する。

### 到達目標

- ・摂食・嚥下障害および言語障害の病因・病態・障害を説明する。
- ・摂食・嚥下障害および言語障害の治療・管理の必要性和流れを説明する。
- ・摂食・嚥下障害を有する患者の口腔清掃及び保健指導を説明する。
- ・摂食・嚥下障害および言語障害に対する訓練法を説明する。
- ・摂食・嚥下障害への食事の対応を説明する。
- ・摂食・嚥下障害および言語障害に対するチーム医療を説明する。

### 授業計画 4 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	顎口腔機能	顎口腔機能の種類と重要性	下山和弘
2	言語障害 1	言語障害の特徴	大平章子
3	言語障害 2	言語障害の問題点	大平章子
4	摂食・嚥下障害 1	摂食・嚥下障害の特徴と問題点	下山和弘
5	言語障害 3	言語障害の評価と診断	大平章子
6	言語障害 4	言語障害に対する治療・指導	大平章子
7	摂食・嚥下障害 2	摂食・嚥下障害の診察（スクリーニング含む）	下山和弘
8	摂食・嚥下障害 3	検査・評価法（VF）	戸原 玄
9	摂食・嚥下障害 4	検査・評価法（VE）	戸原 玄
10	摂食・嚥下障害 5	間接訓練	下山和弘

11	摂食・嚥下障害 6	直接訓練・段階的摂食訓練	戸原 玄
12	摂食・嚥下障害 7	摂食・嚥下障害への対応 (1 脳血管障害など)	戸原 玄
13	摂食・嚥下障害 8	摂食・嚥下障害への対応 (2 口腔咽頭腫瘍)	戸原 玄
14	摂食・嚥下障害 9	摂食・嚥下障害への対応 (3 訪問歯科診療)	戸原 玄
15	顎口腔機能と障害	顎口腔機能とその障害の考え方	下山和弘

### 評価方法

期末の客観試験、論述試験、提出レポートで総括的評価を行う。講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。随時の小テスト等で形成的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。

### 参考図書等

- ・「わかる摂食・嚥下リハビリテーション I 評価法と対処法」 医歯薬出版
- ・「摂食・嚥下障害の VF 実践ガイドー歩進んだ診断・評価のポイントー」 南江堂
- ・「訪問歯科診療ではじめる摂食・嚥下障害のアプローチ」 医歯薬出版
- ・「歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学」 医歯薬出版
- ・「成人のコミュニケーション障害 入門講座コミュニケーション障害とその回復 2」 大修館書店
- ・「言語障害第 2 版 リハビリテーション医学全書 11」 医歯薬出版

### 留意事項

事前の資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員の Office hour

下山和弘 教授 木 17:00-18:00 k.shimoyama.gohc@tmd.ac.jp

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	発達育成系口腔保健衛生臨床実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3年後期・必修・140時間 4年前期・必修・40時間 単位認定（4単位）は4学年前期（40時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	品田佳世子・石川雅章
授業担当者	寺岡加代、石川雅章、下山和弘、吉増秀實、品田佳世子、遠藤圭子、近藤圭子、白田千代子、大学院医歯学総合研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教職員
主な授業場所	歯学部附属病院内

### 学習目標

歯科診療施設において、発達期にある乳幼児から青少年およびその保護者に対し、チーム医療の一員として、歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

矯正歯科治療における患者の心理、診断および治療法を理解し、矯正歯科治療の診療補助および保健指導を実践する。

### 到達目標

- ・ 患児の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理する。
- ・ 患児および保護者の不安・不満に適切に対応する。
- ・ 歯科診療時に示す患児の行動とその変容に適切に対応する。
- ・ 歯科ユニット各部の名称と機能を説明する。
- ・ 発達期の歯科診療に必要な器材を説明する。
- ・ 診療室への患児および保護者を適切に誘導する。
- ・ 患児および保護者に挨拶して自己紹介する。
- ・ 患児および保護者との信頼関係を築く。
- ・ 個人的、社会的背景等が異なる患児および保護者に、わけへだてなく対応する。
- ・ 患児および保護者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応する。
- ・ 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備する。
- ・ 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮する。
- ・ 患児および保護者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応する。
- ・ 医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てる。

- ・ インフォームドコンセントを行う。
- ・ 乳幼児から青少年に対し、歯科予防処置を実施する。
- ・ 乳幼児から青少年およびその保護者に対し、歯科保健指導を実施する。
- ・ 乳幼児から青少年の歯科診療に際し、診療補助を実施する。
- ・ 矯正装置の取り扱い、口腔の清潔の保持等に関する歯科指導ができる。
- ・ 筋機能療法、咀嚼訓練の必要性を適切に説明する。

#### 授業計画 4 学年前期・必修・40 時間

回	授業題目	授業内容口腔保健学科および歯学科教員	授業担当者
1-5	臨床実習ガイダンス	臨床実習ガイダンス、実習等に関するオリエンテーション	口腔保健学科教員、歯学科教員、歯科衛生士
6-40	矯正歯科外来実習	矯正歯科外来における歯科診療の補助、歯科保健指導	矯正歯科外来教員、歯科衛生士

#### 評価方法

- ・ 実習記録等により総括的評価を行う。
- ・ 実習態度を総括的評価に加味する。

#### 参考図書等

- ・ 新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 新歯科衛生士教本「歯科矯正学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 最新歯科衛生士教本「歯科放射線」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

#### 留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

#### 担当教員の Office hour

石川雅章 教授 随時 [ishikawa.dohs@tmd.ac.jp](mailto:ishikawa.dohs@tmd.ac.jp)  
 品田佳世子 教授 月・金 16:00-18:00 [shinada.ohp@tmd.ac.jp](mailto:shinada.ohp@tmd.ac.jp)

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	成人口腔保健衛生臨床実習Ⅱ
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4学年通年・必修3単位・135時間
科目・ユニット責任者	品田佳世子・吉増秀實
授業担当者	品田佳世子、寺岡加代、石川雅章、下山和弘、吉増秀實、遠藤圭子、近藤圭子、坂本裕次郎、佐々木好幸（う蝕制御学分野）、山崎美幸・岡田昌子・河野章江・小原由紀（非常勤講師）、大学院医歯学研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教職員・歯科衛生士・看護師
主な授業場所	歯学部附属病院内、歯学部 演習室

### 学習目標

主に成人に対し、対象者本位の歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

### 到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理する。
- ・対象者が有する全身疾患について理解する。
- ・歯科診療における対象者の全身管理について理解する。
- ・対象者の不安・不満や表情・行動の変化に適切に対応する。
- ・歯科ユニット各部の名称や機能を説明する。
- ・診療に必要な器材を説明する。
- ・対象者に挨拶して自己紹介する。
- ・対象者との信頼関係を築くことができる。
- ・個人的、社会的背景が異なる対象者に、わけへだてなく対応する。
- ・対象者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応する。
- ・必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備する。
- ・説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮する。
- ・対象者からの質問に適切に答え、その様々な反応に柔軟に対応する。
- ・医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てる。
- ・インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・主に成人に対し、歯科予防処置を実施する。
- ・主に成人に対し、歯科保健指導を実施する。
- ・主に成人者に対し、歯科診療補助を実施する。

#### 授業計画 4 学年通年・必修 3 単位・135 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-5	臨床実習ガイダンス	臨床実習ガイダンス、外来におけるオリエンテーション	口腔保健学科 教員、歯学科 教員、歯科衛 生士
6-61	口腔ケア実習	患者さんを担当した、歯科予防処置、歯科保健指導	口腔保健学科 臨床系教員 非常勤講師 佐々木好幸
62-66	合同クリニカル検討	歯学科と合同の症例検討授業	口腔保健学科 教員、歯学科 教員
67-93	歯周病外来	歯周病外来における歯科診療の補助、歯科保健指導	歯周病外来教 員、歯科衛生 士
94-115	インプラント 外来実習、 顎義歯外来実 習	インプラント外来における歯科診療の補助 顎義歯外来における歯科診療の補助、歯科保健指導	インプラント 外来教員 顎義歯外来教 員、看護師
116-135	歯科麻酔外来 実習 歯科病棟実習	歯科麻酔外来における歯科診療補助 歯科病棟における歯科診療補助、歯科保健指導	歯科麻酔外来 教員、病棟教 員、看護師

#### 評価方法

- ・実習記録、患者さんへのリーフレット等により総括的評価を行う。
- ・出席状況、実習記録、患者へのリーフレット等、実習態度を総括的評価に加味する。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。

#### 参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会  
監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1歯科補綴」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出

版

- ・最新歯科衛生士教本「顎口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

### 留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

### 担当教員の Office hour

吉増秀實	教授	火・木	16:00-18:00	<a href="mailto:h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp">h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp</a>
品田佳世子	教授	月・金	16:00-18:00	<a href="mailto:shinada.ohp@tmd.ac.jp">shinada.ohp@tmd.ac.jp</a>
近藤圭子	講師	随時		<a href="mailto:solan.pvoh@tmd.ac.jp">solan.pvoh@tmd.ac.jp</a>

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	高齢者口腔保健衛生臨床実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 1 単位・45 時間
科目・ユニット責任者	品田佳世子・下山和弘
授業担当者	大渡凡人（高齢者歯科学分野）、下山和弘、大学院医歯学研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教職員・看護師・歯科衛生士・薬剤師
主な授業場所	歯学部附属病院内

### 学習目標

歯科診療施設において主に高齢者に対し、対象者本位の口腔保健活動を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

### 到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理する。
- ・対象者（主に高齢者）が有する全身疾患について理解する。
- ・歯科診療における高齢者の全身管理について理解する。
- ・対象者（主に高齢者）が有する心理的・精神的な問題について理解する。
- ・対象者の不安・不満や表情・行動の変化に適切に対応する。
- ・歯科ユニット各部の名称や機能を説明する。
- ・診療に必要な器材を説明する。
- ・対象者に挨拶して自己紹介する。
- ・対象者との信頼関係を築くことができる。
- ・個人的、社会的背景が異なる対象者に、わけへだてなく対応する。
- ・対象者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応する。
- ・必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備する。
- ・説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮する。
- ・対象者からの質問に適切に答え、その様々な反応に柔軟に対応する。
- ・医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てる。
- ・インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・主に高齢者に対し、歯科予防処置を実施する。
- ・主に高齢者に対し、歯科保健指導を実施する。
- ・主に高齢者に対し、歯科診療補助を実施する。
- ・保健医療チームとして、歯科衛生士に必要な医薬品の知識と取り扱い方法を理解する。

#### 授業計画 4 学年前期・必修 1 単位・45 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	臨床実習ガイダンス	臨床実習ガイダンス	大渡凡人 外来教員
2-41	高齢者歯科外来 (スペシャルケア外来1) 実習	スペシャルケア外来1 (全身疾患を有する高齢者を対象) における歯科診療補助、歯科予防処置、 歯科保健指導	大渡凡人、下山和弘、看護師、 歯科衛生士
42-45	息さわやか外来 スポーツ外来、 薬剤部実習	息さわやか外来における歯科診療補助、歯科予防処置、 歯科保健指導 スポーツ歯科外来における歯科診療補助 薬剤の取扱い、管理	外来教員、看護師、 歯科衛生士、 薬剤師

#### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、実技試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、実習記録、患者へのリーフレット等、実習態度を総括的評価に加味する。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。

#### 参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1歯科補綴」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「顎口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・疾患別内科エマージェンシー対応 高齢者臨床ナビゲーション 大渡凡人著 医歯薬出版
- ・歯科衛生士のための高齢者歯科学 渡邊誠、岩久正明監修 永末出版
- ・脳卒中患者の口腔ケア 植田耕一郎 医歯薬出版
- ・高齢者歯科ガイドブック 植松 宏、稲葉 繁、渡辺 誠編集 医歯薬出版
- ・はじめて学ぶ歯科口腔介護 新井俊二、小椋秀亮監修 医歯薬出版
- ・日本老年歯科医学会監修口腔ケアガイドブック 日本老年歯科医学会監修 口腔保健協会
- ・日本老年歯科医学会監修高齢者歯科診療ガイドブック 日本老年歯科医学会監修 口腔保健協会

## 留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

## 担当教員の Office hour

大渡凡人	准教授	金	17:00-18:00	t. owatari.gerd@tmd.ac.jp
下山和弘	教授	木	17:00-18:00	k. shimoyama.gohc@tmd.ac.jp

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	障害者口腔保健衛生臨床実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 1 単位・45 時間
科目・ユニット責任者	品田佳世子・篠塚 修、近藤圭子
授業担当者	篠塚 修（障害者歯科学分野）、大学院医歯学研究科臨床系教員、 歯学部附属病院臨床系教職員・歯科衛生士
主な授業場所	歯学部附属病院内

### 学習目標

歯科受診に対して障害を有する患者とスムーズにコミュニケーションをとった上で、患者が安心して歯科治療・予防処置・保健指導を受けられるように、知識を確認して、必要な基本的態度、専門的技術を身につける。

### 到達目標

- ・患者および保護者・介護者と挨拶、会話を交わす。
- ・患者を治療椅子へ導入する。
- ・治療中に、患者に対して、適切に言葉かけをする。
- ・精神鎮静法の準備・片付けをする。
- ・患者の全身状態、行動の観察をして、適切に対応する。
- ・患者の情報収集・分析をする。
- ・問診結果から、保健指導に必要な情報を分析して、活用する。
- ・保健指導記録を記載することができる。
- ・自分が行った指導について評価する。
- ・保健医療チームとして、歯科衛生士に必要な検査の知識と技術、検体の取扱い法を理解する。

### 授業計画 4 学年前期・必修 1 単位・45 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	臨床実習ガイダンス	臨床実習ガイダンス	外来教員、 歯科衛生士
2-41	障害者歯科外来 (スペシャルケア外来2) 実習	スペシャルケア外来2における歯科診療補助、歯科予防処置、歯科保健指導	篠塚 修、 歯科衛生士

42-45	歯科アレルギー 外来、歯科心身 医療外来、顎関 節治療部、検査 部実習	歯科アレルギー外来における歯科診療補助 歯科心身医療外来における歯科診療補助 顎関節治療部における歯科診療補助 検査の実際	病院教員、歯 科衛生士、検 査技師
-------	---	--	-------------------------

### 評価方法

実習記録提出、出席状況、ケース履修状況をもって、総括的評価を行う。

### 参考図書等

- ・障害者歯科ガイドブック 森崎市治郎他編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本 「障害者歯科」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・スペシャルニーズデンティストリー 障害者歯科 日本障害者歯科学会編 医歯薬出版

### 留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

### 担当教員の Office hour

篠塚 修	准教授	月～金	16:00-18:00	o. shinozuka. dpd@tmd. ac. jp
品田佳世子	教授	木	17:00-18:00	k. shimoyama. gohc@tmd. ac. jp
近藤圭子	講師	随時		solan. pvoh@tmd. ac. jp

科目名	地域口腔保健衛生臨地実習
ユニット名	地域口腔保健衛生臨地実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修・30 時間 3 学年後期・必修・15 時間 4 学年前期・必修・20 時間 4 学年後期・必修・25 時間 単位認定（2 単位）は、4 学年後期授業の終了時に行う
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
授業担当者	遠藤圭子、近藤圭子、白田千代子、小野寺光江、小原由紀（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室、歯学部 演習室、小学校・病院 等

### 学習目標

対象に合わせた口腔保健活動を展開するために必要な知識と技術を実践的に理解するとともに、その能力を高める。

### 到達目標

- ・学童の歯科保健のニーズを判断して、活動内容を決定する。
- ・学童に対する健康教育を実施、評価して、次への健康課題を提示できる。
- ・入院患者の疾患の様子、全身状態、口腔内状態を把握する。
- ・入院患者に対する援助法を検討し、学生相互に実施する。

### 授業計画

#### 4 学年前期・必修・20 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	オリエンテーション 学童対象健康教育	地域歯科保健活動とは	遠藤
4-6	入院患者の口腔ケア	看護学専攻・口腔保健学科合同授業の進め方、口腔ケアの実際	遠藤、白田 小原
7-13	ベッドサイドにおける患者のケア	バイタルサイン、体位交換、着衣の補助、口腔ケアの実際（相互実習を含む）	白田、遠藤 近藤、小原

14-20	歯科衛生活動の実際	口腔のアセスメント、実践内容の検討	白田、遠藤
-------	-----------	-------------------	-------

#### 4 学年後期・必修・25 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
21-27	学童対象健康教育	事前調査、健康課題検討、教材作成	白田、遠藤、 近藤
28-34	H小学校における健康教育 実習	健康教育の実践と事後評価、報告書の作成	遠藤、近藤
35-41	高齢者対象の健康教育	実習、事後評価、実習報告書の作成	遠藤、白田
42-45	まとめ	実習報告会	遠藤、白田

#### 評価方法

- ・報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。
- ・実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

#### 留意事項

- ・事前配布資料は、繰り返し読んで、確認して実習に臨む。
- ・実習時の服装（ユニホーム、ナースシューズ、ネームプレートの着用、頭髪のまとめ方）、態度、言葉遣いに留意する。
- ・実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切の場合には、実習停止とする。

#### 担当教員の Office hour

白田千代子 講師 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp  
遠藤圭子 准教授 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp  
近藤圭子 講師 随時 solan.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	地域口腔保健衛生臨地実習
ユニット名	高齢者・訪問口腔保健衛生臨地実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4学年前期・必修・45時間 } 2単位 4学年後期・必修・45時間 }
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
授業担当者	遠藤圭子、白田千代子、実習先指導者
主な授業場所	高齢者在宅サービスセンター、訪問歯科診療（居宅、高齢者施設）

### 学習目標

高齢者施設や居宅において、利用者の視点に立った口腔保健活動を実践するために必要な態度、知識、技術を習得して、実践力を養う。

### 到達目標

- ・居宅、施設などの特徴を理解して、利用者へのサービス内容を説明する。
- ・利用者の身体的・精神的・社会的特性に配慮して、問題点を抽出・整理する。
- ・対象者の価値観の多様性を理解して、対応する。
- ・利用者の心理状態や体調の変化に対応する。
- ・口腔ケア、歯科診療に必要な機材を準備する。
- ・スタッフ、利用者、家族とコミュニケーションをとる。

### 授業計画

#### 4学年前期・必修・45時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-6	高齢者施設実習オリエンテーション	高齢者施設の概要と現状の理解 実習の意義と留意点、実習内容 実習報告書について	遠藤圭子
7-12	利用者の理解、コミュニケーション	現状把握、利用者・家族とのコミュニケーションのとり方	遠藤圭子 白田千代子
13-18	高齢者在宅サービスセンターにおける実習	事前情報収集・整理	遠藤圭子 実習先指導者
19-24	高齢者在宅サービスセンターにおける実習	口腔ケア計画（評価法を含む）	遠藤圭子 実習先指導者

25-30	高齢者在宅サービスセンターにおける実習	口腔ケア実施	実習先指導者
37-42	実習報告、まとめ	実習報告書作成、今後の課題	遠藤圭子 白田千代子
43-45	利用者理解、スタッフ・利用者・家族とのコミュニケーションについての総括	利用者理解、スタッフ・利用者・家族とのコミュニケーションのとり方について振り返り	遠藤圭子

#### 4 学年後期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
46-51	訪問歯科診療実習オリエンテーション	訪問歯科診療の概要と現状の理解	遠藤圭子
52-57	訪問歯科診療実習	事前情報収集、整理	白田千代子
58-72	〃	口腔ケア計画、実践、評価	実習先指導者
73-77	実習報告、まとめ	実習報告書作成、事後評価、今後の課題	遠藤圭子
78-84	口腔ケア総括	高齢者の口腔ケア 専門職の活動内容	白田千代子 遠藤圭子
85-90	発表	実習報告書作成、事後評価、今後の課題	遠藤圭子 白田千代子

#### 評価方法

- ・ 報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。
- ・ 実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

#### 留意事項

- ・ 事前配付資料は、繰り返し読んで、確認して実習に臨む。また、実習時の服装、態度、言葉遣いに留意する。
- ・ 実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切の場合には、実習停止とする。

#### 参考図書等

- ・ 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・ 最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防にかかわる人間と社会の仕組み 1・保健生態学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

- ・臨床の口腔生理学に基づく摂食・嚥下障害のキュアとケア 舘村卓著 医歯薬出版
- ・実践訪問口腔ケア 上巻 高江洲義矩監修 クインテッセンス出版
- ・実践訪問口腔ケア 下巻 高江洲義矩監修 クインテッセンス出版

#### **留意事項**

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

#### **担当教員の Office hour**

白田千代子 講師 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp  
遠藤圭子 准教授 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp

科目名	選択臨床・臨地実習
ユニット名	選択臨床・臨地実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年後期・必修 1 単位・45 時間
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
授業担当者	遠藤圭子、近藤圭子、白田千代子、吉増秀實、下山和弘、佐々木好幸、山崎美幸、岡田昌子、河野章江、実習先指導者
主な授業場所	歯学部附属病院、学外施設

### 学習目標

- ・既習した臨床実習および臨地実習で、関心を抱いた場での実習を選択して行うことによって、その領域の知識、技術を深める。
- ・特別な配慮が必要な対象者に対して、対象者本位の口腔保健活動を実施するための、態度、知識、技術を習得する。

### 到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的特性に配慮して、生活上の問題を抽出・整理する。
- ・対象者の価値観の多様性を理解して、対応する。
- ・利用者の心理状態や体調の変化に対応できる。
- ・歯科衛生過程の各段階の意味を理解して、実施できる。
- ・評価結果から、次の課題が提示できる。
- ・専門職間の連携について説明できる。
- ・対象とする方の生活背景を理解して、対応できる。
- ・実習報告書が作成する。

### 授業計画 4 学年後期・必修 1 単位・45 時間

他の臨床実習・臨地実習と並行して、ローテーションを組んで実習する。

### 評価方法

- ・実習報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。
- ・実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科補綴」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「小児歯科」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「口腔外科・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士サブテキスト「臨床実習」 クインテッセンス出版
- ・歯科衛生士サブテキスト「臨地実習」 クインテッセンス出版

### 留意事項

- ・事前配付資料は、繰り返し読んで、確認して実習に臨む。
- ・実習時の服装、態度、言葉遣いに留意する。
- ・実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切の場合には、実習停止とする。

科目名	特論（卒業研究）
ユニット名	特論（卒業研究）
授業の形態	演習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修・60 時間 4 学年前後期・必修・120 時間 単位認定（6 単位）は 4 学年後期終了時に行う
科目・ユニット責任者	石川雅章
授業担当者	口腔保健学科および歯学科教員
主な授業場所	口腔保健学科 第 2 講義室、第 3 講義室

### 学習目標

各学生の知的興味、将来の方向性に沿ってテーマを選択し、計画・立案に基づいて研究を実施する。さらに結果を論文にまとめて十分考察することにより、研究への理解と意欲を培う。

### 到達目標

- ・自分の知的興味、将来の方向性に沿って研究テーマを設定する。
- ・研究テーマに対応した論文の検索と科学的吟味を行い、これまでの知見を整理する。
- ・EBM・EBHC の概念を説明する。
- ・知見や問題点に基づいた研究の計画・立案をする。
- ・実験・調査などの研究を実施する。
- ・実験・調査などの結果を分析整理し、統計学的に解析する。
- ・結果に基づき、新たな問題点と課題を抽出、提起する。
- ・一連の研究成果を論文にまとめ、発表する。

### 授業計画 4 学年前後期・必修・120 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-37	研究実施	研究計画に基づく研究の実施とフィードバック、研究データの整理・分析	口腔保健学科教員、歯学科指導教官
38-43	研究中間発表会準備	中間発表会プレゼンテーションの作成	同上
44-50	研究中間発表会	研究結果の中間発表と討論	同上

51-90	研究の再検討と実施、研究論文の作成準備	中間評価に基づく研究の進め方の再検討、研究の再実施、研究データの整理・分析、研究論文概要版の作成	同上
91-99	研究成果報告会準備	研究成果報告会プレゼンテーションの作成	口腔保健学科教員、歯学科指導教官
100-106	研究成果報告会	研究成果の発表と討論	同上
117-120	論文の作成	研究成果報告会での討論、コメントを加味して卒業研究概要版をアップロードし、かつ本論文を提出	同上

### 評価方法

- ・ 研究中間発表会での発表により総括的中間評価を行う。
- ・ 研究成果報告会での発表により、口腔保健学科全教官による総括的評価を行う。
- ・ 単位認定（6単位）は、3年次から各課題（論文抄録、研究計画書、中間発表会プレゼンテーション用ファイル、成果報告会プレゼンテーション用ファイル、卒業研究論文概要版）のe-learning上への期限内提出、本論文、研究進行表の提出により行う。

### 参考図書等

- ・ 「保健・医療のための研究法入門」、朝倉隆司監訳、協同医書出版社
- ・ 「SPSSによる医学・歯学・薬学のための統計解析」第2版、石村貞夫他著、東京図書

### 留意事項

- ・ 常に指導教官、副指導教官と密接な連絡をとり、助言を得ながら研究を進め、研究進行表の各月欄に認印をもらうこと。
- ・ 平成24年1月末日までに卒業研究論文概要版（A4/6枚）をe-learning上で提出すること。
- ・ 平成24年2月末日までに卒業研究本論文（A4/10枚程度、表紙、要約、アンケート用紙等を含む）を指導教官、および礼状を添えて研究でお世話になった施設等に提出すること。

### 担当教員の office hour

石川 雅章 教授 平日 9:00-18:00 [ishikawa.pohc@tmd.ac.jp](mailto:ishikawa.pohc@tmd.ac.jp)

科目名	社会福祉援助技術現場実習
ユニット名	社会福祉援助技術現場実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年前期（夏季集中）・選択・12 日間（90 時間）以上 単位認定（4 単位）は 4 学年の実習終了後に行う
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	実習先の実習指導者
主な授業場所	社会福祉施設・機関

### 学習目標

社会福祉士として求められる資質や倫理、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際に理解し、支援に必要な技術を体得する。

### 到達目標

- ・社会福祉分野における相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に経験し、実践的な技術等を経験知として整理する。
- ・社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を体験的に把握する。
- ・関連分野の専門職との連携のあり方や具体的内容を把握し、事後学習で整理する。

### 授業計画 4 学年後期（夏季集中）・選択・12 日間（90 時間）以上

実習日程等については、実習受け入れ先と相談の上、決定する。

### 評価方法

実習計画、実習記録ノート、実習報告書および実習指導者評価表により、総括的評価を行う。

### 担当教員の Office hour

坪井 真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	社会福祉援助技術現場実習指導
ユニット名	社会福祉援助技術現場実習指導
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年前後期・選択・37 時間 4 学年前期・選択・46 時間 4 学年後期・選択・7 時間 単位認定（2 単位）は4 学年後期の授業終了時に行う
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	坪井真
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

### 学習目標

- ・社会福祉における相談援助実習の意義について理解する。
- ・授業で学んだ専門知識と相談援助の具体的な実践を結びつけるとともに、実習後は実習体験を意識化し、体系立てていくことをめざす。

### 到達目標

- ・社会福祉における相談援助実習の意義を事前に理解し、実習後は経験知として説明する。
- ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に体験し、経験知として説明する。
- ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、意識化する。
- ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てて整理する。

### 授業計画

#### 4 学年前期・選択・46 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-6	春季実習の振り返り 1	春季実習の振り返り（学習成果と学習課題の整理）	坪井真
7-12	春季実習の振り返り 2	学習成果発表会の準備（プレゼンテーション用資料の作成）	坪井真
13-18	学習成果発表会	春季実習の学習成果と課題に関するプレゼンテーション	坪井真

19-24	実習前指導 1	実習計画書および個人票の作成指導 1	坪井真
25-30	実習前指導 2	実習計画書および個人票の作成指導 2	坪井真
31-35	実習前指導 3	実習計画書および個人票の作成指導 3	坪井真
36-40	実習前指導 4	実習計画書および個人票の作成指導 4	坪井真
41-46	実習前指導 5	実習の事前指導（個別面接）	坪井真

#### 4 学年後期・選択・7 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
47-43	実習事後指導	夏季実習の振り返り（実習報告書の作成指導）	坪井真

#### 評価方法

事前・事後学習の成果による総合的評価を行う。

#### 参考図書等

随時、実習関連資料を配付する。

#### 担当教員の Office hour

坪井 真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

編入4学年  
社会福祉系ユニット

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅱ
ユニット名	地域福祉の理論と方法Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・選択・15 時間 4 学年前期・選択・30 時間 単位認定（3 単位）は 4 学年前期（30 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	坪井真
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

### 学習目標

- ・地域福祉の基本的考え方、地域福祉に係る組織や専門職の役割について理解する。
- ・ネットワーキングをはじめとする地域福祉の推進方法について理解する。

### 到達目標

- ・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について具体的に説明する。
- ・地域福祉の主体と対象について具体的に説明する。
- ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について具体的に説明する。
- ・地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む）の意義と方法及びその実際について具体的に説明する。
- ・地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、サービスの評価方法など）について具体的に説明する。

### 授業計画 4 学年前期・選択・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	地域福祉の実際 1	日本における地域福祉の実際（事例検討）	坪井真
4-6	地域福祉の実際 2	日本における地域福祉の実際（事例検討）	坪井真
7-9	地域福祉の実際 3	日本における地域福祉の実際（事例検討）	坪井真
10-12	地域福祉の実際 4	日本における地域福祉の実際（事例検討）	坪井真
13-15	地域福祉の実際 5	日本における地域福祉の実際（事例検討）	坪井真
16-18	地域福祉の実際 6	日本における地域福祉の実際（事例検討）	坪井真

19-21	地域福祉の実際 7	日本における地域福祉の実際（事例検討）	坪井真
22-24	地域福祉の実際 8	日本における地域福祉の実際（事例検討）	坪井真
25-27	地域福祉の実際 9	日本における地域福祉実践 2（事例検討）	坪井真
28-30	まとめ	授業の振り返りとまとめ、学習成果の確認	坪井真

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・教科書：「地域福祉の理論と方法」（株みらい ISBN978-4-86015-159-1
- ・「厚生指標 国民の福祉の動向 各年度版」 厚生統計協会
- ・「社会福祉小六法 2010 年度版」 ミネルヴァ書房
- ・その他、随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

### 担当教員の Office hour

坪井真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	就労支援サービス
ユニット名	就労支援サービス
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年後期・選択 1 単位・15 時間
科目責任者	坪井真
授業担当者	坪井真
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

### 学習目標

各種の就労支援制度や就労支援に係る組織・専門職、就労支援分野との連携について理解する。

### 到達目標

- ・相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について説明する。
- ・就労支援に係る組織、団体及び専門職について説明する。
- ・社会福祉士と就労支援分野の連携について説明する。

### 授業計画 4 学年後期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション	授業の説明、学習内容の確認、就労支援の概説	坪井真
2	労働の意義	労働の意義	坪井真
3	キャリア発達と 就労支援	キャリアとキャリア発達	坪井真
4	雇用・就労の動向	支援が必要な人たちの課題と社会情勢の影響	坪井真
5	労働施策の概要	労働法規及び就労支援に関する法律の概要	坪井真
6	就労支援制度の概要 1	低所得者の人たちを支援する就労支援制度	坪井真
7	就労支援制度の概要 2	障害のある人たちを支援する就労支援制度	坪井真
8	就労支援サービスの実 施体制 1	行政機関（国、地方自治体、ハローワークなど） による就労支援サービス	坪井真
9	就労支援サービスの実 施体制 2	職業リハビリテーション専門機関による就労支 援サービス	坪井真

10	就労支援に係る専門職の役割と実際 1	社会福祉士と就労支援サービス、事例検討	坪井真
11	就労支援に係る専門職の役割と実際 2	社会福祉士以外の専門職による就労支援サービス、事例検討	坪井真
12	就労支援分野との連携と実際 1	ハローワークを中心とした就労支援サービスの連携状況	坪井真
13	就労支援分野との連携と実際 2	職業リハビリテーション専門機関を中心とした就労支援サービスの連携状況	坪井真
14	就労支援分野との連携と実際 3	教育機関（特別支援学校等）を中心とした就労支援サービスの連携状況	坪井真
15	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	坪井真

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

### 担当教員の Office hour

坪井真 講師 火～金 12:00～12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	福祉行財政と福祉計画
ユニット名	福祉行財政と福祉計画
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年後期・選択 2 単位・30 時間
科目責任者	坪井真
授業担当者	坪井真
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

### 学習目標

福祉行財政の実施体制および福祉計画の意義・目的、計画の主体・方法などについて理解する。

### 到達目標

- ・福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市区町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について説明する。
- ・福祉行財政の実際について説明する。
- ・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について説明する。

### 授業計画 4 学年後期・選択 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	オリエンテーション	授業の説明、学習内容の確認、重要事項の説明	坪井真
3, 4	福祉行政の実施体制 1	福祉事務所や児童相談所などの福祉行政組織	坪井真
5, 6	福祉行政の実施体制 2	福祉行政で働く社会福祉士の役割	坪井真
7, 8	福祉行財政の動向 1	国・都道府県における福祉行財政の動向	坪井真
9, 10	福祉行財政の動向 2	市区町村における福祉行財政の動向	坪井真
11, 12	福祉行財政の課題	国・都道府県・市町村の財政状況と福祉行財政	坪井真
13, 14	福祉行財政の実際	統計資料および事例に基づく福祉行財政の実態	坪井真
15, 16	福祉計画の意義と目的	行政の総合計画と福祉計画、福祉計画の法的根拠など	坪井真
17, 18	福祉計画の主体	福祉計画づくりにおける主体と専門職、住民の関わり方	坪井真
19, 20	福祉計画の方法	計画理論（P D C A サイクルやマネジメント等）	坪井真

21, 22	福祉計画の実際 1	国・都道府県・市区町村の福祉計画	坪井真
23, 24	福祉計画の実際 2	都道府県行政による各種計画と福祉計画	坪井真
25, 26	福祉計画の実際 3	市区町村行政による各種計画と福祉計画	坪井真
27, 28	福祉計画の実際 4	地域福祉計画と地域福祉活動計画の事例	坪井真
29, 30	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	坪井真

### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

### 参考図書等

随時授業中に紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

### 担当教員の Office hour

坪井 真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	福祉サービスの組織と経営
ユニット名	福祉サービスの組織と経営
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年後期・選択 2 単位・30 時間
科目責任者	坪井真
授業担当者	坪井真
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

### 学習目標

福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論およびサービス経営と管理運営の特徴について理解する。

### 到達目標

- ・福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について説明する。
- ・福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について説明する。
- ・福祉サービスの経営と管理運営について説明する。

### 授業計画 4 学年後期・選択 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	オリエンテーション	授業の説明、学習内容の確認、重要事項の概説	坪井真
3-4	福祉サービスの組織や団体 1	社会福祉法人、NPO法人、営利法人、市民団体、自治会・町内会など	坪井真
5, 6	福祉サービスの組織や団体 2	福祉サービス提供組織の定義、組織の特徴など	坪井真
7, 8	福祉サービスの組織や団体 3	福祉サービス提供組織の社会的役割、運営の実態や課題	坪井真
9, 10	福祉サービス提供組織の経営 1	福祉サービス提供組織の経営の実際	坪井真
11, 12	福祉サービス提供組織の経営 2	福祉サービス提供組織の経営を支える財務と会計	坪井真
13, 14	福祉サービス提供組織の経営と法令 1	行政法、民法、個人情報保護法などの関連制度と組織の運営基準	坪井真

15, 16	福祉サービス提供組織の経営と法令 2	人事考課、労働関連法、育児・介護休業法、安全衛生管理	坪井真
17, 18	経営と組織づくり 1	組織に関する基礎理論、組織間ネットワーク、チームアプローチ、リーダーシップ	坪井真
19, 20	経営と組織づくり 2	キャリア・パスの概要（仕組みと意義）、職員研修システム、OJT、OFF-JT	坪井真
21, 22	経営と組織づくり 3	職場のメンタルヘルス対策（現状と課題）	坪井真
23, 24	経営と組織づくり 4	リスクマネジメント、サービス評価の仕組み	坪井真
25, 26	経営と組織づくり 5	スーパービジョン体制、苦情解決の仕組み	坪井真
27, 28	福祉サービス提供組織と社会福祉士	福祉サービス提供組織における社会福祉士の役割と位置づけ	坪井真
29, 30	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	坪井真

#### 評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

#### 参考図書等

- ・随時授業中に紹介する。

#### 留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

#### 担当教員の Office hour

坪井真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	社会福祉相談援助実習
ユニット名	社会福祉相談援助実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期（春季集中）・選択・16 日間（120 時間）または 8 日間（60 時間）以上 4 学年前期（夏季集中）・選択・8 日間（60 時間）または 16 日間（120 時間）以上 単位認定（4 単位）は 4 学年前期授業の終了時に行う
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	実習先の実習指導者
主な授業場所	社会福祉施設・機関

### 学習目標

社会福祉士として求められる資質や倫理、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際に理解し、支援に必要な技術を体得する。

### 到達目標

- ・社会福祉分野における相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に経験し、実践的な技術等を経験知として整理できる。
- ・社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を体験的に把握できる。
- ・関連分野の専門職との連携のあり方や具体的内容を把握し、事後学習で整理できる。

### 授業計画 4 学年前期（夏季集中）・選択・8 日間（60 時間）もしくは 16 日間（120 時間）以上

実習日程等については、実習受け入れ先と相談の上、決定する。

### 評価方法

実習計画、実習記録ノート、実習報告書および実習指導者評価表により、総括的評価を行う。

### 担当教員の Office hour

坪井真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp

科目名	社会福祉相談援助実習指導
ユニット名	社会福祉相談援助実習指導
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年前後期・選択・37 時間 4 学年前期・選択・46 時間 4 学年後期・選択・7 時間 単位認定（2 単位）は4 学年後期授業の終了時に行う
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	坪井真
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

### 学習目標

- ・社会福祉における相談援助実習の意義について理解する。
- ・授業で学んだ専門知識と相談援助の具体的な実践を結びつけるとともに、実習後は実習体験を意識化し、体系立てていくことをめざす。

### 到達目標

- ・社会福祉における相談援助実習の意義を事前に理解し、実習後は経験知として説明する。
- ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に体験し、経験知として説明する。
- ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、意識化する。
- ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てて整理する。

### 授業計画

#### 4 学年前期・選択・46 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-6	春季実習の振り返り 1	春季実習の振り返り(学習成果と学習課題の整理)	坪井真
7-12	春季実習の振り返り 2	学習成果発表会の準備(プレゼンテーション用資料の作成)	坪井真
13-18	学習成果発表会	春季実習の学習成果と課題に関するプレゼンテーション	坪井真

19-24	実習前指導 1	実習計画書および個人票の作成指導 1	坪井真
25-30	実習前指導 2	実習計画書および個人票の作成指導 2	坪井真
31-35	実習前指導 3	実習計画書および個人票の作成指導 3	坪井真
36-40	実習前指導 4	実習計画書および個人票の作成指導 4	坪井真
41-46	実習前指導 5	実習の事前指導（個別面談）	坪井真

#### 4 学年後期・選択・7 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
47-53	実習後指導	夏季実習の振り返り（実習報告書の作成指導）	坪井真

#### 評価方法

事前・事後学習の成果による総合的評価を行う。

#### 参考図書等

随時、実習関連資料を配付する。

#### 担当教員の Office hour

坪井真 講師 火～金 12:00-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp



# 第1学年 履修ユニット

科目名 ユニット名 (英 訳)	<b>口腔保健と専門職</b> The Oral Health Specialist	開講学期 曜日・時限	1年前期 火曜日 3、4時限
対象学年	第1学年	単位数	1単位
受講資格	口腔保健学科	募集人数	
担当教員	口腔保健学科教員		
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method)          自学自習とディスカッションに基づく問題基盤型学習 (PBL) や演習をとおして、口腔保健の基礎知識、保健・医療・福祉の専門職に共通する職業倫理や実務上の態度・姿勢、多職種連携の重要性を学ぶ。</p> <p>●授業の目的 (Primary goal)          (1)口腔保健の基礎知識を理解する。          (2)保健・医療・福祉の専門職に共通する職業倫理や実務上の態度・姿勢を理解する。          (3)保健・医療・福祉の専門職による多職種連携の重要性を理解する。</p> <p>●到達目標 (Objectives)          (1)口腔保健の概要を説明できる。          (2)保健・医療・福祉の専門職に共通する職業倫理を説明できる。          (3)保健・医療・福祉の専門職に共通する実務上の態度・姿勢を説明できる。          (4)保健・医療・福祉の専門職による多職種連携の重要性を説明できる。</p> <p>●授業計画 (Schedule)          第1回 オリエンテーション (口腔保健と専門職を学ぶ意義、本授業の学習方法)              ①シナリオ1の提示      ②学習項目の検討          第2回 ①学習項目の発表      ②ディスカッション          第3回 ①シナリオ2の提示      ②学習項目の検討          第4回 ①学習項目の発表      ②ディスカッション          第5回 ①シナリオ3の提示      ②学習項目の検討          第6回 ①学習項目の発表      ②ディスカッション          第7回 全体発表の準備          第8回 全体発表、学習の振り返りとまとめ</p> <p>●成績評価の方法 (Grading scheme)          ・授業内レポート、グループディスカッションの参加状況で総合的に評価する。          ・本学歯学部試験規則第11条 (期末試験及び中間試験の受験資格) に規定された出席要件を満たさない場合、本科目の単位は認定しない。</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials)          ・授業中に配布する資料。          ・参考書は授業時に紹介する。</p> <p>●担当教員のoffice hour          遠藤圭子 准教授 火 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp</p>			

科目名 ユニット名 (英 訳)	<b>歯科衛生学概論 I</b> Introduction to Dental Hygiene Theory and Practice I	開講学期 曜日・時限	後期 火曜日 1、2、5 時限
対象学年	第 1 学年	単位数	1 単位
受講資格	口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	募集人数	
担当教員	遠藤 圭子		
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method)</p> <p>歯科衛生士の変遷と、歯科衛生活動に必要な専門知識・専門技術の概要および基本事項を理解するとともに、歯科衛生士の主要業務や歯科衛生過程の各場面で必要となる専門知識・専門技術の特徴を知る。</p> <p>●授業の目的 (Primary goal)</p> <p>(1) 歯科衛生士の変遷を知る。  (2) 歯科衛生活動に必要な専門知識・専門技術の概要および基本事項を理解する。  (3) 歯科衛生士の業務や歯科衛生過程の各場面で必要となる専門知識・専門技術の特徴を理解する。</p> <p>●到達目標 (Objectives)</p> <p>(1) 歯科衛生士に必要な専門知識・専門技術の概要を説明する。  (2) 歯科衛生士に必要な専門知識・専門技術の基本事項を説明する。  (3) 歯科臨床の業務で必要となる専門知識・専門技術の特徴を説明する。  (4) 口腔疾患予防の業務で必要となる専門知識・専門技術の特徴を説明する。  (5) 健康教育の業務で必要となる専門知識・専門技術の特徴を説明する。  (6) 歯科衛生過程の各場面で必要となる専門知識・専門技術の特徴を説明する。</p> <p>●授業計画 (Schedule)</p> <p>第 1 回 オリエンテーション  第 2 回 歯科衛生士の専門知識と専門技術  第 3 回 歯科臨床と歯科衛生士の専門知識・専門技術 (医療安全対策を含む)  第 4 回 口腔疾患予防と歯科衛生士の専門知識・専門技術  第 5 回 健康教育と歯科衛生士の専門知識・専門技術  第 6 回 歯科衛生過程と歯科衛生士の専門知識・専門技術 (1)  第 7 回 歯科衛生過程と歯科衛生士の専門知識・専門技術 (2)  第 8 回 学習の振り返りとまとめ</p> <p>●成績評価の方法 (Grading scheme)</p> <p>授業内レポート、グループディスカッションの参加状況、期末試験の結果で総合的に評価する。</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業時に資料を配布する。</li> <li>・ 参考書は授業時に紹介する。</li> </ul> <p>●担当教員のoffice hour</p> <p>遠藤圭子 准教授 火 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp</p>			

科目名 ユニット名 (英 訳)	<b>歯科衛生学概論Ⅱ</b> Introduction to Dental Hygiene Theory and Practice II	開講学期 曜日・時限	後期 火曜日 3、4、5時限
対象学年	第1学年	単位数	1単位
受講資格	口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	募集人数	
担当教員	遠藤圭子		
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method)          歯科衛生士としての職業倫理・行動規範を理解するとともに、また専門職として必要な対人援助の基本的事項および様々な場面において必要となる対人援助の特徴を理解する。</p> <p>●授業の目的 (Primary goal)          (1) 歯科衛生士としての職業倫理・行動規範を理解する。          (2) 歯科衛生業務に必要な対人援助の基本的事項を理解する。</p> <p>●到達目標 (Objectives)          (1) 歯科衛生士としての職業倫理・行動規範を説明する。          (2) 歯科衛生業務に必要な対人援助技術の基本事項を説明する。          (3) 歯科臨床における対人援助技術の特徴を説明する。          (4) 健康教育の場で必要となる対人援助技術の特徴を説明する。          (5) 対象とする人びとを理解する手立てを説明する。</p> <p>●授業計画 (Schedule)          第1回 オリエンテーション          第2回 職業倫理・行動規範          第3回 対人援助の技術          第4回 歯科臨床における歯科衛生士の対人援助技術          第5回 健康教育におけるコミュニケーション          第6回 歯科衛生過程と歯科衛生士の対人援助          第7回 対象の理解          第8回 まとめ</p> <p>●成績評価の方法 (Grading scheme)          授業内レポート、グループディスカッションの参加状況、期末試験の結果で総合的に評価する。</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials)          ・授業中に資料を配布する。          ・参考書は授業時に紹介する。</p> <p>●担当教員のoffice hour          遠藤圭子 准教授 火 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp</p>			

科目名 ユニット名 (英 訳)	<b>臨床体験実習</b> Introduction to Clinical Oral Health	開講学期 曜日・時限	後期 火曜日 2、3、4時限
対象学年	第1学年	単位数	1単位
受講資格	口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	募集人数	
担当教員	口腔保健学科教員		
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method) 多様な場における歯科衛生士の活動の見学体験を通して、歯科衛生士の専門性と社会的役割、専門職としての倫理観、態度、ならびに対人援助の基本を学ぶ。</p> <p>●授業の目的 (Primary goal) (1)多様な場における歯科衛生士の活動を見学体験することにより、歯科衛生士の専門性と社会的役割を理解する。 (2)専門職としての倫理観や態度、対人援助の基本について体験を通して学ぶ。</p> <p>●到達目標 (Objectives) (1)体験した歯科衛生士の活動の実際について説明する。 (2)歯科衛生士の専門的業務と社会的役割について説明する。 (3)歯科衛生士としての倫理観、態度および対人援助の基本を説明する。 (4)歯科衛生士に必要となる専門知識・専門技術の基本事項を概説する。</p> <p>●授業計画 (Schedule) 第1回 オリエンテーション (学習方法と授業スケジュール) 第2回 歯学部附属病院見学 第3回 歯学部附属病院見学 第4回 報告書作成 第5、6回 企業内診療所、歯科関連企業、福祉施設等の見学 第7回 発表の準備 第8回 発表 (学習の振り返りとまとめ)</p> <p>●成績評価の方法 (Grading scheme) 授業の参加状況、報告書の作成内容、発表の結果で総合的に評価する。</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials) 参考資料は授業時に紹介する。</p> <p>●担当教員のoffice hour 白田千代子 講師 火 16:00-17:30 hakuta.gohc@tmd.ac.jp</p>			

科目名 ユニット名 (英 訳)	<b>人体の構造と機能及び疾病</b> <b>人体の構造と機能 I</b> Structure and Function of The Human Body I	開講学期 曜日・時限	後期 火曜日 1、2時限
対象学年	第1学年	単位数	2単位
受講資格	口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	募集人員	
担当教員	杉本 久美子、坂本 裕次郎、井関 祥子		
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method) 人体の正常な構造と機能ならびにその分子的基盤を学ぶことにより、生命現象が営まれるメカニズムを分子レベルから個体レベルに至るまで理解する。</p> <p>●授業の目的 (Primary goal) 人体の正常な構造と機能を理解し、生命現象が営まれるメカニズムを分子レベルから個体レベルへと統合的に理解する。さらに、組織、器官の発生のしくみ、および成長、発育、加齢の過程に伴う構造と機能の変化について理解する。</p> <p>●到達目標 (Objectives)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の構成ならびに構造、機能の概要を理解する。</li> <li>・人体の発生・発達の概要を理解する。</li> <li>・人体の各組織（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織）の基本的構成と働きについて理解する。</li> <li>・骨格系・筋系の構造と機能について理解する。</li> <li>・循環器系の構造と機能について理解する。</li> <li>・血液成分とその働きについて理解する。</li> </ul> <p>●授業計画 (Schedule) 主な内容は、以下のとおりです。</p> <p>第1回 人体の構成・身体の方角用語、細胞から器官系へ 第2回 人体の構成単位—細胞の構成と機能 第3、4回 組織（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織）と器官系 第5回 人体の発生と生後発達 第6～8回 全身の骨格系と骨格筋系、骨格系の形成と成長 第9回 骨格系の機能、骨格筋の構造と働き 第10回 骨格筋の収縮機構、収縮のタイプと疲労 第11回 骨格筋以外の筋と収縮メカニズム 第12回 全身の脈管系の構造 第13回 循環器系の構成 第14回 心臓および血管の働き、循環調節 第15回 血液の成分と働き、血液型</p> <p>●成績評価の方法 (Grading scheme) 期末試験と出席状況による総合評価</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials) 参考書：最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能」全国歯科衛生士協議会監修 医歯薬出版 2010年 「解剖生理学」高野廣子著 南山堂 2003年 「標準生理学」第7版 小澤静司、福田康一郎総編修 医学書院 2009年</p> <p>●担当教員のoffice hour</p> <p>杉本 久美子 教授 火 16:00-18:00 ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp 坂本 裕次郎 講師 随時 y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp 井関 祥子 教授 随時 s.iseki.emb@tmd.ac.jp</p>			

科目名 ユニット名 (英 訳)	<b>人体の構造と機能及び疾病 栄養と代謝</b> Nutrition and Biochemistry	開講学期 曜日・時限	後期 火曜日 1、2、3、4時限
対象学年	1年生	単位数	2単位
受講資格	口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	募集人数	
担当教員	小野寺 光江、森田 育男		
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method)          栄養素の種類と機能、体内での利用などについて学第2学年での食生活教育のための基礎知識を身につける。</p> <p>●授業の目的 (Primary goal)          食物に含まれる各栄養素の種類と機能、それらの消化・吸収・代謝の過程を学ぶとともに、さまざまな食品に含まれる栄養素を理解し、健康の維持・増進のための食生活についての知識を習得する。</p> <p>●到達目標 (Objectives)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康と栄養摂取の関係について説明する。</li> <li>・栄養素の種類と機能を説明する。</li> <li>・栄養素の体内での消化・吸収について説明する。</li> <li>・栄養素の代謝・応答について説明する。</li> <li>・食品に含まれる栄養素を理解し、食品群の種類とその特徴について説明する。</li> <li>・ホルモンによる恒常性の維持について説明する。</li> <li>・ホルモンの分泌と作用メカニズムについて説明する。</li> </ul> <p>●授業計画 (Schedule)</p> <p>第1回 栄養の基礎知識：栄養とは、健康と栄養          第2回 糖質の栄養学：糖質の構造と機能および栄養学的意義          第3回 脂質の栄養学：脂質の構造と機能および栄養学的意義          第4回 タンパク質の栄養学：タンパク質の構造と機能および栄養学的意義          第5回 ビタミンの栄養学：ビタミンの種類と栄養学的意義          第6回 ミネラルの栄養学：ミネラルの種類と栄養学的意義          第7回 消化と吸収：栄養素の消化と吸収          第8回 食品と栄養：食品群の種類と特徴          第9回 生体の構成要素：細胞の役割、生体における水          第10回 糖質の生化学：糖質の代謝・応答          第11回 脂質の生化学：脂質の代謝・応答          第12回 タンパク質の生化学：タンパク質の代謝・応答          第13回 ホルモン：ホルモンによる恒常性の維持          第14回 ホルモン：ホルモンの分泌と作用メカニズム          第15回 まとめ</p> <p>●成績評価の方法 (Grading scheme)          試験と出席状況による総合評価</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials)          最新歯科衛生士教本 「人体の構造と機能2 栄養と代謝」 医師薬出版株式会社 ISBN978-4-263-42819-1          「五訂食品成分表&lt;2011&gt;」 女子栄養大学出版 ISBN978-4-7895-1011-0</p> <p>●担当教員のoffice hour          小野寺 光江 講師 随時 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp          森田 育男 教授 随時 morita.cell@tmd.ac.jp</p>			

科目名 ユニット名 (英 訳)	<b>公衆衛生学</b> Public Health Sciences	開講学期 曜日・時限	後期 火曜日 3時限
対象学年	第1学年	単位数	1単位
受講資格	口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	募集人数	
担当教員	品田 佳世子		
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method)</p> <p>衛生・公衆衛生学の中で、健康の概念やヘルスプロモーション、予防医学を中心とした内容を、環境や地域保健の内容を含め授業およびグループスタディーを行う。 講義および課題をグループで検討し発表する。</p> <p>●授業の目的 (Primary goal)</p> <p>健康、疫学、人口、環境、保健衛生などの基本事項を理解し、ヘルスプロモーションや予防医学を実践するための基礎的知識の習得と新たな発想を展開する方法を学ぶ。</p> <p>●到達目標 (Objectives)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の概念を説明する。</li> <li>2. 疫学について説明する。</li> <li>3. 人口統計について説明する。</li> <li>4. 環境による健康への影響を説明する。</li> <li>5. 地域保健、母子保健、学校保健、成人・老人保健、産業保健、精神保健、国際保健について説明する。</li> <li>6. ヘルスプロモーション、予防医学の基本概念と実践方法について説明する。</li> </ol> <p>●授業計画 (Schedule)</p> <p>第1回 総論、健康の概念、ヘルスプロモーション、予防医学、グループ課題 第2回 疫学 第3回 人口 第4回 健康と環境 第5回 地域保健、母子保健、学校保健 第6回 成人・老人保健、産業保健 第7回 精神保健、国際保健、地域保健推進計画 第8回 ヘルスプロモーション、予防医学の実践についてグループ討議、発表</p> <p>●成績評価の方法 (Grading scheme)</p> <p>試験、グループ発表、レポート、出席状況を総合評価</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials)</p> <p>教科書：最新歯科衛生士教本『保健生態学』（歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1） 医歯薬出版 参考書：厚生省の指標 臨時増刊「国民衛生の動向」、厚生統計協会 「シンプル衛生公衆衛生学」 南江堂</p> <p>●担当教員のoffice hour</p> <p>品田佳世子 教授 火・金 16:00-18:00 shinada.pvoh@tmd.ac.jp</p>			

科目名 ユニット名 (英 訳)	<b>社会保障 I</b> Theory of Social Security I	開講学期 曜日・時限	後期 火曜日 3時限 (2回) 4時限 (10回) 5時限 (3回)
対象学年	1年生	単位数	2単位
受講資格	口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	募集人数	
担当教員	坪井 真		
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method) 社会保障制度の基礎的知識および社会保障と口腔保健の関連性を学ぶとともに、少子高齢社会における社会保障制度と保健・福祉・医療の実際について理解を深める。</p> <p>●授業の目的 (Primary goal) (1) 社会保障制度の基礎的知識および社会保障と口腔保健の関連性を理解する。 (2) 少子高齢社会における社会保障制度と保健・福祉・医療の実際を理解する。</p> <p>●到達目標 (Objectives) (1) 社会保障制度の目的と機能を説明する。 (2) 社会保障と口腔保健の関連性を説明する。 (3) 少子高齢社会における社会保障制度の課題を説明する。 (4) 社会保障制度と保健・福祉・医療の実際を関係づける。</p> <p>●授業計画 (Schedule) 第1回 人々の暮らしと社会保障制度 第2回 口腔保健と社会保障制度 第3回 少子高齢社会における社会保障制度 第4回 社会保障制度と保健・福祉・医療 (1) 第5回 社会保障制度と保健・福祉・医療 (2) 第6回 社会保障制度と保健・福祉・医療の実際 (1) 第7回 社会保障制度と保健・福祉・医療の実際 (2) 第8回 社会保障制度と保健・福祉・医療の実際 (3) 第9回 社会保障制度と保健・福祉・医療の実際 (4) 第10回 社会保障制度と保健・福祉・医療の実際 (5) 第11回 日本と諸外国の社会保障制度 第12回 少子高齢社会における社会保障制度の課題 (1) 第13回 少子高齢社会における社会保障制度の課題 (2) 第14回 少子高齢社会における社会保障制度の課題 (3) 第15回 授業のまとめ</p> <p>●成績評価の方法 (Grading scheme) ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。 ・グループディスカッション (事例検討など) の参加状況を評価に加味する。 ・定期試験を実施し、総合的に評価する。</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials) ・授業中に配布する資料。 ・参考書は授業時に紹介する。</p> <p>●担当教員のoffice hour 坪井 真 講師 火 11:50-12:50 tsuboi.fohc@tmd.ac.jp</p>			